岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成8年度)

平成9年3月

岩手県教育委員会



埋蔵文化財は、私達の祖先より永く培われてきた貴重な歴史的財産であります。私 達はそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき・活用し、そして後世に伝 えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況に おかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、 遺跡の性格・所在地・範囲を性格に示すことが必要であることはいうまでもありませ ん。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、現在確認されている遺跡数は10,000余箇所にも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成8年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成9年3月

岩手県教育委員会

教育長 細屋 正勝

例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成8年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の 協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地形図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名のつけられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局文化課の佐々木勝主任文化財主査、佐藤 嘉広主任、鈴木徹文化財調査員、佐々木務文化財調査員が担当した。なお、整理については下記の方々の ご協力をいただいた。

側岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、菅原絹子、平沢祐子、桑野真理

8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目 次

序文	
例言	

I	発掘調査
1	一般国道 4 号花巻東バイパス事業(下似内遺跡)
2	一般国道 4 号矢巾拡幅事業(島遺跡)
3	一般県道相去飯豊線新九年橋橋梁整備事業(九年橋遺跡)
4	担い手育成基盤整備事業宮野目地区(庫理遺跡) 31
5	県営ほ場整備事業人首川東部地区(岩谷堂橋本 I 遺跡) 35
6	担い手育成基盤整備事業真城地区(砂川遺跡)38
II	試掘調査
1	三陸縦貫自動車道建設山田道路(房の沢IV、沢田 I 遺跡)
2	三陸縦貫自動車道建設大船渡三陸道路(萱中III遺跡)49
3	胆沢ダム建設事業(尿前 II 、馬留遺跡)50
4	北上川上流改修事業川崎地区築堤工事(河崎の栅擬定地)52
5	山王海(二期)農業水利事業山王海ダム第4号付替道路工事(山王海館跡) 53
6	盛岡南部農業水利事業西部揚水機及び西部用水路工事(オミ坂遺跡)
7	東北新幹線建設工事(工事用進入路等)(野沢 I 、IV遺跡)
8	東北新幹線建設工事(芦名沢 I 遺跡)
9	一般国道459号大平地区道路特殊改良(荒神社前遺跡)58
10	主要地方道一関北上線立花地区道路改良(館 I 遺跡) 59
11	主要地方道水沢米里線桜沢地区道路改良工事(佐野原遺跡)60
12	二級村道川井線川井地区市町村道整備代行事業(成谷遺跡)61
13	二級村道川井線川井地区市町村道整備代行事業(大平遺跡)62
14	一般国道283号県単道の駅整備事業(寒風 I 遺跡)63
15	ふるさと農道緊急整備事業唐戸崎地区(唐戸崎、唐戸崎 II 遺跡) 64
16	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区(北郡山遺跡) 65
17	担い手育成基盤整備事業大巻地区(赤川館跡、大巻長沢尻遺跡)66
18	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業長岡地区(東長岡天王II 、沼田遺跡)68
19	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業綾織地区(谷地舘遺跡)70
20	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区(甲子遺跡)71
21	県営ほ場整備事業人首川東部地区(岩谷堂橋本 I 遺跡他) ·······72
22	
23	
24	
25	
26	中山間地域総合整備事業新町地区(上の山VI・横間 II 遺跡) ·······················79

27	担い手育成基盤整備事業徳岡地区(板子沢遺跡)81
28	担い手育成基盤整備事業徳岡地区(大橋遺跡)	82
29	ふるさと農道緊急整備事業小森林地区(小森林	館跡)83
30	その他の試掘調査	84
III	分布調査	87
	一般県道山田線薄衣地区道路改良事業	国営かんがい排水事業胆沢平野地区
	国営農地再編整備事業胆沢西南部地区	盛岡広域都市計画及び雫石都市計画公園事業 9・7・
	ふるさと農道緊急整備事業小森林地区	1号御所湖広域公園町場地区オートキャンプ場整備
	広域農道整備事業胆沢南部地区	砂防ダム築造事業(関上地区)
	村道川井線川井地区	緊急地方道整備事業(尾田地区)(市町村道整備代行)
	大川目地区宅地造成事業	北上川上流流域下水道事業
	短大地区宅地造成事業	担い手育成基盤整備事業原体地区
	農業水利事業若柳取水口・穴山幹線水路工事	開拓地整備事業小松山地区
	一般国道 4 号金田一バイパス	一般国道283号仙人峠道路改築事業
	一般県道碁石海岸線	担い手育成基盤整備事業高倉地区
	緊急地方道整備事業世田米地区	一般国道283号仙人峠道路改築事業
	緊急地方道整備事業一関北上線	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業新堀地区
	ふるさと農道緊急整備事業唐戸崎地区	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業新堀地区
	広域営農団地農道整備事業西磐井地区	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業新堀地区
	担い手育成基盤整備事業奥玉地区	一般県道衣川水沢線福原地区道路改良工事
	中山間地域総合整備事業奥玉地区	短大地区宅地造成事業
	ため池等整備事業下田上堰地区	国道 4 号拡幅工事
	主要地方道一関北上線生母地区、一般県道前沢原	東山線道路改良事業
IV	貝塚調査事業	93
V	写真図版	99

I発掘調査

1 一般国道 4号花巻東バイパス事業関連調査

下似内遺跡 (ME26-0226)

所在地:花巻市下似内地内

事業者:建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日:平成8年9月8日~9月27日

本遺跡は北上川と猿ケ石川の合流点北側に位置し、北上川右岸の北東〜南西に延びる自然堤防上に立地する。標高は75mほどであり、現況は道路・宅地・畑地および水田である。本事業に関連する市道部分については、平成7年10月に花巻市教育委員会によって試掘調査が行なわれており、焼土遺構と土師器が検出されている。本線部分に関しては平成8年3月に岩手県教育委員会文化課が試掘調査を行ない、竪穴住居跡2棟を確認している。

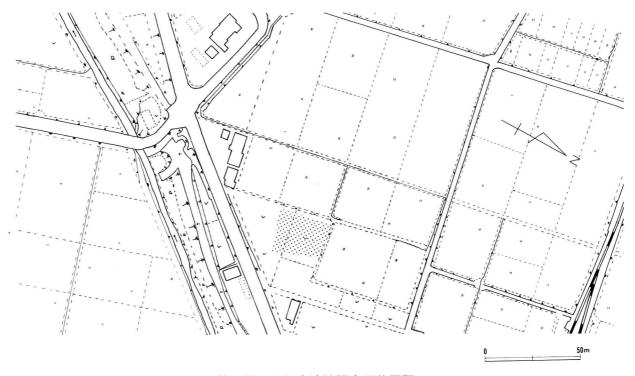


第1図 下似内遺跡の位置

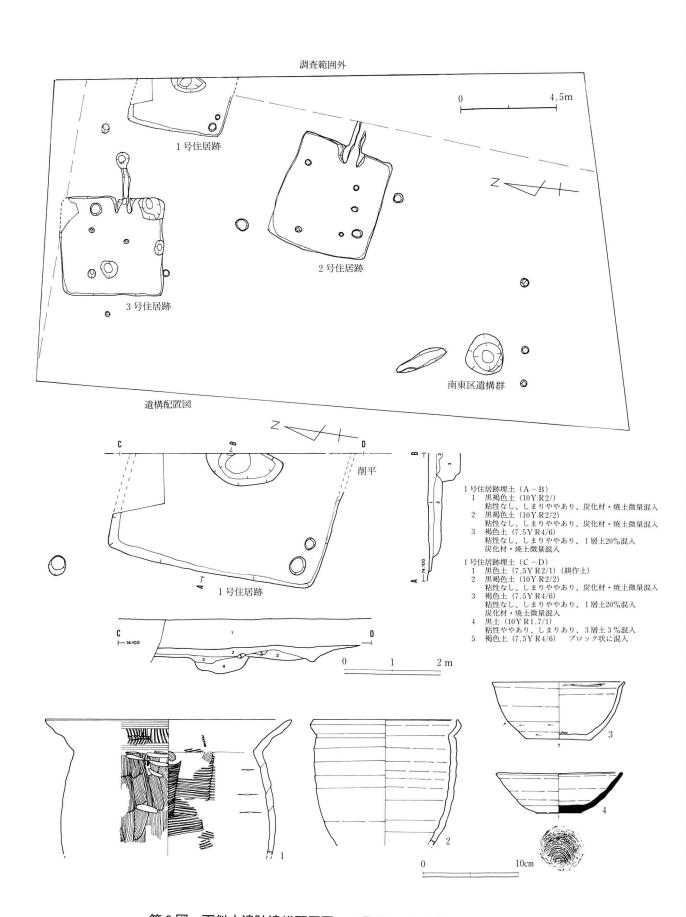
今回の調査はこの試掘調査の結果をうけて、約400㎡の範囲を記録保存を目的として実施されたものである。 調査の結果、試掘調査で確認された平安時代の竪穴住居 2 棟を含む住居跡 3 棟と、縄文時代と考えられる陥 し穴、土坑などが検出された。

1号住居跡(第3図)

調査区域の北東側で検出された。住居跡の1/2ほどが調査区域からはずれている。カマドは検出されていないが、東側と推定され、主軸は東西から10°ほど東偏する。検出された西辺から1辺4.4mほどの方形隅丸形を呈すると考えられる。埋土は黒褐色土が基本で、炭化材粒・焼土粒を微量含んでいる。その上に黒色の耕作土が乗る。また床面のほぼ全面が地山の褐色土と黒褐色土を混ぜて15cm~20cmほどの厚さで貼られており、住居跡中央部分の床面で焼土層が形成されている。また、住居跡中央部分に貼り床の下から長径170cmの楕円



第2図 下似内遺跡調査区位置図

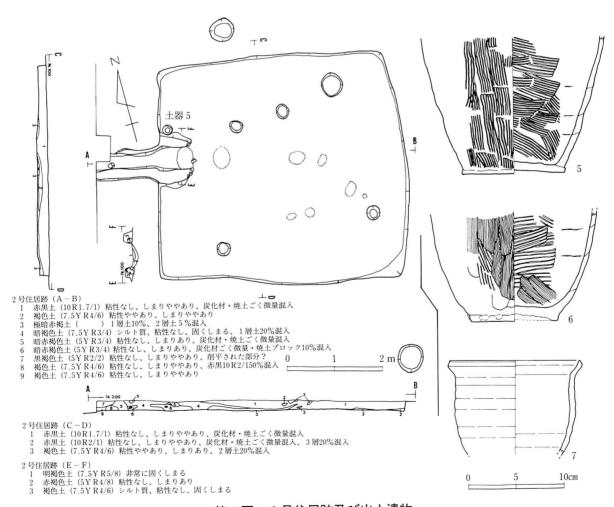


第3図 下似内遺跡遺構配置図・1号住居跡及び出土遺物

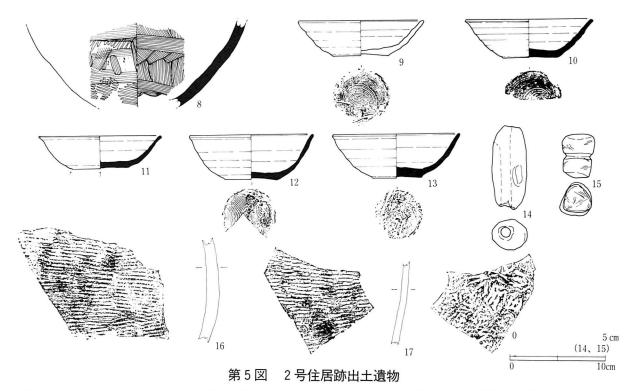
形もしくはタマゴ形の土坑が検出されている。地山層を約40cmほど堀り込んだもので、底面は船底型を呈する。埋土は黒色土で褐色土がごく微量混在する。この埋土中から土器 4 および土師器片数点が出土している。1号住居跡で出土した遺物のうち 4 点を図化した(第3図)。1 は非ロクロ成形の甕形土師器で、内外面ともハケメ調整・ナデ調整されている。2 はロクロ成形の小型甕形土師器で、体部は剝離が激しいが一部煤が付着している。3 は住居跡中央部の焼土付近出土の杯形土師器で、回転糸切後回転ヘラケズリ調整、内面は黒色処理・ミガキがみられる。底部から体部1/3ほどにかけて再調整が見られる。4 は坏形須恵器で、灰白色を示し回転糸切痕を留める。

2号住居跡(第4図)

1号住居と同様に主軸は 10° ほど東偏し、煙道の一部および煙出は失われている。1号住居より規模がやや大きく、 $4.5 \,\mathrm{m} \times 5 \,\mathrm{m}$ の方形隅丸形を示す。床面はほぼ全面にわたって褐色土と黒褐色土を混ぜて $15 \,\mathrm{cm} \sim 20 \,\mathrm{cm}$ ほどの厚さで貼られており、数カ所に焼土層を形成している。カマドと煙道は芯材に石材を使用し、シルト質土で固く叩き締められている。出土遺物のうち5はカマド脇右側で、6は左袖前で検出された。いずれも口縁部は失われているが、5は両面ともハケメ調整が、6はハケメ・ナデ調整がなされている。7はロクロ成形の小型甕型土師器。8は甕型須恵器で両面ともナデ調整で外面にはタタキメがのこる。 $9 \sim 13$ は坏型須恵器で9は橙色を示し、口縁部にかけては灰白色で回転糸切、10、12、13は灰白色でいずれも回転糸切、11のみ灰色へラ切である。そのほか14土錘、15石製品が出土、縮尺1/2で図化した。16は外面にタタキメ、17は



第4図 2号住居跡及び出土遺物



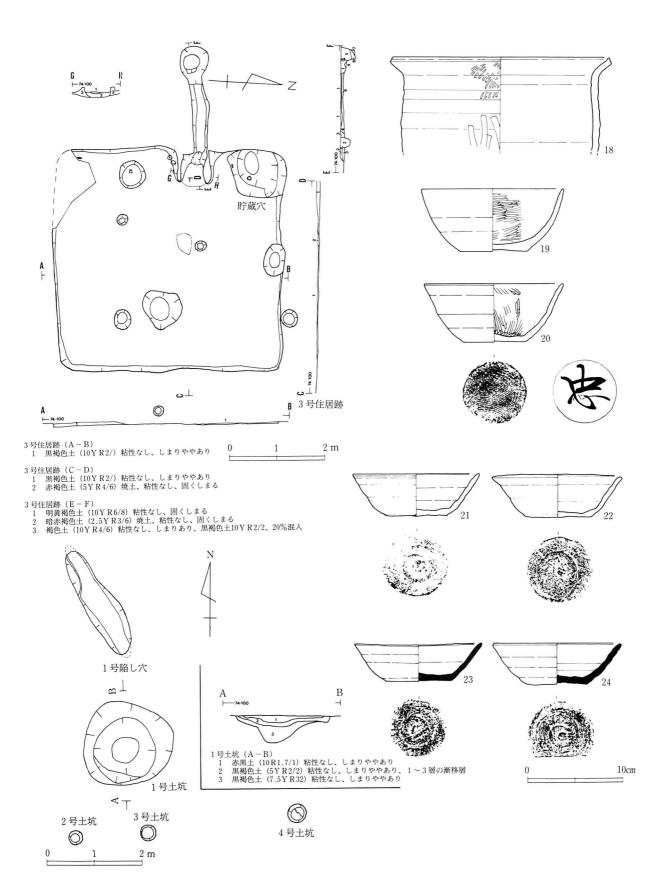
両面にタタキメが認められる。いずれも縮尺は1/4で図化した。また、住居中央部で椀型滓が出土しており、 床面の焼土との関連も考えられる。

3号住居跡 (第6図)

調査区域北側で検出された。主軸はほぼ東西で一辺4.5mの正方形プランを持つ住居跡で、1号・2号住居跡とは印象を異にする。上部削平が進んでおり、壁面は5cmが最大であり、削平は一部床面に及び、さらに貼床下部にも達していると考えられる。住居内には土坑が複数認められ、うちカマド右側のものは貯蔵穴と考えられる。床面より40cmほどの深さの船底型を示し、住居と同質の黒褐色土で焼土粒を微量含む。カマドは石材を心材としており、褐色土・黒褐色土混じりの土で構築されている。煙出は径50cm深さ35cmの円形を示す。煙道部分は170cmほどで北側に僅かに湾曲する。カマド焚口部分および住居中央部分に厚さ10cmほどの焼土層が形成されている。出土土器は7点図化した。18はロクロ使用の甕型土師器で口縁部にタタキメを有し、体部には一部ケズリ痕が認められる。19は杯形土師器で回転糸切後回転ヘラケズリ調整、内面は黒色処理・ミガキがみられる。20は糸切で底部に墨書が施されている杯型土師器である。21・22は酸化熔焼成による杯型土器で橙色を示し、特に22は器形に歪みがある。23、24は灰白色を示す杯型須恵器で24は内外面ともススが付着している。21〜24はいずれも回転ヘラキリによる。21、23はカマド左袖付近で、22、24は貯蔵穴内で検出された。このように3号住居跡は1号および2号住居跡とは明らかに時期差を持つものと考えられる。1号および2号住居跡は9世紀末〜10世紀のものであるのに対し、3号住居跡は9世紀前半のものであると考えられる。

南東区遺構群(第6図)

調査区域南東側で検出された。 1 号陥穴は上幅が最大で約50cm、深さは85cmほどである。 1 号土坑は最大径 2 m、最深部60cmの円形すり鉢状の土坑であり、最深部で礫層に当たる。 $2\sim3$ 号土坑は径 $25\sim30$ cm、深さ $15\sim20$ cmほどの柱穴状の土坑である。これらの遺構内部から遺物は検出されなかったが、付近の表土から縄目文様のある土器小片 1 点が検出されている。



第6図 3号住居跡及び出土遺物・南東区遺構群

2 一般国道 4 号矢巾拡幅事業関連調査

島遺跡 (LE57-1141)

所在地:紫波郡矢巾町大字土橋第10地割地内

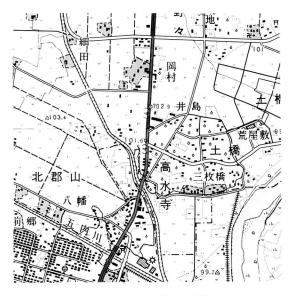
事業者:建設省岩手工事事務所

調査期日:平成8年5月20日、6月3~5日

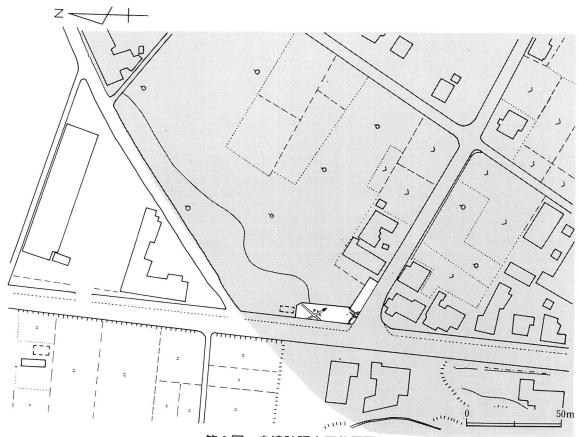
6月24日 (4日間)

遺跡は岩崎川と北上川に挾まれた沖積地の中の微高地上に立地し、標高は102m前後、周囲との比高は $1\sim2$ mである。

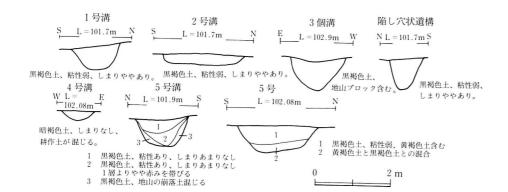
調査は3回に亘って行われた。まず5月に国道4号の東西両側の拡幅部分について全体的に試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無等を確認している。この段階で、国道4号の西側は現状では微高地の一部と見えるが実際には厚いところで2mを越すほどの厚い盛土が認められ、一部を除き本来は岩崎川の氾濫原の低湿地で、遺構・遺物とも確認できなかった。東側ではリンゴ畑で溝跡が確認され、文化課が再度調査を行うこととなった。



第7図 島遺跡位置図



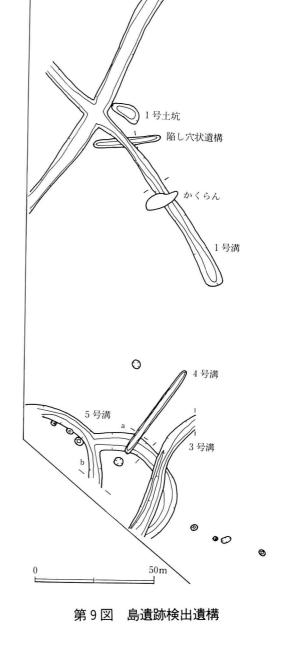
第8図 島遺跡調査区位置図



6月に、その溝跡の調査を行い、溝跡以外に陥し穴 状遺構、柱穴状ピット、土坑などの遺構と平安時代の 遺物が確認された。溝跡は5条検出されている。1号 溝と2号溝は調査区の北側にあり、X字状に交差して いるが、時期差は不明瞭である。陥し穴状遺構を切っ ており、周囲から土師器片が出土しているため古代の 溝跡の可能性が高い。3号溝は5号溝(円形周溝?) を切っている。時期は不明だが、一部に段が認められ る。4号溝は埋土の様子からごく新しい耕作などに関 連する溝跡と考えられる。

土坑、柱穴状ピットについては性格は不明だが柱穴 状ピットは埋土の状況から比較的新しいものと推定さ れる。

今回の調査区では平安時代を中心とする遺構・遺物 が確認された。もっと広い範囲の状況が判れば今回検 出された遺構の性格や遺跡の中での位置づけがよりは っきりすると思われる。



3 新九年橋建設事業関連調査

(九年橋遺跡第12次調査)

九年橋遺跡 (ME66-1080)

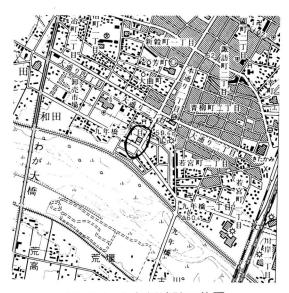
所在地 岩手県北上市九年橋3丁目8番及び11番

事業者 岩手県北上土木事務所

調査期間 平成8年7月1日~24日(15日間)

1 従来の調査

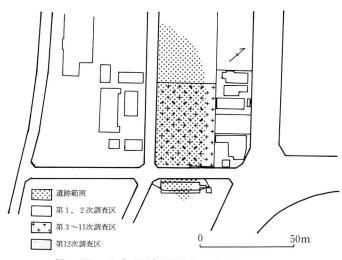
本遺跡は1973年以来11次にわたって発掘調査が実施されてきており、低湿地に立地する縄文時代晩期後半の遺跡として全国的に著名である。遺跡周辺地域の宅地化が進められてきたことにより、開発計画に先立って事前の緊急調査が実施されている。いずれも北上市教育委員会が調査主体であるが、1・2次調査においては草間俊一氏(故人、当時岩手大学)が、3次以降においては藤村



第10図 九年橋遺跡の位置

東男氏(慶応義塾女子高)・稲野裕介氏(北上市教育委員会)等が現場の指揮に当たっている。1・2次調査については詳細な報告が出されていないため、3次~11次調査の成果を11次調査報告書(北上市教委1988)によってまとめると以下のとおりである。

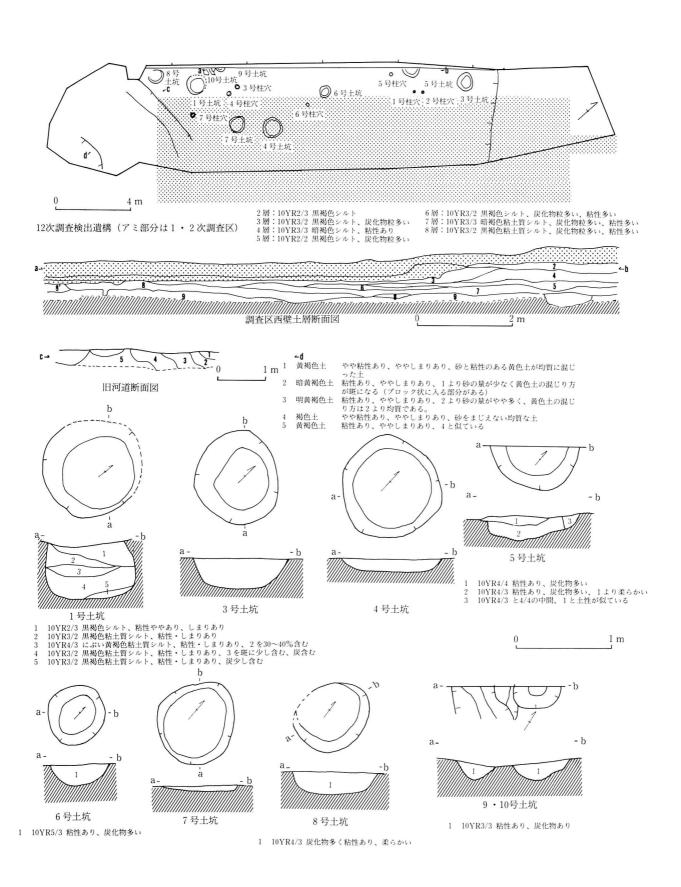
- (1) 調査総面積; 1260m²
- (2) 検出遺構;竪穴住居跡(2棟のみ晩期前半)・石囲炉・焼土遺構・土坑・配石遺構等
- (3) 出土遺物;土器(実測済のみ)3167点、石器類(石製品含む)4207点、土製品1559点、骨角器類9点、 その他ソバ花粉
- (4) 遺物出土状態;土器の完形品を中心としてまとまりを持って出土。しかも半数以上は破損のない出土 状態を示す。
- (5) 遺跡の形成についての解釈;和賀川流域の窪地が一時的に乾燥し、晩期前半の遺構が形成された。その後一時的に冠水するが、再び遺跡南側より順次乾燥して晩期後半の遺構が形成された。このことは、 花粉分析からも裏付けられる。



第11図 九年橋遺跡調査区位置図

- (6) その他;遺物の考察については、別に数多くの成果が公表されている。
- 2 調査範囲と層序(第11,12図)

今回の調査対象範囲は、A地区のうち第 1、2次調査の際に掘り残されていた部分 である。遺跡を寸断する南北に走る市道の 東側では、上部に若干の盛土整地層がのる だけで、幅約1mにわたって遺物包含層が ほとんど破壊されることなく残存している のが確認された。調査区グリッドの設定は 南北市道を軸線として独自に設定した。な お、調査に際し北上市在住の稲野彰子氏の



第12図 九年橋遺跡調査区平面図及び断面図(上)、土坑平面図及び断面図(下)

指導をいただいた。

基本層序は以下の通りである。

I 層;盛土層

II層;旧耕作土層(旧水田耕作土)

III層;遺物包含層($3\sim11$ 次調査では $0\sim3$ 層の4層に細分、今回は $2\sim8$ の7層に細分)

IV層;包含層直下土層(上部で遺物包含、遺構確認面、3~11次調査の4層、今回は遺物を包含している 部分を9層と命名)

V層;地山層(上位で黄褐色~青灰色砂層、下位で礫層)

(3~11次調査のIII層の細分)

2 層; 10 Y R 2/3 黒褐色シルト――― 0 層相当

3 層;10YR3/2 黒褐色シルト、炭化物粒多い----1 層相当

4層;10YR3/3 暗褐色シルト、粘性あり-

5 層; 10 Y R 2/2 黒褐色シルト、炭化物粒多い----2 層相当

6層;10YR3/2 黒褐色シルト、炭化物粒多い、粘性あり―

7層:10YR3/3 暗褐色粘土質シルト、炭化物粒多い、粘性あり-

8 層;10 Y R 3/2 黒褐色粘土質シルト、炭化物粒多い、粘性あり――3 層相当

3 検出遺構 (第12図)

(1)土坑

7基検出されている。検出面はいずれも9層上面である。フラスコ状を呈する土坑と浅皿状を呈する土坑の2類に大別される。平面形は円形を基調とし、1 に以下の径となる。調査区南側の土坑埋土中において器面が風化磨滅した晩期前半の土器片をやや多く含むものの、晩期後半期の遺物量が多い。その他の土坑埋土からは土器片が若干出土した。出土遺物から、所属時期はいずれも晩期後半期であると考えられる。

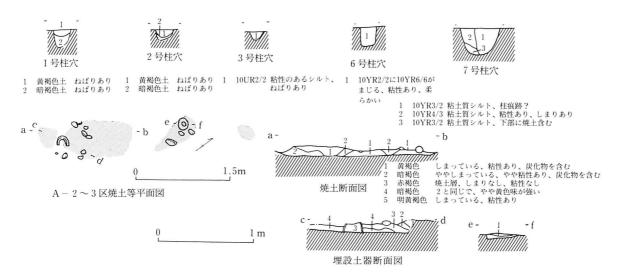
1号土坑 平面形が円形を呈している。確認面での径約112½。深さ約60½。底面がやや広がる形状で断面形がフラスコ状を呈している。埋土の上部は9層と類似した土壌で、掘り込みの識別は困難である。晩期前半期の遺物は埋土の比較的上部で出土する。埋土中部より下(3層以下)では、晩期後半期の細かな土器片が出土している。なお、土層観察のため調査の初期の段階で行った深掘区によって、土坑北側が破壊されることとなった。

3号土坑 平面形がいびつな円形を呈する。今回の調査区では最も北側に位置している。確認面からの深さは325°前後。浅皿状を呈している。晩期後半期の深鉢が出土しているほか、前半期の小土器片が若干出土する。

4号土坑 平面形がほぼ円形を呈する浅皿状の土坑。遺構確認面は 9層上面と考えられるが、この部分は $1 \cdot 2$ 次調査区にあたっていて上部が攪乱を受けており、詳細については不明である。 $1 \cdot 2$ 次調査区内で 検出されている。本来の確認面は、さらに上部と考えられる。深さは $12\xi^{\nu}$ 前後。

5号土坑 調査区西側の土層を観察した壁際で検出されている。平面形ほぼ円形を呈すると考えられる。 埋土は、激しい湧水のためかかなり軟らかい。遺構確認面は、9層上面である。出土遺物はいずれも小片であるが、晩期後半期のものが圧倒的に多い。

6号土坑 断面がボール状を呈するほぼ円形の小土坑。9層上面で確認されている。出土遺物は晩期後半期の小土器片。



第13図 九年橋遺跡検出遺構等平面図及び断面図

7号土坑 1・2次調査区内で、わずかに円形の掘り込みが確認されている。晩期後半期の土器片が出土している。

8号土坑 平面がほぼ円形を呈すると考えられる土坑。深さ255°前後。道路工事等の際に調査区の南側ほど削平が著しい状況が観察され、土坑の上部が一部失われている。同時に、旧河道と考えられる東西に細長く延びる落ち込みの縁にも当たっている。埋土中の出土遺物は晩期後半期が中心であるが、表面の磨耗が著しい。

(2)柱穴跡

土坑のうち小規模で、柱穴跡状を呈するものを特に区別した。 7 基検出されている。 4 号は深さ50葉を計るが、その他は20ξ*前後である。調査範囲が限られていたことから、これらの遺構から明確に上屋を構成することは困難である。 7 号柱穴跡では、柱痕状の埋土が識別されている。

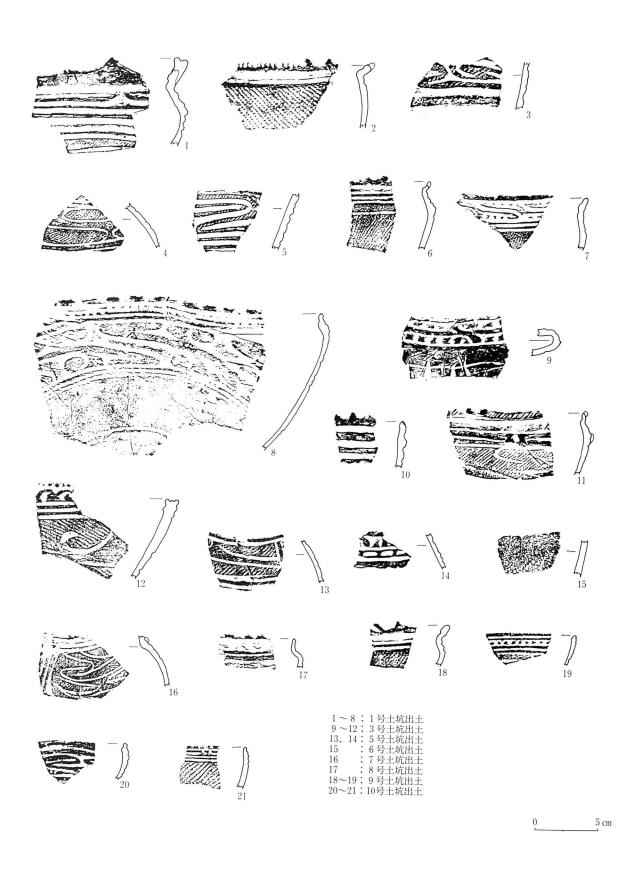
(3)焼土

8層中で3基検出された。1号焼土は径1気以上の広がりを持つ。複数の焼礫が同時に検出されたことや、埋設土器状の深鉢が隣接して確認されたことなどから、当初竪穴住居等に伴う炉跡の可能性も考えた。しかし、焼土は軟らかくいずれも厚さは $10^{5^{\circ}}$ 前後で、ブロック状に点在していることから、現段階では現地性のものではないと判断している。

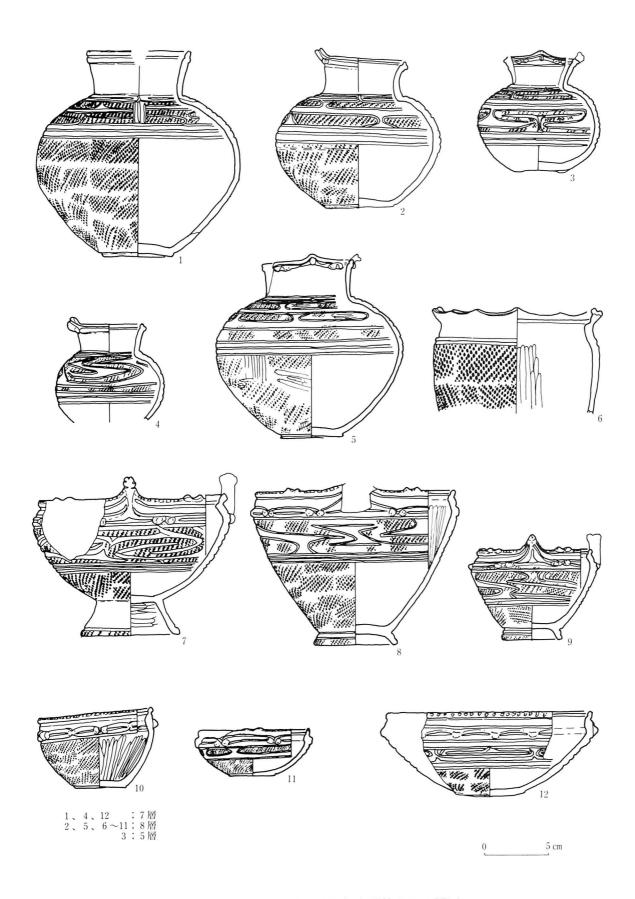
4 考察

第12次調査で新たに付け加えられそうな事実及び解釈は次の通りである。

- (1) 現在確認される遺物包含層の広がりを規定する要因が明らかになったこと
- (2) IV層の形成について新たな解釈が提示できたこと
- (3) 遺物包含層の形成過程を復元できたこと
- (4) 土器の残存状況が他の調査地点とは異なっていたこと
- (5) 遺跡付近で剝片剝離が頻繁に行われていたこと 以下にその根拠を示す。
 - ①遺跡の微地形、遺跡の形成過程について



第14図 九年橋遺跡遺構内出土土器



第15図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(1)

ア 遺跡付近の旧微地形 (第12図)

調査区南側に溝状の落ち込みが検出された。これは1・2次調査でも確認されており、旧河道の埋没と考えられるものである。砂質の土壌が堆積し、磨滅した縄文土器の微細な破片が含まれている。このことより、旧和賀川が九年橋遺跡廃絶後に遺跡南側の遺物包含層を浸食したものと考えられる。現在確認される遺物包含層の広がりは、この旧河道の北岸にあたると考えられる。調査区北側は、前回までの調査と同様に9層と同じレベルで段丘礫層が確認され、遺物・遺構等は見られないが、本来高い面であって上部が浸食されて現状を呈している可能性が考えられることから、遺跡の広がりを慎重に検討する必要がある。

イ 遺物包含層の形成過程(第12図)

遺物包含層はIII層(7層に細分)であるが、IV層上部(9層)に若干の遺物が含まれる。従来の報告では、この状況を遺物包含層が形成される時点での低湿地的環境として理解されている。しかし、この層は暗黄褐色シルト質の土壌であり、滞水によるグライ化の痕跡は認めがたかった。他の地点の調査では、この層を間層として下部に晩期前半の遺構が検出されている。この間層は河川作用によることが確実である。また、最上面で複数の遺構が確認されることから、晩期後半の段階では安定した面を形成していたと考えたほうが合理的である。この層の上部(9層)に含まれる土器片は概して表面が磨滅しており、2~8層の遺物包含層中で出土した土器とは器表面の様相が異なっている。これらのことより、晩期後半に至って、今回の調査地点より上流に形成されていた九年橋遺跡内の遺物包含層が浸食され、安定した土層であるIV層上部に、遺物と土壌がともに再堆積した可能性を考えておきたい。

また、②で再検討するが、 $2\sim9$ 層の8 枚の遺物包含層から出土する土器は、層を越えた接合関係が認められ、また、図表9 に示すように、明らかに古い段階の土器片が一定量「混入」していることから、多少の攪乱を常に伴いながら堆積したものと考えられる。

 $2\sim 8$ 層は概ね南側から北側に低く傾斜する様相が認められ、南側では 5 層より新しい層は形成されなかったか、もしくはすでに浸食されて存在していない。小林(1988)によれば、九年橋遺跡の出土土器の分析から B 4 区と H 5 区の時間差が認められるという。このことは、包含層の遺存状況の差をとらえていた可能性が高く、調査地点における時間差として一般化させるためには、なお検討を要している。

②出土遺物について

今回の調査による出土遺物の総量は30×32×42ξ の整理箱で20箱である。そのうちの 9 割は土器で、石器等は 1 割以下である。以下の報告では、出土土器、土器片のうち、接合作業を経た上で確認される大きさが、辺の長さ概ね 3 ξ 以上の資料の1024点を対象とし(遺物包含層出土数量、遺構内出土は別に集計、直接接合した場合を除いて個別の破片を対象)、それ以下の大きさの資料は捨象している。これは、該期の土器について、残存部位を問わずほぼ器種同定が可能となる大きさでもある。

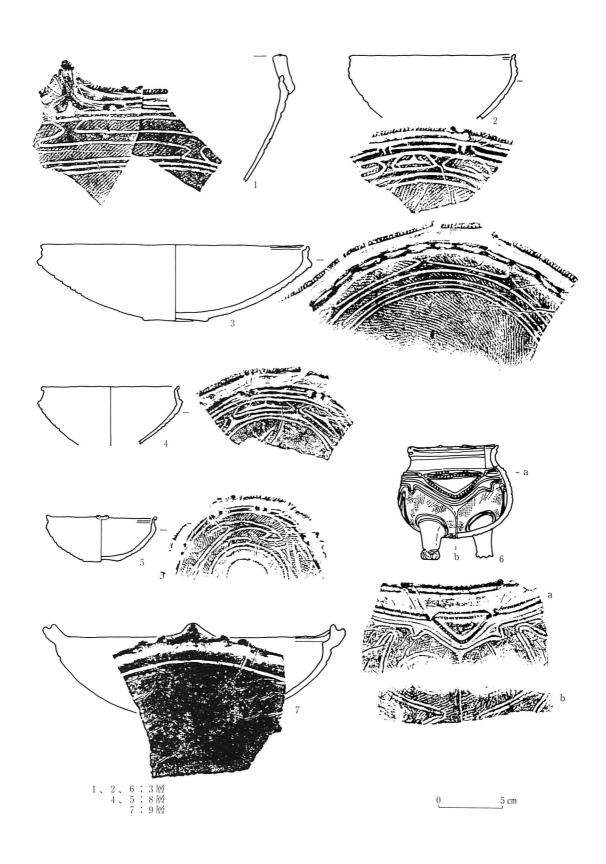
ア 土器の残存状況

従来の報告では、土器の半数以上は破損のない出土状態を示すとされている。そのことを裏付けるかのように、3~11次調査報告書中には数多くの縄文晩期後半期の土器の実測図が掲載され、該期の基本的資料として利用されている。

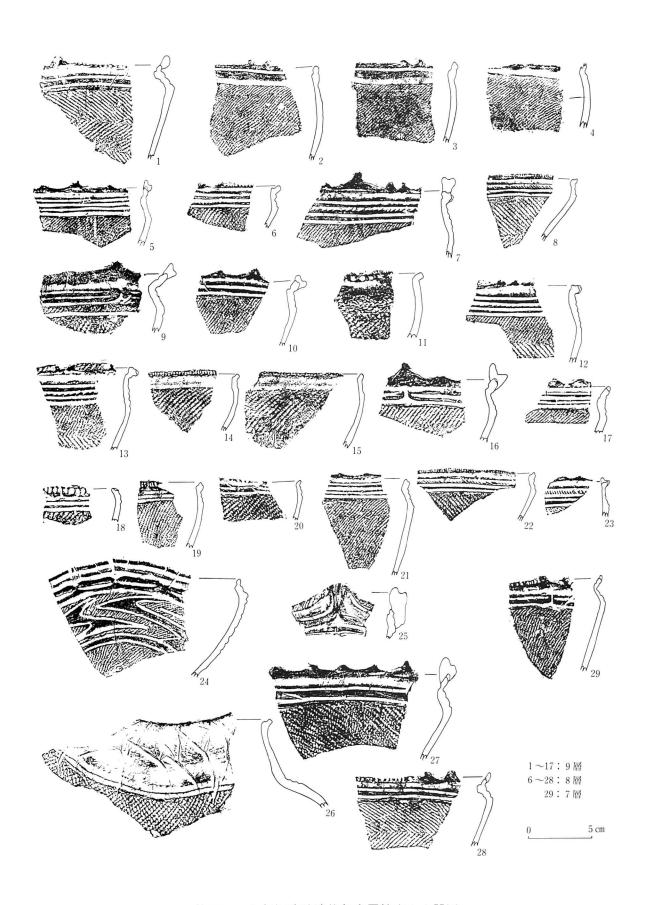
図表1から明らかなように、出土土器全体の85%は1/20以下の小破片である。この傾向は、各層・各器種で多少の相違が認められるものの、基本的には共通している。ただし、個体数に換算した場合、小片化した土器の割合はそれほど高くない可能性を有している。いずれ、この状況は過去の調査の報告内容と大きく異なっている。



第16図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(2)



第17図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(3)



第18図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(4)

イ 遺物包含層出土土器の時間的関係

今回の調査区の遺物包含層が、南から北方向に傾斜しながら形成され、8層に細分されることが観察されている。これらの包含層と出土土器の関係について集計している(図表 $4 \sim 7$)。

器種ごとに(浅鉢・高坏、深鉢・鉢、壺に分類)、小林(1988)によって提示された単位文様の出現状況について集計した。小林による単位文様は、a 主として大洞C2式として分類される土器に多く用いられるもの、b 主として大洞A式として分類される土器に多く用いられるもの、c 大洞C2式と大洞A式の両者に分類される土器に用いられるもの、の三群に分けられるであろう。 $2 \sim 9$ 層の遺物包含層が、そのまま時間軸に沿った一次的な堆積状況を示している場合には、これらの単位文様の出現頻度は、従来の型式論的土器研究の成果にしたがって、 a から c を介して b への漸増傾向が認められるか、もしくは a b b の間で明瞭な不整合を伴ったものとなろう。

集計では図表 $5 \sim 7$ に見られるように、各単位文様は層ごとの出現頻度にかなりのばらつきが認められた。最も早い段階で形成された層中にも、新しい段階と考えられている単位文様が含まれていたり、また、その逆の場合も少なくない。しかし、全体的な量的傾向では、9 層 ~ 2 層への時間的変遷を伺うことができる結果として捉えることが可能であろう。

同様に、特定器種について検討した。浅鉢の出土状況を、藤村(1980)に従って集計した(図表 4)。この結果、従来の型式比定に従えば、概ね5層以下では大洞C2式が主体で、以上では大洞A式が主体となる。ただし、今回の報告では遺物包含層が最も良好に遺存していたA4区出土資料を対象としている。

これらのことから、今回の調査対象となった遺物包含層は、大洞C2式からA式期における単位文様等の存在状況が、従来想定されている以上に複雑な実態を伴うものと考えることも可能であるが、既に記したように、遺物包含層についてはその堆積過程で多少の攪乱があったと考えられる。したがって、九年橋遺跡における遺物包含層を単位とした土器の分析とその結果については、傾向としての時間差を反映しているものとして理解しておく必要がある。

ウ 器種組成

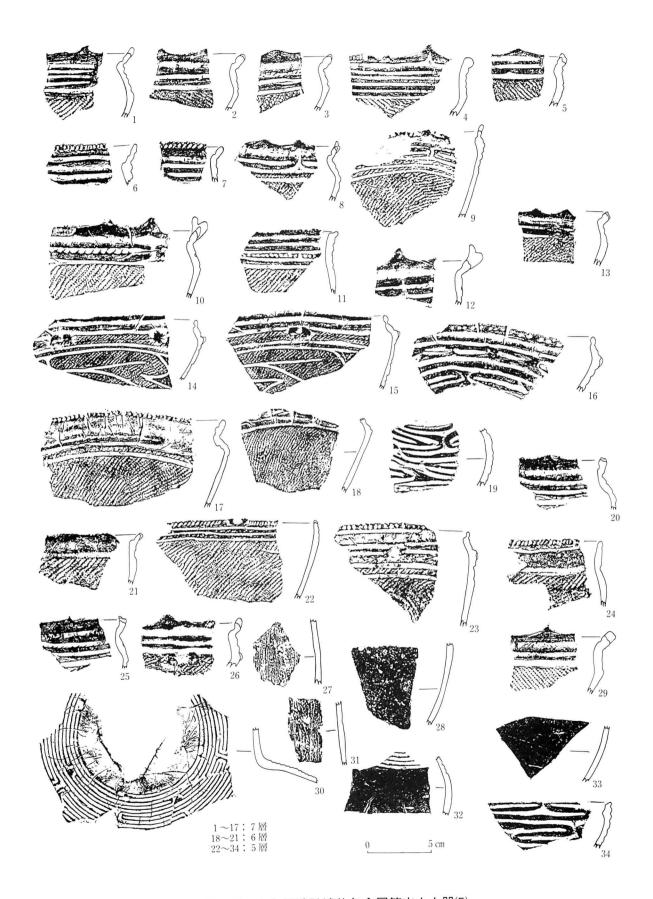
出土土器の器種組成を図表10~11に示した。これについて、残存度1/20以上の資料を対象とした集計と、それ以下の資料を含めて集計した場合とで、多少異なった結果が得られている。1/20以上の資料のみ対象とした場合には、小片も含めて集計した場合に比して概して深鉢の割合が低く、浅鉢の割合が高くなる。これは、相対的に大きな土器の場合に、一個体の土器から生じる破片数が当然多くなること、したがって、同一個体の破片を重複して集計する可能性が高くなっていることによるものと考えられる。今回、器種同定は部位を問わず行っているが、一般に行われている口縁部片を対象とした場合においても、同様の誤差が生じるものと考えられる。

工 石器出土状況

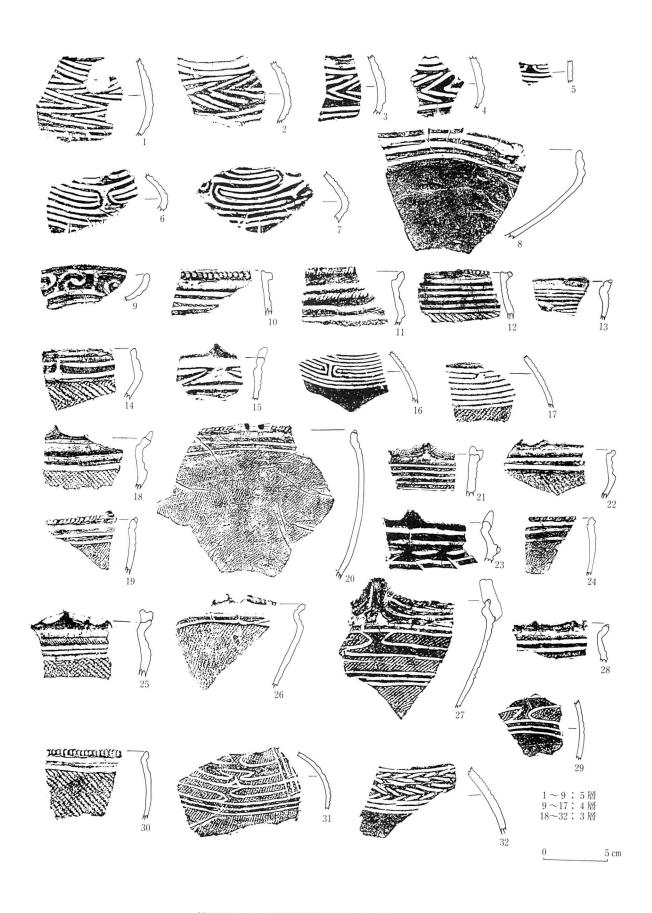
手掘りによって採取できた、合計1120点の剝片(砕片を含む)を集計の対象としている。

剝片石材について出土層位ごとに集計した(図表13)。資料数の少ない層を除いて、ほぼ同様の傾向を示している。各層とも頁岩、鉄石英(ギョクズイ含む)の出土数が多く、他の石材(黒曜石、チャート、安山岩等)は少ない。

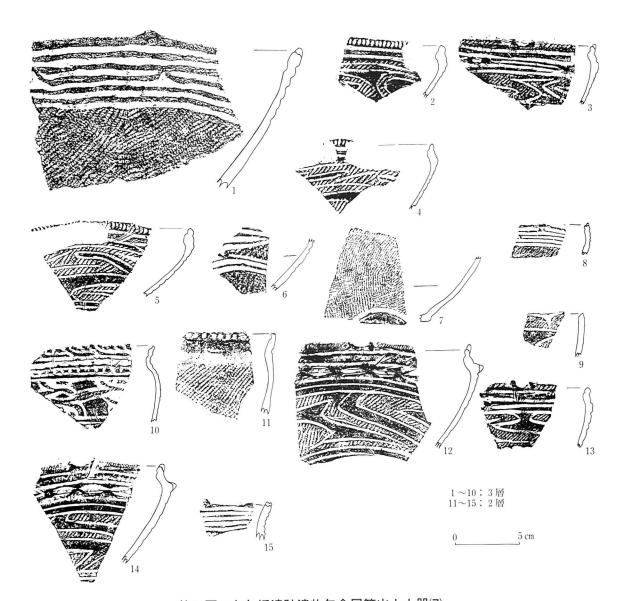
剝片の大きさについて出土層ごとに集計した(図表14)。いずれの層でも最大長50³ヵ未満の剝片が圧倒的多数を占めている。また、20ミリ以上50ミリ未満の剝片の割合が大きい。このことを石材別に見た場合は、ギョクズイと黒曜石の場合、10ミリ未満の剝片の割合が高くなる。当然ながら最も資料数の多い頁岩の場合、



第19図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(5)



第20図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(6)



第21図 九年橋遺跡遺物包含層等出土土器(7)

全体の平均に近い分布となる。

九年橋遺跡で生産された剝片が20~50ミリに集中することは、生産される石器の大きさを規定している。 また、ギョクズイ及び黒曜石により小さいサイズの剝片が多く見られることは、母岩の大きさに規定されている可能性が高い。

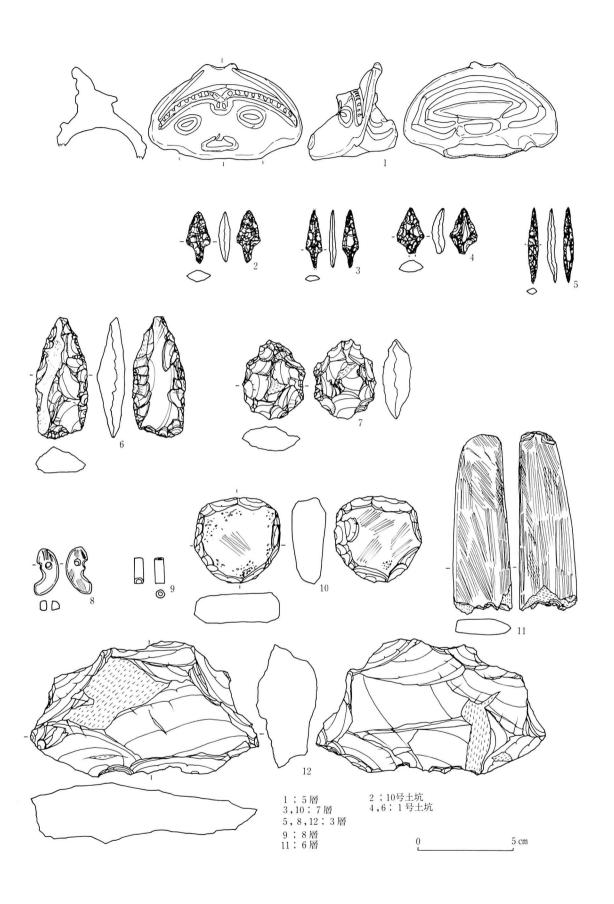
さらに、微細遺物をサンプル採取した土壌を水洗選別して採取した。その結果、多量の小土器片及び砕片等が検出されている(図表17,18)。今回の調査区は遺物包含層全体で9 m²程度の土量であると考えられる。土壌採取量は正確に計量していないものの、一つの包含層あた00.002m²、全8 層分で0.016m²前後であることから、全体量の500分の1 程度を反映した数字と考えられる。このことから、かなり多くの微細な遺物が本来包含されていたものと考えられる。

遺物包含層中には、これらのほか、同定困難な微小な動物骨片が多量に含まれていた。このような事実から、この遺物包含層中には雑多な当時の生活痕が残されたものと推定される。したがって、このような微細 剝片等が多量に出土することは、遺跡付近で石器製作または再刃付けなどの行為が日常的に行われ、その過 程での副産物がこの場に廃棄されていた可能性が高いことを示している。

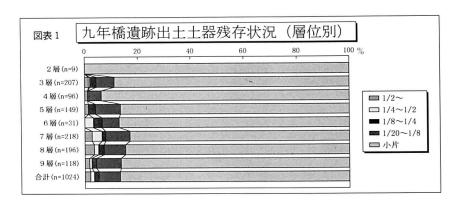
なお、石器類は従来出土しているものと同様の型式のものである。遺構内のものを含め、225点出土している。図表19に一覧で示している。

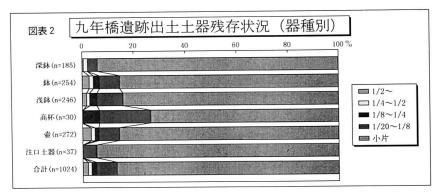
図表解説

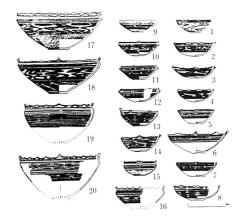
- 1 分析対象の資料を、完形の場合を1とした土器の残存度別に、層ごとの出土破片数の割合を示したもの。小片は 1/20以下の資料。資料数が一定量の場合、層ごとにほぼ一定割合で推移する。いずれの層も80%以上は小片であり、 従来の調査結果と異なる内容となっている。
- 2 深鉢及び注口土器において、小片の割合が高くなっている。一方、高杯は1/4以上の破片で占められる。この要因としては、深鉢の場合、個体が一般に大型であること、注口の場合、個体認識が容易であることが考えられる。高杯の場合、脚台部分の残存が比較的良好な場合が多いことによると考えられる。したがって、この図表に現れる差異は、破片数算出の技術的問題に起因する部分が大きいと考えている。
- 4 藤村東男氏によって分類された浅鉢(図表 3)の出現頻度を、層位別にみたもの。大洞 C 2 式に含めて考えられる類は 6 層以下に多く、大洞 A 式のものは 5 層以上に多い。しかし、あくまで全体的な傾向で、 6 層以下にも大洞 A 式の浅鉢が含まれている。また、少量ではあるが大洞 C 1 式期以前の土器型式も認められる。なお、藤村氏の分類によるそれぞれの浅鉢の出現頻度は一様ではなく、 2 、 3 、 17 、 8 、 12 、 19 、 20 は今回認められなかった。
- $5\sim7$ 小林正史氏による単位文様の出現頻度(図表 8)を、出土層位ごとに百分比で示したもの。資料同定上、5 浅鉢・高杯、6 深鉢・鉢、7 壺、の 3 群にわけて集計した。それぞれ、個別にばらつきはあるものの、 $A1\sim K$ 2 に向かっての時間の流れが想定できる。しかし、集計では、資料の絶対数が少ないためもあって、かなり入り組んだ出現割合が看取される。
- 9 九年橋遺跡の主体をなす時期を溯る大洞B~C 1 式期土器片の層位別出土数。破片数で全体の10%弱を占めている。概して表面が磨滅した破片が多い。
- 10~11 10は選択した1,024点全てを対象とした場合。11は、1/20以上の136点を対象とした場合。後者の場合、深鉢の割合が減少し、他の器種の割合が増加する。ただし、注口土器が統計からはずれることがある。これは、絶対数が少ないわりに小片でも器種同定が容易であるためと考えられる。
- 13 出土層位別に剝片石材を百分比で表したもの。いわゆるtoolは集計の対象から外している(図表19参照)。また、接合作業は行っていない。石材同定は佐藤が行った。その他には、砂岩や凝灰岩などが含まれる。黒曜石は全体で少量の出土であるが、出土層位に偏りが認められる。なお、土器の集計結果から、全体の10%弱は晩期前半期に属するものと考えられる。
- 14, 15 剝片の大きさは、最大長または最大幅のうち大きい方の値で集計した。50ミリ未満の小型の剝片が圧倒的に多い。一方でtoolとして製作された石器には、石匙、石斧、スクレイパーなど50ミリを越えるものも多く、今後、素材との対応関係が検討される必要がある。



第22図 九年橋遺跡出土土製品・石器・石製品







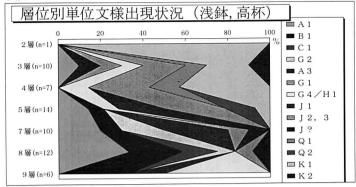
図表 4 九年橋遺跡 A 4 区出土浅鉢分類表(層位別)

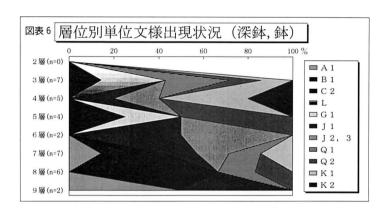
	C1以前	— ₩	≵icC	2式と	分集	[it	る士	器		一般にA式と分類される土器												
A		2	3	4	9	10	17	18	2/ 18	5	6	7	8	11	12	13	14	15	16	19	20	5/ 20
2																						1
3	2							1			1			1					1			4
4										1	1	1						2				2
5	1					1																3
6								1	1							1						
7				2	1	3		3	1								2					
8						2		1														
9					1		1	1		1							1	3				

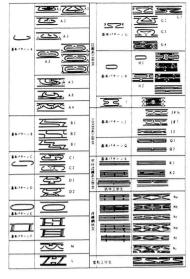
図3 藤村(1980)による残鉢の分類

図表 1 ~ 4

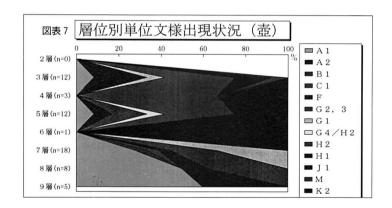


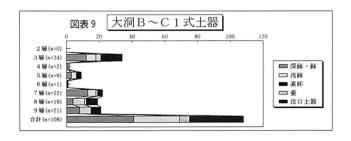




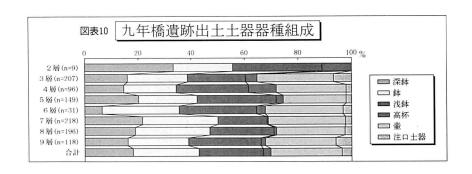


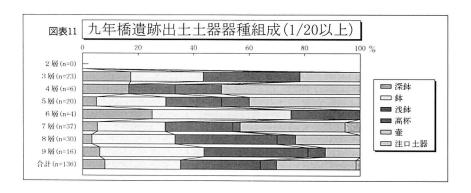
図表8 小林(1988)による単位文様の分類





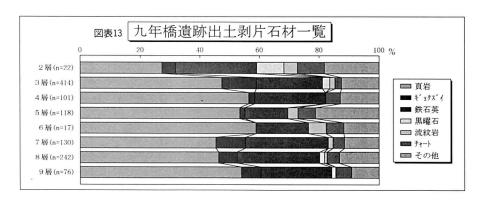
図表 5~9



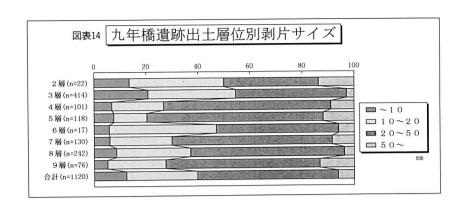


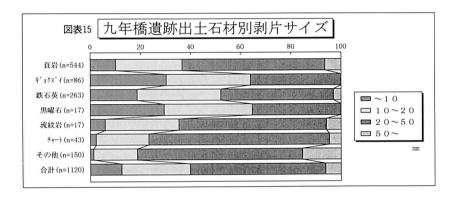
図表12 九年橋遺跡出土土器遺構別器種組成

	深鉢	鉢	浅鉢	高杯	壷	注口士	合計
1号土坑	17	13	19	2	24	4	79
2号土坑	0	1	0	0	0	0	1
3号土坑	1	3	3	0	0	2	9
4号土坑	0	1	1	0	0	0	2
5号土坑	0	0	0	1	3	0	4
6号土坑	2	0	0	0	0	0	2
7号土坑	1	0	0	0	1	0	2
8号土坑	0	0	3	0-	2	1	6
9号土坑	2	2	2	0	1	1	8
10号土坑	1	1	2	0	0	0	4
合計	24	21	30	3	31	8	117



図表10~13





図表16 九年橋遺跡出土剝片遺構別一覧

	頁岩	キ゛ョクス゛	鉄石英	黒曜石	流紋岩	チャート	その他	合計
1号土坑	47	9	19	0	3	7	4	89
2号土坑	0	0	0	0	0	1	0	1
3号土坑	5	1	0	0	0	0	2	8
5号土坑	1	0	1	0	0	0	0	2
8号土坑	2	0	3	0	0	1	2	8
9号土坑	14	4	3	1	1	0	0	23
10号土坑		1	2	0	0	0	0	7
合計	73	15	28	1	4	9	8	138

図表17 1ミリふるいによる検出遺物(土器片)

	~53	5~103	10~15	15:50~	合計
2層	0	7	4	2	13
3層	0	7	8	4	19
4層	0	7	5	5	17
5層	0	13	6	4	23
6層	0	0	0	0	0
7層	0	10	9	6	25
8層	0	12	10	20	42
合計	0	56	42	41	139

図表14~18

図表18 1ミリふるいによる検出遺物 (剝片)

	~539	5~1039	10~15	15ミリ~	合計
2層	37	3	3	2	45
3層	55	7	0	0	62
4層	52	4	2	1	59
5層	89	10	3	2	104
6層	0	0	0	0	0
7層	160	6	1	1	168
8層	164	7	8	0	179
合計	557	37	17	6	617

図表19 九年橋遺跡出土石器一覧

					حر	拉工	9	ノし	平 1	尚是
Nα	型式	石材	出比区	105	最大長			破扣	原樂面	備考
1	円盤状石製品	?	A 1		59	52	20	0	1	
3	ピエス・エスキエ スクレイパー	頁岩 鉄石英	? A 4	?	19 33	14	- 5 7	0	0	
	ピエス・エスキエ?	鉄石英	A 4	1	37	20	10	1	0	
	石棒?	粘板岩	A 4	1	67	17	6	1	0	
- 6	石部	ギョクズイ	A 2	1	19	11	4	1	0	
7	社が	ギョクズイ	A 2	1	18	11	4	1	0	
- 8	石銀	頁岩	A 2	1	31	17	4	1	0	
	Tish	頁岩	A 2	1	24	12	6	1	0	
	打製石斧? スクレイパー	? 頁符	A 2 A 4	2	66 38	57 24	7	0	0	
	石核	鉄石英	A 4	2	58	46	46	0	1	
	Tim	頁岩	A 4	2	20	10	3	0	0	
14	石)组?	頂岩	A 5	2	23	12	4	0	0	
15	石釟または石錐	頂岩	A 5	2	28	6	4	0	0	
	スクレイバー	頁岩	?	3	26	19	7	0.	0	
17		?	A 3	3	79	31	27	1	1	_
18 19		チャート? 買岩	A 3	3	14	21 37	8 7	1	0	
20		頁岩	A 3	3	24	17	6	1	0	
21		頁岩	A 3	3	40	38	11	1	1	
22	スクレイパー	页岩	A 3	3	28	18	8	1	0	
23		チャート	A 4	3	42	34	8	0	0	
24		鉄石英	A 4	3	37	26	11	1	0	
25		頁岩	A 4	3	15	22	6	1	0	
26		頁岩	A 4	3	49	27	11	0	0	
27	ノッチ	頁岩	A 3	3	42	32	12	0	1	
28		チャート?	A 2	3	27	26	10	0	0	
29		チャート?	A 2	3	20	17	6	0	0	
30	ピエス・エスキエ ピエス・エスキエ	頁岩 ギョクズイ	A 2	3	31	30 10	11	0	0	
32	ピエス・エスキエ	鉄石英	A 3	3	33	22	14	0	1	
33		鉄石英	A 3	3	21	18	14	0	1	
34		页岩	A 3	3	22	14	8	1	0	
35		页岩	A 3	3	20	12	10	0	0	
36	ピエス・エスキエ	頁岩	A 3	3	22	34	8	0	0	
37	ピエス・エスキエ	頁岩	A 4	3	36	20	11	0	1	
38	円盤状石製品	?	A 3	3	39	84	17	0	0	
39		凝灰岩	A 4	3	59	47	19	0	0	
	PIZ:	?	A 3	3	150	72	26	0	0	
	銀歯縁石器	頁岩	A 2	3	55	51	10	0	1	-
	鋸歯縁石器 銀壺縁万異	鉄石英	A 3	3	46 61	28 56	12	0	1	-
	鋸歯縁石器 勾玉	页岩 滑石?	A 4 A 3	3	25	56 13	19	0	0	
45	石核	安山岩?	?	3	82	77	43	.0	1	
	石核	頁岩	A 2	3	60	45	33	0	1	
	石核	ギョクズイ	A 3	3	31	26	20	0	1	
48	石核	頁岩	A 3	3	60	102	62	0	1	
49	石核	頁岩	A 3	3	47	54	19	0	1	
50	石核	鉄石英	A 4	3	44	31	21	0	0	
	石核	頁岩	A 4	3	85	73	39	0	1	
	石核	頁岩	A 6	3	50	29	19	0	1	
	石核?	流紋岩	?	3	68	68	32	1	0	
	石核?	安山岩?	A 3	3	68	94	36	0	1	-
	石剣 (刀)	粘板岩	A 3	3	62	28	12	1	0	-
	石匙 (刀)	粘板岩 鉄石英	A 2 A 3	3	70 28	37 40	9	0	0	_
	石匙	数石英 頁岩	A 3	3	25	40	6	0	0	_
	石錐	頁岩	?	3	28	7	4	0	0	
	石錐	頁岩	?	3	38	19	5	0	0	
	石錐	頁岩	?	3	51	15	6	0	0	
	石錐	頁岩	A 3	3	40	6	4	0	0	
	石篦?	頁岩	A 3	3	37	35	13	1	0	
	石棒	粘板岩	A 3	3	45	25	4	1	0	
65	石棒	片麻岩	A 3	3	27	15	3	1	0	
	石棒?	粘板岩	A 2	3	64	37	- 8	1	0	
	石剣	鉄石英	?	3	21	14	5	1	0	
	ZiM ZiM	ギョクズイ	A 3	3	17	19	3	1	0	
	Zish	ギョクズイ	A 3	3	18 25	11	4	1	0	_
	石錦	鉄石英	A 3	3	13	13	3	1	0	_
	Tim	鉄石英	A 3	3	15	11	4	1	0	
73	石鎮	頁岩	A 3	3	20	10	4	1	0	
74	石釟?	鉄石英	A 3	3	18	7	4	1	0	
75	尖頭石?	ギョクズイ	A 2	3	17	20	4	1	0	
76	打製石斧	?	A 3	3	120	72	28	1	1	
77	打製石斧?	頁岩	A 3	3	84	63	20	0	1	
	打製石斧?	安山岩?	A 4	3	50	64	13	1	0	
	スクレイバースクレイパー	? 鉄石英	A 4	4	33	24	7	0	0	
OU	スクレイバー	鉄石英	A 4	4	26 33	28	5 11	1	0	
		頁岩	A 5	4				1	1	
81	スクレイパー				28	16	- 8		1	
81	スクレイバー	頂岩	A 5	4	28 65	16 55	13	1		
81 82 83 84	スクレイパー ノッチ ピエス・エスキエ		A 5 A 4	4	28 65 46	16 55 37	13 15	0	1	
81 82 83 84 85	スクレイパー ノッチ ピエス・エスキエ ピエス・エスキエ	頁岩 チャート 頁岩	A 4 A 4	4	65 46 38	55 37 35	13 15 15		0	
81 82 83 84 85 86	スクレイパー ノッチ ピエス・エスキエ ピエス・エスキエ 凹石	頁岩 チャート 頁岩 ?	A 4 A 4 A 5	4 4	65 46 38 86	55 37 35 66	13 15 15 53	0 1 0	0	
81 82 83 84 85 86 87	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器	頁岩 チャート 頁岩 ?	A 4 A 4 A 5 A 5	4 4 4	65 46 38 86 140	55 37 35 66 75	13 15 15 53 38	0 1 0 0	0 1 1	
81 82 83 84 85 86 87	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器 石核	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 頁岩	A 4 A 4 A 5 A 5 A 4	4 4 4 4	65 46 38 86 140 47	55 37 35 66 75 38	13 15 15 53 38 26	0 1 0 0	0 1 1 1	
81 82 83 84 85 86 87 88	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器 石核 石核	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 頁岩 ギョクズイ	A 4 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5	4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31	55 37 35 66 75 38 34	13 15 15 53 38 26 31	0 1 0 0 0	0 1 1 1 1	
81 82 83 84 85 86 87 88 89	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス 近石 第電縁石器 石核 石核 石核	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 頁岩 ギョクズイ ギョクズイ	A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31 37	55 37 35 66 75 38 34 22	13 15 15 53 38 26 31 22	0 1 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1	
81 82 83 84 85 86 87 88 89	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 観曲縁石器 石核 石核 石核	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 頁岩 ギョクズイ	A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31 37 58	55 37 35 66 75 38 34 22 63	13 15 15 53 38 26 31 22 21	0 1 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 解機縁石器 石核 石核 石核 石積 石面 石板 石面 石面 石面	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 頁岩 ギョクズイ 頁岩 ジョウズイ 頁岩 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31 37	55 37 35 66 75 38 34 22	13 15 15 53 38 26 31 22	0 1 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 門石 鋸歯縁石器 石核 石核 石核 石(石) (石) (石) (石) (石) (石) (石) (石	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 百岩 ギョクズイ ギョクズイ 頁岩 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31 37 58	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31	0 1 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 1 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ 凹石 類歯縁石器 石核 石核 石核 石核 石域 石域 石域 石域 石域 石域 石域 石域 石域 石域	直岩 チャート 直岩 ? ? 可岩 ギョクズイ 直岩 ? 鉄石英 ギョクズイ 飲石英	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 1 0 1	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器 石核 石核 石核 石核 石域 安郎 東頭器 失頭器 失頭器	頁岩 チャート 頁岩 ? ? 頁岩 ギョクズイ 頁岩 ジョウズイ 頁岩 ジョウズイ 真岩 変石英 鉄石英 鉄石英 鉄石英	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1	0 1 1 1 1 1 0 1 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 蜒歯縁石器 石校 石校 石校 石校 石版 石版 石間 石順 石川 石川 石川 石川 石川 石川 石川 石川 石川 石川	直告 チャート 直告 ? ? 百円 ギョクズイ ボョクズイ 直沿 ? 鉄石英 ギョクズイ 鉄石英 ギョクズイ 鉄石英 ギョクズイ 鉄石英 ギョクズイ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15	0 1 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0	0 1 1 1 1 1 0 1 0 0 1 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97	スクレイパー フッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 解機縁石器 石核 石核 石核 石積 石面 石類 矢頭器 矢頭器 矢頭器 矢のマパー スクレイパー	 頁告 チャート 頁告 ? 頁目 ギョクズイ 直当 ・ 変えて ・ 数石英 ギョクズイ 変えて 鉄石英 ・ 変れ ・ 変れ<	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11	0 1 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 1 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器 石核 石核 石核 石域 石域 安頭器 失頭器 失頭器 スクレイパー スクレイパー	直告 チャート 直告 ? ? 直告 ギョクズイ ギョクズイ 直告 ? 鉄石英 鉄石英 鉄石英 鉄石英 ()	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 65	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 11	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 1 0 0 0 1 0 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 蟹機縁石器 石核 石核 石 石 板 石 板 石 孤 変頭器 失頭器 失頭器 失りば器 スクレイパー スクレイパー スクレイパー	直告 チャート 直告 ? ? 直告 ギョクズイ ギョクズイ ずら 変石 英石 美石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄石 鉄	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 40 44 43 22	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 11 11 16	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器 石核 石核 石核 石板 石板 石板 石板 石板 石が 石が 石が 石が 石が 石が スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー	直岩 チャ岩 ? ? 頁	A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 65 44 43 22	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 11 16 11 7	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 1 0 0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ 凹石 類歯縁石器 石核 石核 石核 石板 石類 失頭器 失頭器 失頭器 失りば器 スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー	直岩 チャ岩 ? ? ? 直岩 ギョクズイ 直沿 ? 数石 英 子 直 名 英 石 英 子 直 百 岩 百 真 岩 日 五 五 英 子 直 百 百 吾 百 百 百 百 吾 百 百 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	A 4 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 65 44 32 26 62	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 11 16 11 7 8	0 1 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 0 1 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 99 91 92 93 94 95 96 97 98 99 99 100 101	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 繁微線石器 石核 石核 石核 石板 石線 大頭器 失頭器 失頭器 失りは スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー	直岩 チャート 直岩 チャート 正岩 ティート 正岩 ティート 正岩 ティー アード アード アード アード アード アード アード アード アード アー	A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 40 55 44 32 26 65 91	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 68	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 11 16 11 7	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 0 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 99 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸歯縁石器 石核 石核 石核 石板 石銀 失頭器 失頭器 失頭器 スクレイパー スケー ビエー ビエー ビエー ビエー ビエー ビエー ビエー ビエ	直岩 チャート 直岩 チャート 直岩 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A 4 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 65 44 43 22 66 62 91	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 68 18	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 11 16 11 7 8 27 23 8	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 1 1 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 1	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105	スクレイパー フッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 蟹歯縁石器 石核 石核 石積 石積 矢頭器 矢頭器 矢頭器 矢頭器 矢頭器 大型は スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレチパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレチパー スクレイパー スクレチャー エクト エクト エクト エクト エクト エクト エクト エクト	直管 チャート 直管 ? ? 直路クズイ 直管 ? 数石英 子ョクズイ 数数石英 ? 直置智 ? 数石英 ? 直置智 ? 直置智 ? 数石英 ? 直置智 ? 数石英 ? 直置智 ? 方面有 ? ? 方面有 ? ? 方面有 ? ? 方面有 ? 方面有 ? 方面有 方面有 方面有 方面有 方面有 方面有 方面有 方面有 方面有 方面有	A 4 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 65 44 42 26 62 91 41 25	55 37 35 66 75 38 42 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 68 88 88 42 22 23 43 44 45 47 47 47 47 47 47 47 47 47 47	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 16 11 7 8 27 23	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 1 1 0 0 0 1 1 0 0 0 1 0 0 1 0 0 0 1 0	
81 82 83 84 85 86 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 鋸鷹縁石器 石核 石核 石板 石個 尖頭器 尖頭器 尖頭器 スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー エスクレイパー ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ	直岩 チャート 直岩 チャート 直岩 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A 4 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5	65 46 48 88 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 45 65 44 32 26 62 91 41 41	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 68 18 22 23	13 15 15 53 38 26 31 22 21 4 7 15 11 11 11 7 8 27 23 8 6	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 1 0 0 0 1 0 0 1 0 0 0 1 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106	スクレイパー フッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビ五 の の の の の の の の の の の の の	直告 ・	A 4 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 65 44 42 26 62 91 41 25	55 37 35 66 75 38 42 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 68 88 88 42 22 23 43 44 45 47 47 47 47 47 47 47 47 47 47	13 15 15 53 38 26 31 22 21 31 4 7 15 11 16 11 7 8 27 23	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 1 1 0 0 0 1 1 0 0 0 1 0 0 1 0 0 0 1 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 89 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ 門石 類歯縁石器 石核 石核 石核 石域 石加 石加 石加 石加 スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー と頭部 ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ	直告 チャート 直告 ? ? 百名 ? 百名 ※ ? 数石 英・ ? 直告 ※ ? 直告 ※ ? 直告 ※ ? 直告 ※ ? 直告 ※ ? 直告 ※ ? 直告 ※ 方 を が の の の の の の の の の の の の の	A 4 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 44 65 44 32 26 62 91 41 25	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 63 86 10 21 27 22 22 22 22 23 64 61 61 61 61 61 61 61 61 61 61	13 15 15 15 15 15 38 26 31 22 21 14 7 15 11 11 16 11 7 8 27 23 8 6 6 12 10	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 0 0 0 1 0 0 0 1 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 0	
81 82 83 84 85 86 87 88 99 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108	スクレイパー フッチ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ 凹石 競機縁石器 石核 石核 石板 石楓 矢頭器 矢頭器 矢頭器 矢頭器 矢のより スクレイパー アッチ ビエス・エスキエ ・エス・エスキエ ・エス・エスキエ ・エス・エスキエ ・エス・エスキエ ・エス・エス・エスキエ ・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・エス・	直替 チャート 直替 ? ? 直替 ギョクズイ 直替 ギョクズイ 更替 ・ シスイ 変 を の の の の の の の の の の の の の	A 4 A 4 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 6 A 7 A 7 A 7 A 7 A 7 A 7 A 7 A 7 A 7 A 7	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 41 40 44 44 52 66 62 91 41 25 44 25 33 52	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 29 91 31 39 55 42 68 18 22 22 29 42 44 46 36 36 36 37 47 47 47 47 47 47 47 47 47 4	13 15 53 38 38 31 22 21 31 4 4 7 7 15 11 11 7 8 8 27 23 8 6 11 11	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0	
81 82 83 84 85 86 87 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 107 108 109 110 110 1111	スクレイパー ノッチ ビエス・エスキエ 門石 類歯縁石器 石核 石核 石核 石域 石加 石加 石加 石加 スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー スクレイパー と頭部 ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ ビエス・エスキエ	直告 チャート 直告 ? ? 百名 ? 百名 ※ ? 数石 英 ? 直告 ※ ? 直告 ※ ? 変 数石 英 ? 直告 変 数石 英 ? 直告 変 数石 五 英 変 数石 五 英 変 直 数百 五 英 直 数百 五 英 直 数百 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	A 4 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 4 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5 A 5	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	65 46 38 86 140 47 31 37 58 100 33 20 41 40 65 44 32 26 62 91 41 25 33 35 20	55 37 35 66 75 38 34 22 63 86 10 21 27 22 29 61 31 39 55 42 68 18 22 42 46	13 15 15 15 26 31 22 21 31 4 7 15 11 16 11 7 8 27 23 8 6 12 10 11 17	0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 1 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 1 0	

跡	出	土	石	器	一	Ē									
No	1:44	桐	九		石i 材	4	Hi.t.		M	最大長	最大幅	最大厚	破損	原樂面	備考
114	石核				頁岩 頁岩	+	A		5	62 38	45 27	26 14	0	1	
116	石核				鉄石英	1	Α:	5	5	41	39	24	0	1	
	石核				頁岩 頁岩	+	A :	5	5	25 72	12 55	12 50	0	1	
	石核				頁岩		A		5	80	70	39	0	1	
	7 imt				?	4	Α:		5	88	63	55	1	1	
	石IIII				?	+	A		5	140	71 80	42 85	1	0	
123	石錐?	?			頁岩	コ	Α:	5	5	82	70	20	0	1	
	石篦 石棒				頁岩 粘板岩	+	A		5	94	40 22	21 19	0	0	
126	石棒				粘板岩	⇉	Α:	5	5	32	18	8	1	0	
127	石餅				頁岩	\dashv	A		5	21	10	5	1	0	
128	石鉄 石鉄ま	たは	(i)		頁岩 頁岩	+	A		5	21	15	4	1	0	
130	尖頭器	*			鉄石英	\exists	A		5	38	24	9	0	0	
	磨製7 磨石	177			凝灰岩?	+	A		5	33 42	61	13	1	0	
133	矫石i				凝灰岩	\exists	A	5	5	60	49	33	0	1	
134	凹石 石剣				? 粘板岩	+	A		6	83 93	70 30	33 10	1	0	
136	石錐?	?			頁岩		A	5	6	25	6	3	0	0	
137	?	11%			真岩	+	A		7	18 37	18 52	4 16	0	0	
139	ハンマ	2-			頁岩?	\exists	A		7	73	57	28	1	1	
140	ピエス	<u>.</u>	スキュ	n.	頁岩	_	A		7	37	26	13	0	1	
141	ピエス	く・エく・エ	スキュスキュ	r. ?	チャート 鉄石英	`	A		7	19 74	20 50	29	0	0	
143	円盤制				?	\exists	Α:	3	7	46	44	17	-0	-0	
144	凹石				?	\dashv	A		7	77 84	81 110	50 30	1	0	
146	鋸歯科				頁岩	\Box	A	3	7	42	32	7	1	1	
	鋸歯綱 石核	家石器			頁岩 鉄石英	+	A		7	46 26	26 16	10 15	0	1	
149	石核				鉄石英		A	3	7	45	37	25	0	1	
150 151	石核 石核				チャート		A		7	60 86	65 91	22 61	0	1	
152	石剣				?		A	5	7	125	32	14	1	0	
153	石剣	(71)			片麻岩? ?	1	A	5	7	59	27	4	1	0	
	石剣 石錐?				頁岩	_	A		7	141 27	37 20	8	1	0	
	石辺				粘板岩	\exists	A		7	177	34	10	1	0	
	石棒?	?			粘板岩?	+	A		7	71 78	25 31	20 15	1	0	再加工
159	石鉄				頁岩	\Box	A	3	7	26	16	15	0	1	17711-12
	石銀 打製7	7.26			頁岩 凝灰岩	\dashv	A		7	27 60	10 56	24	1	0	
162	打製7	i#			頁岩		A		7	84	50	28	1	1	
	打製7 磨石	13F			?	\dashv	A		7	74 76	50 55	29 46	0	1	
	牌石				?		A		7	62	62	37	1	0	
166	ノッチ				頁岩	4	A		8	46	21	10	0	0	
167	ハンマ		スキニ	r.	? 馬曜石	+	A		8	117 24	61 20	27	0	0	
169					鉄石英	\exists	A		8	31	17	7	0	0	
170	ピエス				鉄石英 頁岩	+	A		8	29 24	31 10	12	0	1	
172	ピエフ	く・エ	スキコ	r.	頁岩	\exists	A	2	8	20	25	9	0	0	
173	ピエス				頁岩	\dashv	A		8	14 34	15 19	9	0	0	
175	円盤も				?	\exists	A	2	8	47	43	17	1	1	
	凹石				? 碧玉	\dashv	A		8	130	56 5	34 5	0	1 0	
178	岩版?				凝灰岩	\exists	A	3	8	43	64	10	1	0	
	据菌科				流紋岩	_		3	8	39 27	29 19	14	0	0	
	Tim.				?			5	8	285	190	63	1	1	
	石錐				鉄石英 頁岩	4		2	8	27 24	13	8 7	0	0	
	石篦				安山岩	1		2	8	45	13 41	11	0	0	
	石鎮、				粘板岩	4		2	8	74	21	15	1	0	
187	Tim.				頁岩 頁岩	1		2	8	27	13	5 7	0	0	
188 189	Tim.				頁岩 ギョクズイ	,		2	8	23	14	4	0	0	
190	石鉄				流紋岩			3	8	29 35	15 66	22	1	0	
191 192	石銀?				鉄石英	7	Α:	3	8	20	13	6	1	0	
193	尖頭器				鉄石英 流紋岩	1		2	8	42 24	33 16	14 10	0	0	
194 195	スクレ	111.			?	1	A	3	9	30	60	10	1	0	
196		- イバ· - イバ·			頁岩 頁岩	+		3	9	69 48	49 35	19	0	0	
197	スクレ	111.			流紋岩	7	Α:	3	9	49	33	9	0	1	
198 199	チョッピエス			c.	? 無曜石	+		5	9	140 21	137	34 8	0	0	
200	ピエス	く・エ			頁岩	4	Α:	3	9	28	21	10	0	0	
201	円盤状 凹石	犬石器			頁岩?	+		3	9	66 88	57	31	0	1	
203	凹石				?	#	Α:	3	9	94	84	43	0	1	
	凹石				粘板岩?	+		3	9	117	83 73	33	0	1	
206	凹石				?	_	Α:	5	9	85	67	53	0	i	
	網歯絲				頁岩 頁岩	+		3	9	60	40	13 17	0	1	
209	石核	407			凝灰岩		Α:	3	9	61	56	19	0	0	
	石核 石核				頁岩 頁岩	+		3	9	52 68	47	20 34	0	1	
212	石核				チャート		Α.	1	9	47	65 59	34 44	0	1	
	石核				鉄石英	1	Α.	1	9	55	38	28	0	1	
	石核 石核				頁岩 頁岩	+		1	9	59 35	36 56	29 27	0	0	
216	石核	,			頁岩	1	A	1	9	54	50	25	0	1	
	石核?				頁岩 粘板岩	+		3	9	51 104	51 63	18 24	0	0	
219	石剣?				粘板岩	1	Α .	1	9	30	16	3	1	0	
220 221	石製品 石篦?				粘板岩 凝灰岩	+		3	9	29 31	18 40	4 11	0	0	
222	石鎮。				ギョクズイ		A :	3	9	24	10	5	1	0	
	石銀 尖頭器	ų.			頁岩 鉄石英	+	A:	3	9	30 37	13 18	3 12	0	0	
	打製石				流紋岩		A :		9	84	51	20	0	1	

4 担い手育成基盤整備事業宮野目地区関連調査

庫理遺跡 (ME16-1387)

所在地:花巻市宮野目田力地内

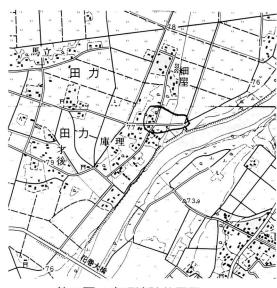
事業者: 花巻土地改良事務所

調査期日:平成8年11月13、21日、

12月24~26日 (5日間)

遺跡は北上川右岸沖積地中の自然堤防状に立地しており、標高は75.5~77.5m、周囲との比高は2~3m程である。遺跡の南隣には蛇行した北上川が西に向かって流れている。

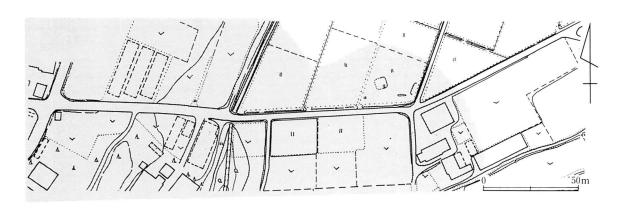
調査では初め、事業予定地内に試掘トレンチを設定し 埋蔵文化財の有無等について確認している。その結果、 当初遺跡のとされていた範囲の東側に遺構・遺物が分布



第23図 庫理遺跡位置図

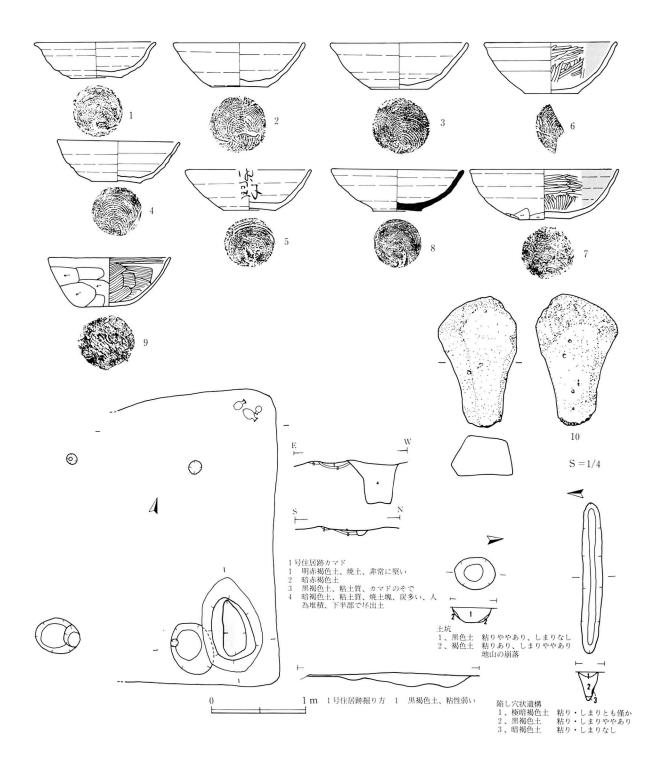
することが明らかになった。遺跡を東西に横切る道路の北側は遺構の密度が低いと考えられたため文化課によって調査が行われた。しかし、実際に調査を行った結果、竪穴住居跡が最低2棟が認められたため、南側の1棟については文化課が調査を行い、残った北側の1棟は道路の南側と一緒に岩手県埋文センターが本調査を行うことで調整されている。

今回の調査では、竪穴住居跡 1 棟のほかに陥し穴状遺構 1 基と土坑 1 基が検出されている。竪穴住居跡は、1 辺 7 m程の大きさで、西側の1/3は試掘トレンチによって削られ、範囲が不明になっている。ほぼ床面まで水田造成によると思われる削平が及んでいる。カマドは南東隅にあり、煙道は南側にあったと考えられる。柱穴は 4 箇所検出された。カマド脇の土坑は人為的に埋められており、カマドに由来すると思われる焼土塊が多く認められた。この住居跡からは内黒、無調整の酸化炎焼成、須恵器の坏のほか非ロクロの坏も 1 点出土している。土師器のカメは小形の個体の破片が若干出土している。また、この住居跡の床面を掘り下げると北東の隅が深くなっておりそこから長頸瓶 3 点が出土した。大きさがいずれも異なり、高さ42cm、32cm、22cmとなっている。最も小さい個体の肩部には「人」の文字が刻まれている。この住居跡の時期は出土した遺物から 9 世紀後半頃と考えられる。

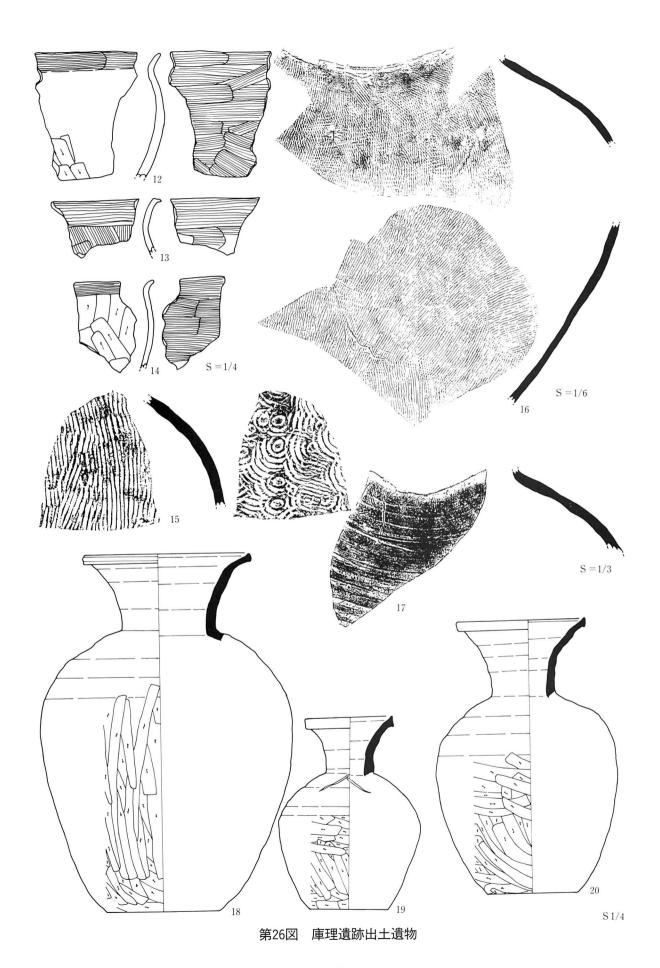


第24図 庫理遺跡調査区位置図

陥し穴状遺構は竪穴住居跡の東側で検出された。ほぼ東西方向に軸線があり長さ3.4m、深さ68cmである。 時期ははっきりしないが形状などから縄文時代と推定される。土坑は住居跡の西側に位置する。時期等ははっきりしない。(残りについて平成8年度本調査予定)



第25図 庫理遺跡検出遺構



馬立 I 遺跡 (ME16-1354)

所在地:花巻市宮野目馬立地内

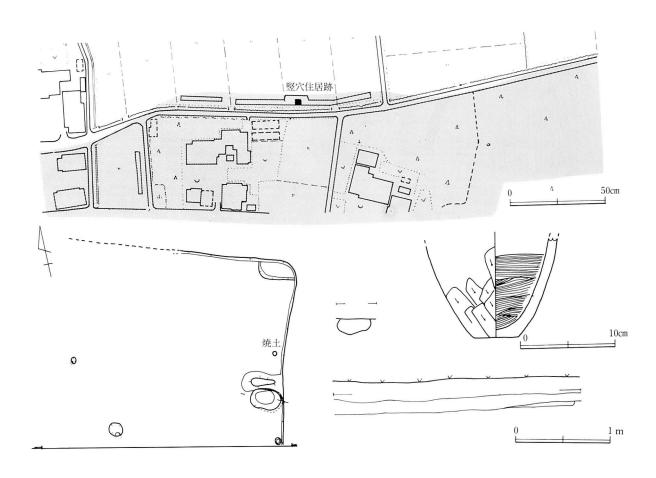
事業者: 花巻土地改良事業所

調査期日:平成7年12月12日~平成8年3月19日(3日間)

遺跡は花巻空港の東側に位置し、大きく東側に蛇行する北上川に囲まれた沖積地中の微高地に立地している。遺跡の標高は78m前後で周囲との比高は1m程度である。今回の調査区は遺跡の西と北の縁辺で現況は水田となっている。

調査の結果、北の縁で水路の予定地に平安時代の竪穴住居跡 1 棟が検出された。これについて文化課で調査を行っている。現況では道路を境に段差が認められるが元々は北に緩く傾斜しながら微高地が延びていたものと推定される。

この竪穴住居跡は東半分が残存しているが水田造成により、床面近くまで削平されている。カマドは東壁にあり煙道は東に延びていたと考えられる。カマドの焼土と思われるのはごく小さな範囲でしか確認されていない。出土遺物は少なく実測できたのは土師器の甕の底部 1 点のみである。



第27図 馬立 I 遺跡調査区・遺構・遺物

5 県営ほ場整備事業人首川東部地区関連調査

岩谷堂橋本 I 遺跡 (NE07-1393)

所在地: 江刺市岩谷堂橋本地内

事業者:江刺農林事務所調査期日:平成8年3月

遺跡は人首川東岸に広がる沖積地中の微高地上に立地しており、標高は37.4~38m、周囲との比高は1.3m程である。今回の調査は以前に行われた試掘調査の結果、水路部分に検出された平安時代の竪穴住居跡の記録保存を目的としたものである。

調査の結果、3棟の竪穴住居跡が検出されている。このうち1号住居跡と3号住居跡はほぼ同じ場所に作られ、3号住居跡が古い。2号住居跡については大部分が調査



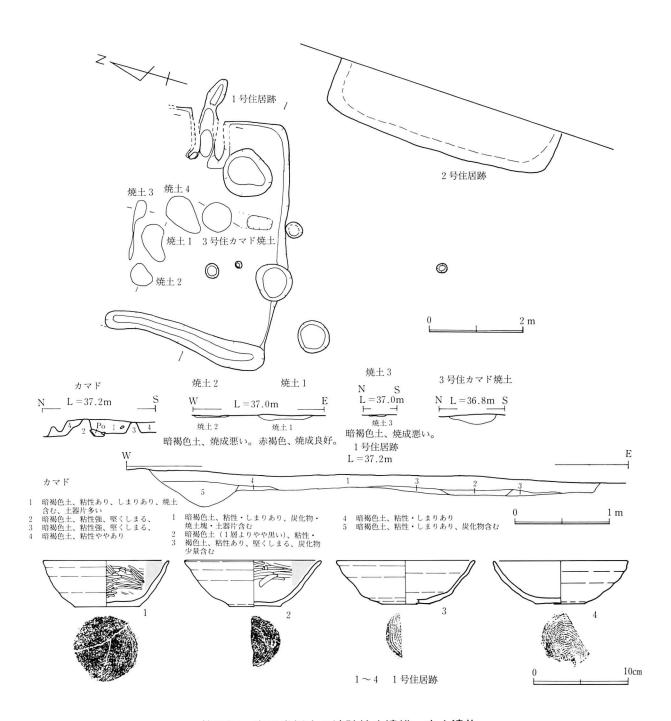
第27図 岩谷堂橋本 [遺跡

区がいに含まれるため、カマド・柱穴等は検出されていない。1号住居跡は3号住居跡があった位置にその床面を更に掘り込む形で作られたと考えられ、3号住居跡の床面は検出されず1号住居跡の貼り床の下にカマドの痕跡と思われる焼土と煙道の痕跡と思われるくぼみが検出された。従って、3号住居跡の遺物はほとんどない。1号住居跡は東壁火にカマドを持ち煙道は緩やかに東に延びていく。床面には焼土が4箇所検出されているが焼成は弱い。遺物は内黒、無調整の酸化炎焼成の坏などが出土し、9世紀頃と考えられる。

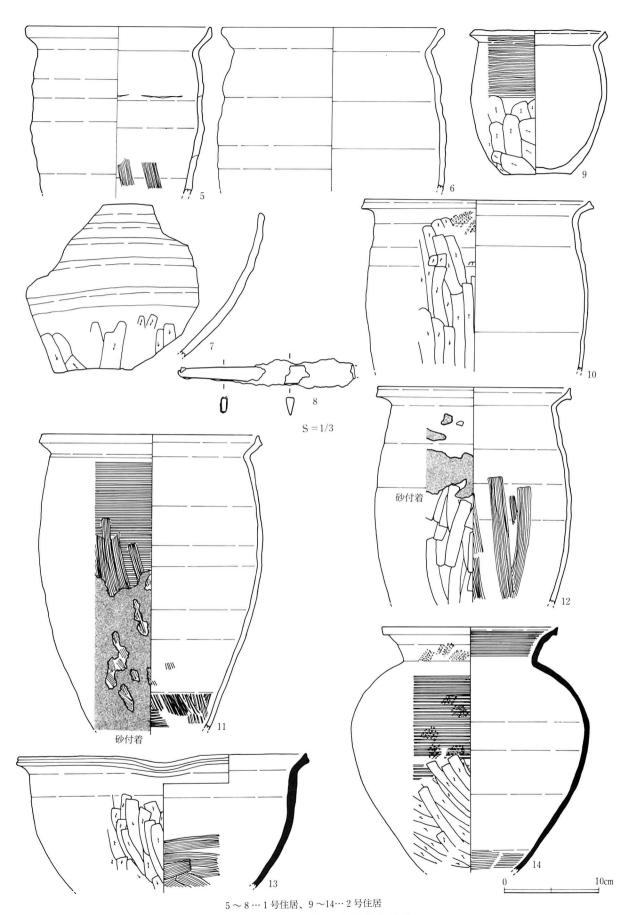
2 号住居跡は位置部しか調査されていないが南側から土師器の甕や須恵器の甕・片口などが出土している。 甕の内 2 点には表面に砂が付着している。これも 1 号住居跡とほぼ同時期と考えられる。



第28図 岩谷堂橋本 [遺跡調査区位置図



第29図 岩谷堂橋本 I 遺跡検出遺構・出土遺物



第30図 岩谷堂橋本 [遺跡出土遺物

6 担い手育成基盤整備事業真城地区関連調査

砂川遺跡 (NE36-1359)

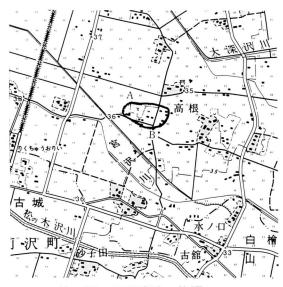
所在地:水沢市真城地内

施に至っている。

事業者:水沢地方振興局胆江土地改良事業所 調査期日:平成8年4月11日~23日(5日間)

今回の調査は、ほ場整備事業によって遺跡内に掘削が 及ぶことから、当初においては埋蔵文化財の存在状況の 確認を目的として実施している。しかし、農業用水路が 設計されている部分では、工法の変更等による現状保存 が極めて困難であることから、やむをえず緊急調査の実

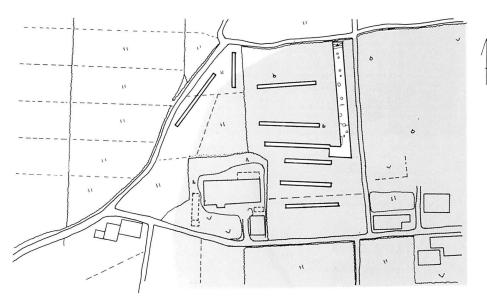
遺跡は胆沢扇状地の東端部近く、北上川、胆沢川を始めとする大小の河川によって形成された自然堤防状の微



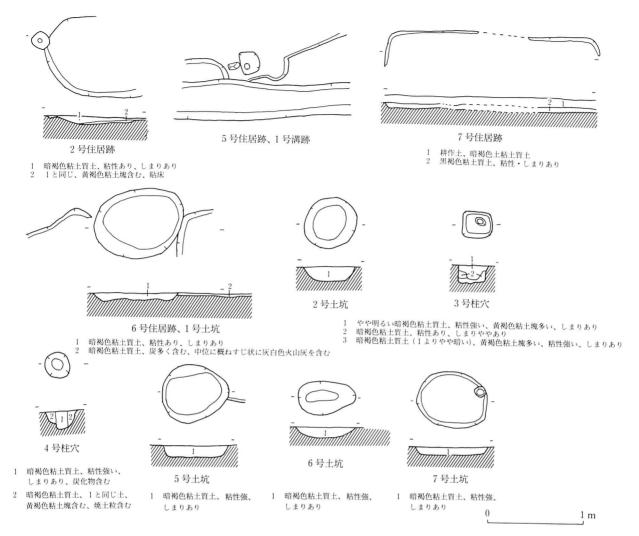
第31図 砂川遺跡の位置

高地に立地している。この付近では、扇状地南端部に近いほど微高地の形成が弱いものの、ほとんどの微高地には平安時代前半期の集落跡が営まれている。また、この地区よりさらに東側の姉体地区では、同様の微高地に縄文時代晩期後半から弥生時代中期にかけての遺跡が形成されていることもあり、若干の集落選地の違いが観察される。

砂川遺跡の立地している地形も、周辺の他の遺跡と同様微高地上に立地している。標高約35m。遺跡の北側部分が現況で最も高い部分にあたり、周囲の水田との比高は1m弱である。本来はなだらかな斜面として低地部に延びていたと考えられるが、現在は水田造成の際の削平によって遺跡範囲が不明瞭になっている。調査地点が大きく2か所に分かれたため、遺跡内の西側についてA地点、南東側についてB地点と便宜的に命名した。



第32図 砂川遺跡 (A地点)調査区位置図



第33図 砂川遺跡 (A地点) 住居跡等平面図及び断面図

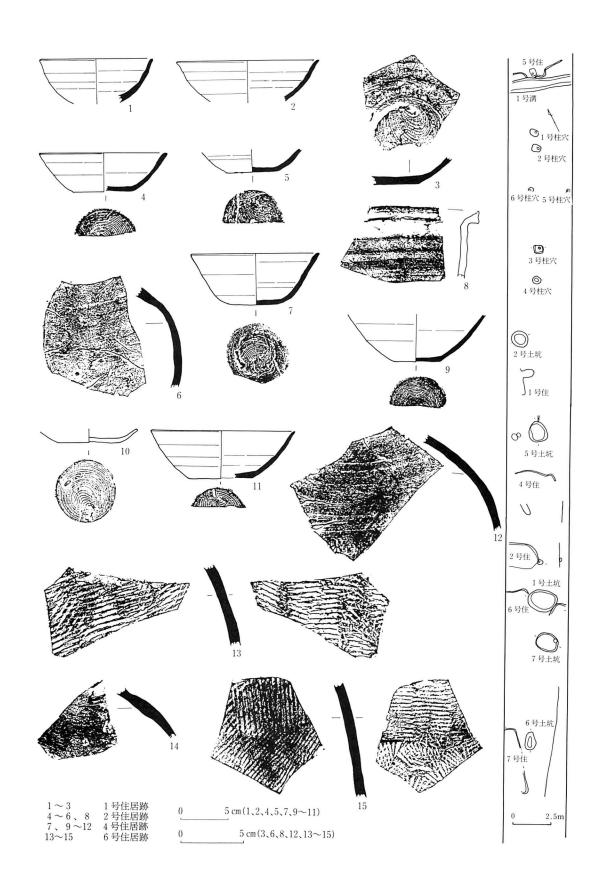
A地点は、東側にかけて広がる果樹園一帯に遺構が集中すると考えられるが、調査はその西側の休耕田を利用した畑地を対象とした。現在の耕作土は20cm程度で、その直下で古代の遺構が確認される。すでに、遺構の一部は水田造成によって削平され、竪穴住居跡などの相対的に浅い掘り込みを持つ遺構は、底面の床面部分やカマドに付随する焼土のみが検出された。また、東西方向ほぼ1m間隔で、幅30cm前後の果樹植樹の際の溝が掘られ、遺跡が寸断されていた。地山は灰黄褐色の粘土質の土壌で、乾燥時には硬化する。

検出された遺構はすべて平安時代前半期に属すると考えられる。不明瞭なものを含め、竪穴住居跡 6 棟、 土坑 4 基、柱穴跡 6 基、溝跡 1 条である。

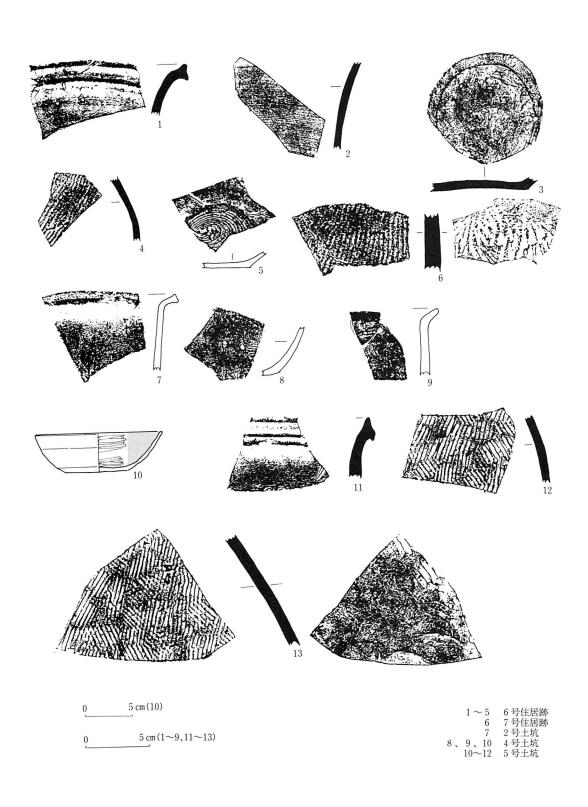
竪穴状居跡は明確に平面形をとらえられず、わずかに残っていた地山から掘り込まれた壁の立上がりと、 焼土及び炭化物、土師器・須恵器等の分布状況から確認している。比較的明瞭であったものは1、2号住居 跡で、1号住居跡ではカマドを構成する焼土が確認されたほか、須恵器坏が出土している。その他の住居跡 ではわずかに壁の立上がり状の掘り込みが観察されている。

土坑は円形または楕円形を呈し、断面形は浅皿状となる。 2 号及び 5 号土坑では須恵器や内黒処理を行った土師器が出土している。

また、柱穴跡はいずれも掘り込みが明瞭で柱アタリも確認できることから、掘立柱建物跡を構成する柱穴



第34図 砂川遺跡 (A地点) 平面図及び遺構内出土遺物



第35図 砂川遺跡 (A地点)遺構内出土遺物

跡の一部である可能性が高い。遺跡の遺存状態が極めて悪く、柱列の並びについては十分に確認できなかった。4号柱穴跡では土師器片等を出土している。

出土遺物は整理箱で1箱である。一部の遺構から出土した須恵器环を除いて小片が多い。坏底部の切り離しが回転糸切りによって行われていることから、9世紀代後半を中心とする時期の集落跡と考えられる。

B地点は現在水田化されていて旧地形の復元は困難であるが、調査区西側から北側にかけて青灰色のグライ化した粘土層となって、黄褐色粘土の地山は観察されないことから、南向きの傾斜面であって、しかも小さく舌状に張り出していたものと推定される。

検出された遺構は、掘立柱建物跡 1 棟、土坑、溝跡である。これらのうち、 2 号溝跡は浅い掘り込みで、 南端部分の立上がりが不明瞭であった。全体に上部が若干削平されているものと考えられる。

掘立柱建物跡は、検出部分で、桁行1.8m3間、梁行2.1m2間で、東側に庇が付属する。南側未調査域に さらに延びると予想される。8号柱穴に代表されるように、柱痕跡の太さに比して堀方は小さめである。深 さは20~30センチほどである。8号から内黒土師器片、9号から須恵器片が出土している。

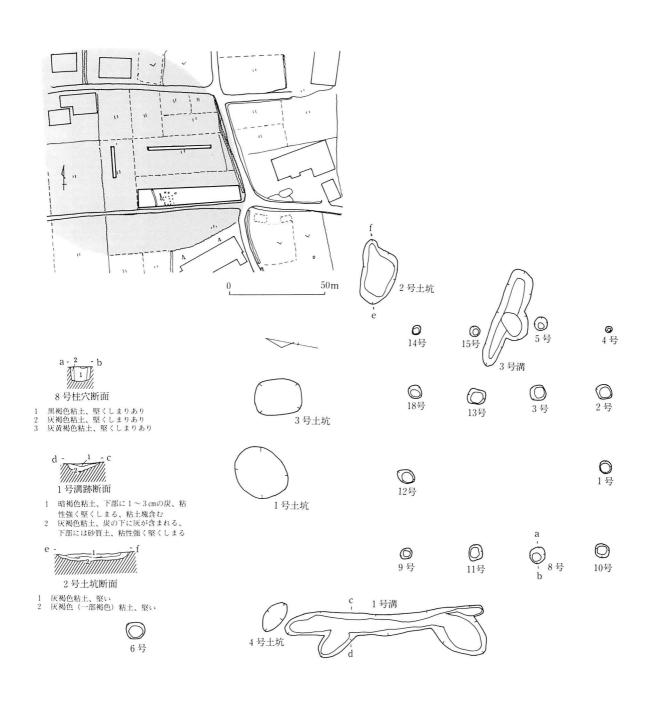
土坑は4基検出されている。このうち、水路掘削部分にあたる2号土坑については完掘し、1・3・4号はプランの検出に止めた。不整形な土坑であるが壁面及び立上がりは明瞭で、地山と埋土の識別も容易であった。出土遺物は少ないが、底部付近の外面に再調整痕を残している。

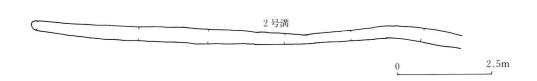
講跡は3条検出されている。1号講跡は両端がとぎれる形態で、2か所が不整形に張出しているが、埋土の観察からは複数の遺構の重複関係であるかどうかの判断が困難であった。浅いU字状の断面を呈している。南側の埋土中には焼土粒や灰、炭化物を多く含み、さらに37図1の頸部のしぼりこみの痕跡をよく残しているきめ細かい胎土の長頸壺が出土するなど、特異な様相が観察された。全体に遺物量は多く、完形に近い内黒土師器坏や須恵器坏、砥石、ウルシ状の被膜なども出土している。

2号溝跡は遺構が確認されたレベルでわずかにその痕跡を止めていたものの、その掘り込み等の形状について具体的に確認するまでには至らなかった。3号溝跡は掘立柱建物跡の庇部分に重複して検出されている。1号同様一部不整形である。建物跡との新旧関係については明らかではない。

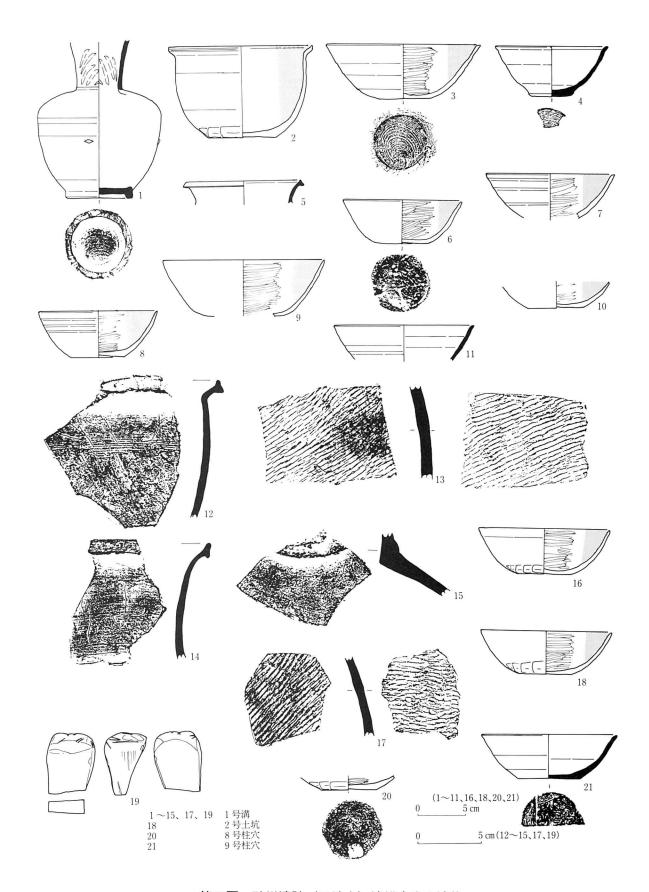
B地点でもA地点と同様に粘土質の地山上で遺構が確認されている。しかも、その埋土はかなり粘性に富んでいる。また、ある時期以降水田として利用されてきていたことから、地下部分では滞水状態が続くこともあったと考えられる。こうしたことから、このB地点ではA地点以上に遺物表面が磨滅したような状態で検出され、土師器はもちろん比較的焼成の良好な須恵器においても、器表面の観察に困難をきたすほどであった。

以上より、砂川遺跡が9世紀後半を中心とする集落跡であるということが推定される。ただしA・B両地点の間では若干様相がことなっている。A地点が掘立柱建物跡に加え、竪穴住居跡を中心に構成される集落の様相を呈することに対して、B地点では1棟ではあるが庇付きの掘立柱建物跡が検出されている。また、両地点とも出土遺物は少なくないが、A地点では須恵器(特に坏)を主体的に出土することに対して、B地点では内面黒色処理のされる土師器が主体である。若干の時間差が考慮されると同時に、遺跡内の性格の差をも視野に含める必要があるように思われる。





第36図 砂川遺跡 (B地点) 平面図及び遺構配置図



第37図 砂川遺跡 (B地点) 遺構内出土遺物

II 試掘調査

1 三陸縦貫自動車道山田道路関連調査

沢田 I 遺跡 (LG94-0032)

房ノ沢IV遺跡 (LG94-0050)

所在地:山田町第14地割沢田地内

事業者:東北地方建設局三陸国道工事事務所 調査期日:平成8年5月23日~24日(2日間)

10月1日~2日(2日間)

沢田 I 遺跡は山田湾に面した小扇状地に立地する。本 遺跡は、平成6年度より調査が継続されている。今年度 においては、まず、従来から継続調査を実施してきた道 路本体部分にかかる部分とは別に、北側を迂回する工事 用道路予定地部分について、内容の確認を実施した。

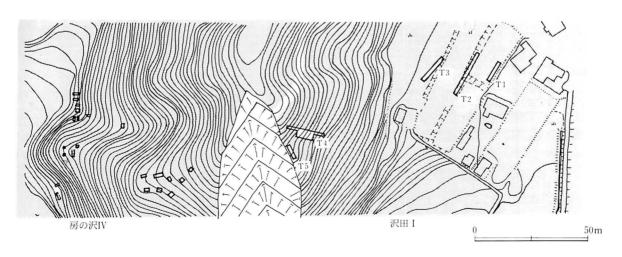
工事用道路予定地部分は、宅地または水田等として利



第38図 沢田 I・房の沢IV遺跡位置図

用されており、小規模な平坦地が連続している。その平坦な整地部分を北側から南側にかけて、 $T1\sim5$ のトレンチを設定した。その結果、いずれのトレンチでも斜面下部にかけて盛土が厚くなされ、遺物を包含する黒色土が保存されている。残存部分より、それぞれのトレンチで1棟づつ平安時代の竪穴住居跡が検出された。さらに黒色土中では縄文時代前・中期の土器が出土することから、縄文時代の遺構の存在も予想される。このことから、工事用部分についてはそのほとんどを盛土工法をとって暫定的に利用することとし、利用後は盛土を撤去して現状に復することで事業者と協議し、遺跡の保存を図ることとした。ただし、南西側の斜面に最も近い約50㎡については、平成8年度中に調査を実施し、記録保存することとした。

南側の斜面部分の試掘調査は10月1~2日の二日間行っている。斜面に直行するものと尾根に沿ったものと2箇所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無等の確認を行った。尾根付近では表土の直下が黄褐色土で遺構・遺物とも確認されなかった。ただ、隣接する房の沢IV遺跡では尾根上で古墳が検出されており、それが広がってくる可能性がある。斜面部分では表土の下に30cm前後の黒褐色土が認められ、ここから鉄滓・須恵器・磨製石斧などが出土しトレンチの中央やや上より出は炭が多く分布している。古代の製鉄関連の遺構が存在する可能性がある。(平成9年度本調査予定)



第39図 沢田 I・房の沢IV遺跡調査区位置図

房の沢IV遺跡は沢田 I 遺跡に隣接し、山田北小学校の裏側に延びる尾根とその南側の埋没した沢地形が本遺跡の範囲と考えられる。遺跡の標高は $4\sim60\,\mathrm{m}$ である。当初は南側の沢部分だけが遺跡範囲と考えられていたが、下の調査で製鉄や古墳に伴うと考えられる遺物が出土したことや、木材の切り出し道路で須恵器等の遺物が採集されたことから遺跡の範囲が尾根まで広がることが確認された。

試掘調査では、尾根と斜面の内比較的平坦な部分を選んで試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の有無等を 確認した。

比較的平坦で山田湾に向かって南東に延びているこの尾根上の平坦部では炭・焼土などが確認されている。 また、若干くぼんでいるところが何カ所か認められ、ほかに、尾根の先端付近にはマウンド状の構築物が表 面から観察されており、何らかの遺構である可能性が認められた。

本遺跡については、平成8年度中に本調査が行われることになり、岩手県埋文センターにより房の沢IV遺跡第二次調査として平成8年9月2日~11月7日まで発掘調査が行われた。発掘調査の結果、7世紀後半~8世紀の古墳25基・木炭窯などが検出され、古墳に伴って刀剣類・馬具などが出土した。

(平成9年度発掘調査継続予定)



第40図 沢田 I 遺跡出土遺物

2 三陸縦貫自動車道大船渡道路建設事業関連調査

萱中III遺跡 (NF29-1103)

所在地:大船渡市立根町字萱中地内

事業者:建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

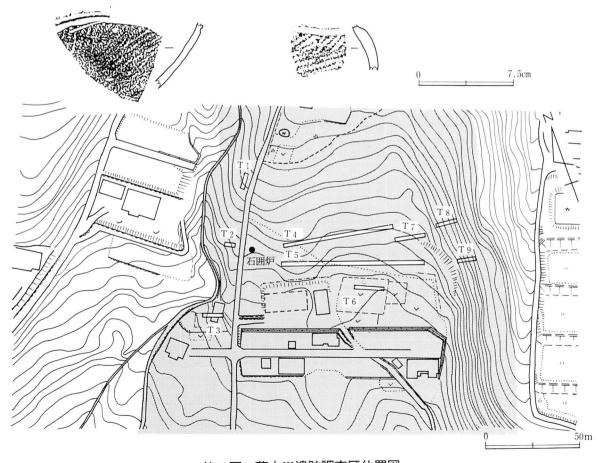
調査期日:平成8年9月2日~3日

萱中III遺跡は東側に盛川をのぞむ緩やかな南東斜面に立地し、南側は沢、北側は東西に東西に延びる尾根が遺跡の広がりを区切ると考えられる。南側の沢の向こう側は野尻 I 遺跡である。今回の調査区の標高は103~120mである。試掘調査に入る前に、旧地権者により畑の耕作土が持ち去られており、調査区の南側で、縄文時代晩期の竪穴住居跡に伴うと考えられる石囲炉が露出した状態になっていた。



第41図 萱中III遺跡の位置

今回の試掘調査では、沢に沿った部分とほぼ南北に延びる事業予定地内に9箇所の試掘トレンチを設定している。調査区は一部を除き山林で厚さ50cm程の黒褐色土で覆われ、その下は大きな礫を含む黄褐色土である。調査の結果、西側の石囲炉付近では縄文土器片などの遺物が確認された。また、T5のほぼ中央で土器片が出土したほか、T6に隣接する畑でも縄文土器が採集される。(平成9年度本調査予定)



第42図 萱中III遺跡調査区位置図

3 胆沢ダム建設事業関連調査

・尿前II遺跡 (NE21-2236)

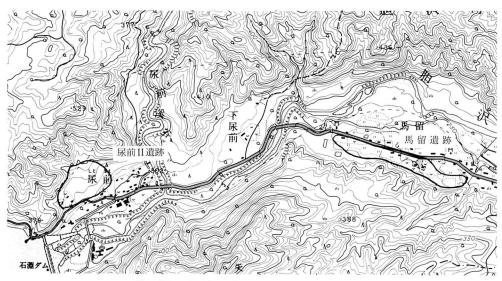
所在地:胆沢郡胆沢町若柳字尿前

事業者:建設省東北地方建設局胆沢ダム工事事務所

調査期日:平成8年9月25~27日

• 馬留遺跡(NE23-2007) 胆沢郡胆沢町若柳字馬留

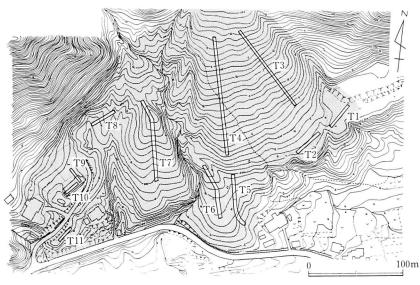
平成8年10月14~16日



第43図 尿前 II 遺跡・馬留遺跡位置図

尿前 II 遺跡は石淵ダムの東側の南向きの扇状地上に位置しており、標高は315~355mである。扇状地は遺跡のやや西寄りを南北に横断する沢によって2つに分かれ、それぞれが小さな扇状地になっている。地形図で見るとかなり傾斜が急に見えるが実際に現地で見ると緩やかといって良い南向きの斜面である。

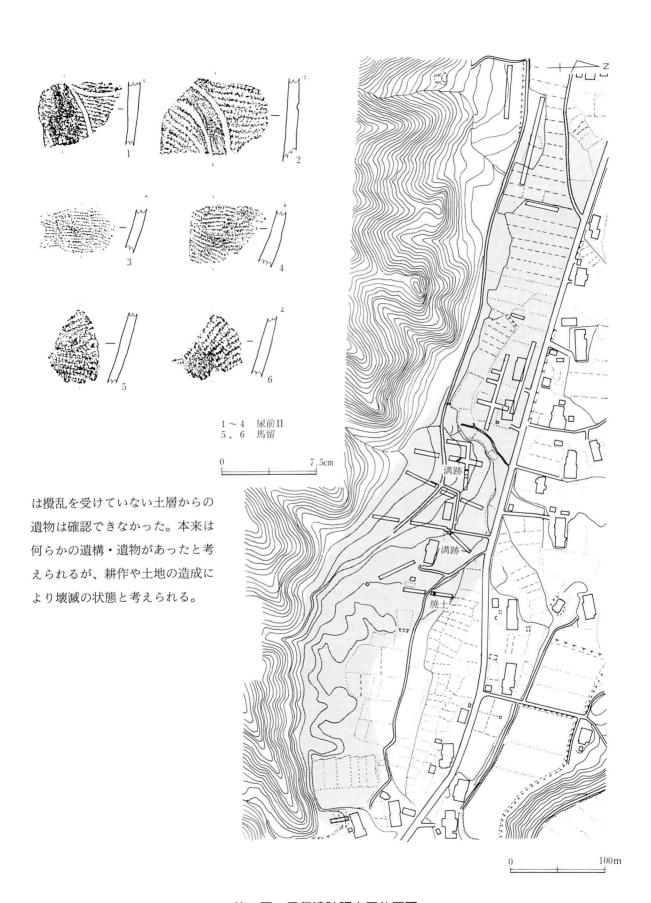
試掘調査ではトレンチを11箇所設定して埋蔵文化財の有無等を確認した。調査の結果、2つに分かれたそれぞれの扇状地の中央やや上よりの比較的平坦になっている位置で縄文時代中期の土器が出土している。扇頂あるいは扇端部では遺構・遺物とも確認されていない。遺物が出土している周辺については、遺構等が存在すると考えられるため、発掘調査が必要である。(平成9年度本調査予定)



第44図 尿前 II 遺跡調査区位置図

馬留遺跡は胆沢扇状地の扇頂部に位置し、胆沢川によって形成された段丘面及びそれに流入する沢の小規模な扇状地からなる。遺跡の標高は260~267mである。

試掘調査では、11箇所のトレンチを設定して埋蔵文化財の有無等を確認した。調査の結果、溝跡・焼土などが検出されているが、埋土からごく最近のものと考えられる。攪乱層や中央道路よりのトレンチなどで縄文時代晩期の土器片が表面採集されたが、遺構あるい



第45図 馬留遺跡調査区位置図

4 北上川上流改修事業川崎地区築堤工事関連調査

河崎の柵擬定地 (OE09-1173)

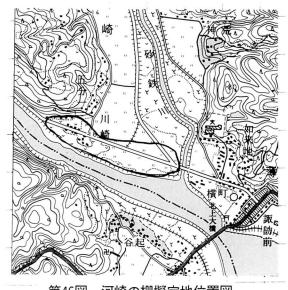
所在地:東磐井郡川崎村門崎地内

事業者:建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日:平成8年11月25~27日(3日間)

遺跡は川崎村門崎地内の砂鉄川と北上川の合流点付近に位置し、両河川に挟まれた自然堤防上に立地している。 遺跡の標高は、15~16mである。

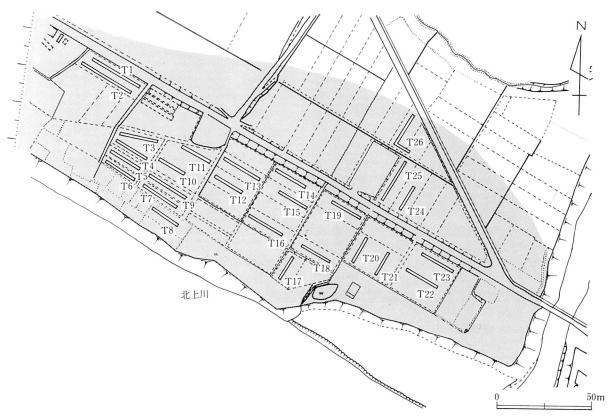
試掘調査では、今回の調査範囲に26箇所の試掘トレンチを設定し埋蔵文化財の有無などを確認している。今回の調査区域はほとんどが低湿地であり、表土を取り去ると多くが河川によって堆積した粘土あるいは砂で、河崎の柵に関連すると考えられる遺構あるいは遺物は検出さ



第46図 河崎の栅擬定地位置図

れなかった。また、その他の遺構・遺物についてはT11で小さな土師器片(内黒)が1点出土しているが、 今回の調査範囲ではない北側の一段高い畑からの流れ込みと考えられる。

河崎の柵の擬定地とされているが今回の試掘調査の結果では、それを支持する事実は確認することはできなかった。しかし、調査対象とはならなかった西側部分はやや高い微高地になっており、また、土師器片が出土していることから古代の遺構・遺物が分布する可能性が高い。事業自体はさらに広い範囲を対象としていることから今後、試掘調査あるいは本調査を行っていくことで河崎の柵に関連するものが確認できる可能性もある。



第47図 河崎の栅擬定地調査区位置図

5 山王海(二期)農業水利事業山王海ダム第4号 付替道路工事関連調査

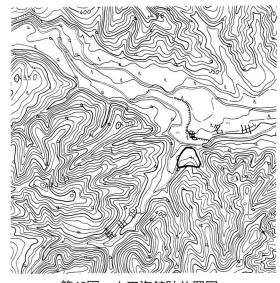
山王海館跡 (LE64-2023)

所在地:紫波郡紫波町土館字的場地内

事業者:東北農政局山王海鹿妻農業水利事業所

調査期日:平成8年6月28日

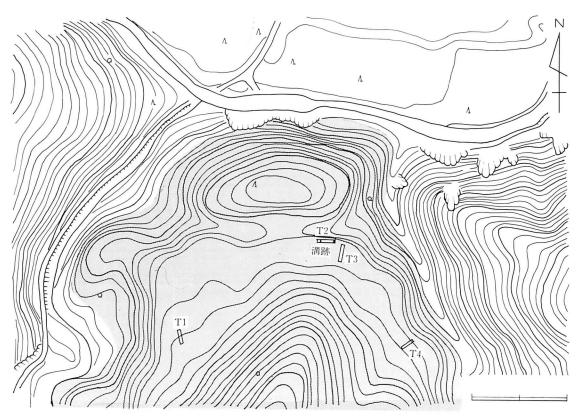
遺跡は滝名川上流の諸倉山の北麓にあり、北側に舌状に延びる台地上に立地する。北は絶壁になっており、滝名川に接する。遺跡の標高は330m前後である。台地状はほぼ平坦で人為的に若干造成してはいると思われるが、もともとかなり平坦な地形だったと考えられる。この平坦地の南側は比較的急な斜面となっている。館跡は平坦地を東西に横切ってかなり大きな空堀が設けられている。



第48図 山王海館跡位置図

空堀の南側には段が一段認められる。道路は当初の計画ではこの堀をとおって作られる予定だったが南側の 斜面に沿った位置に移動されることになった。

調査では、試掘トレンチを4箇所設定し遺構等の確認を行った。調査の結果、T2で講跡が2条検出され、T3、4でも講跡が検出された。T3、4で検出された講跡がはっきりした時期は不明だが、南東側の尾根の裏の沢から延びているもので沢には大きな穴が掘り込まれている。また、平坦地の東西両端には2段程度の平場が表面から観察され、人工的に造成された可能性がある。(平成9年度本調査予定)



第49図 山王海館跡調査区位置図

6 盛岡南部農業水利事業西部揚水機及び西部用水路 工事関連調査

オミ坂遺跡 (LE25-0233)

所在地:盛岡市上鹿妻字蟹沢地内

事業者:東北農政局山王海鹿妻農業水利事業所

調査期日:平成8年6月26日

本遺跡は、飯岡山のふもとに位置し、東側に向いた緩斜面上に立地している。調査区は揚水機場とそこから延びる用水路とに分かれる。揚水機場の標高は140~144m、用水路部分が160~175mである。

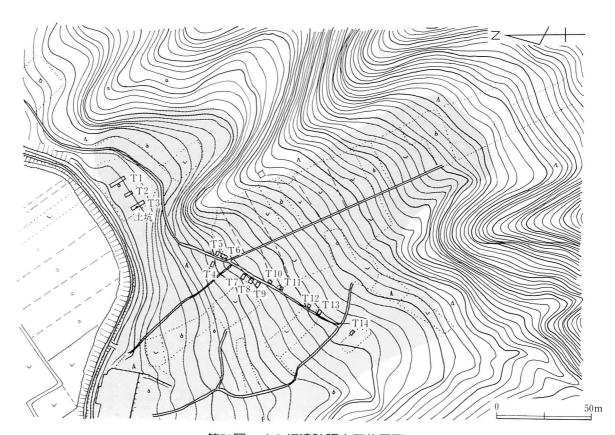
揚水機場部分の調査では3箇所の試掘トレンチを設定 している。調査の結果、T1から弥生時代の土器片が出 土し、T3からは土坑が1基検出されている。その、西



第50図 オミ坂遺跡位置図

側の立木がまだ伐採されていない場所には方形に近い形状のマウンドが認められたが時代や性格は不明である。東側は低くなり厚い黒褐色土も認められるが全体としては遺構・遺物の密度は高くない。

用水路部分は11箇所の試掘トレンチを設定している。こちらでは試掘で遺構は確認できなかったが、T 6 などの表面からは縄文土器、石器、剝片等の遺物が採集される。大きな攪乱も受けていないことから本調査は必要と判断された。(平成 9 年度本調査予定)



第51図 オミ坂遺跡調査区位置図

7 東北新幹線建設工事関連調査

野沢 I 遺跡 (K E 76-1377)

野沢IV遺跡 (KE76-1399)

所在地:岩手郡滝沢村滝沢字野沢地内

事業者:日本鉄道建設公団盛岡支社

調査期日:平成8年10月17~18日、25日(3日間)

野沢 I、IV遺跡は北上川西岸にあり、東に向かって流れる沢の北側に野沢 I、南側に野沢IVがそれぞれが位置している。今回の調査は東北新幹線盛岡以北の工事用トンネルに伴うものである。

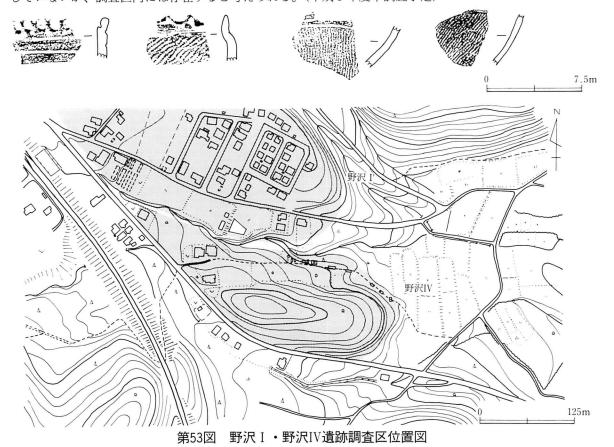
野沢 I 遺跡は標高205~208mで南側の沢に向かって緩く傾斜している。調査対象区域は水田になっており、昭和40年代に重機が入ってかなりの規模で造成されたよう



第52図 野沢 I · 野沢IV遺跡位置図

である。二枚の水田が調査対象となった。上の水田は斜面の下方であっても、大きく掘削されており、埋蔵 文化財は確認されなかった。下の水田からは攪乱された土層ではごく少量の縄文土器片が確認できたが未攪 乱部分では遺構・遺物とも検出できなかった。

野沢IV遺跡は、標高200m前後で北側の沢に向かう緩い傾斜地に立地している。こちらは野沢 I 遺跡とは異なり、現況が畑地などであるため大きな攪乱は受けておらず保存状況は比較的よい。調査の結果、ほぼ沢に沿った調査区の西側を中心に縄文時代晩期の土器が表土あるいはその直下から出土した。今回は遺構は確認していないが、調査区内には存在すると考えられる。(平成9年度本調査予定)



-55-

8 東北新幹線建設事業関連調査

芦名沢 I 遺跡 (K E 47-1348)

芦名沢III遺跡(KE47-1378)

所在地:玉山村馬場字芦名沢地内

事業者:日本鉄道公団盛岡支社

調査期日:平成8年12月9日~10日(2日間)

この地内では、上記のほか芦名沢II遺跡のごく一部が 事業予定地となっている。

芦名沢 I 遺跡は姫神山より流れ出る小河川の右岸の南 向き緩斜面に立地している。遺跡の一部はすでに宅地化 されて破壊されていると考えられるほか、北側牧草地で も若干の土壌の移動は行われている。調査区内にT 1 ~ 4 の試掘トレンチを設定した。T 1 では表土と直下の黒褐



第54図 芦名沢 I・III遺跡の位置

色土の識別が困難な部分もあったが、黄褐色の浮石混じりの層まで1 m以上の深さがあった。この黒褐色土の中央部分に生出スコリア層と考えられる褐色の火山灰層が認められた。

T 2 \sim 4 v 6 同様に黒褐色土が厚いことが確認されたが、v 2 v 3 v 6 v 7 v 7 v 7 v 7 v 8 v 7 v 7 v 8 v 9

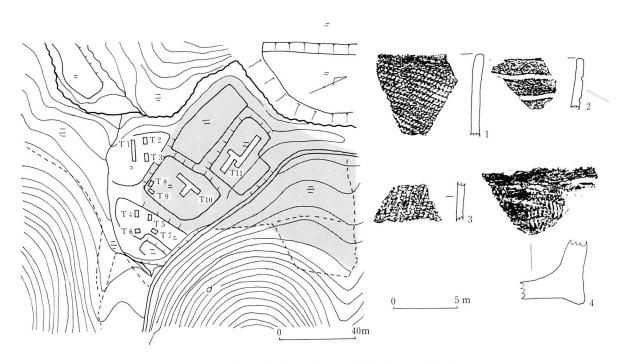


第55図 玉山村芦名沢 I 遺跡調査区位置図及び出土遺物

された。また、ほぼ同じレベルで縄文時代前期の土器片が出土し、しかもある程度まとまって出土することから、縄文時代の遺構の所在も予想される。(平成9年度本調査予定)

芦名沢III遺跡は、I遺跡と小河川を挟んだ南側の対岸に立地している。周辺は小規模な水田として利用されており、旧地形の改変は著しい。この付近は、本線工事が予定されている部分と、仮設の工事用施設が予定されている部分とに大きく分けられる。

本線工事予定地部分には、 $T1\sim9$ を設定した。これらの範囲のほとんどでは南側からの旧沢筋の埋没と考えられる砂層及び暗褐色ないし青灰色粘土層が観察され、遺物等は出土していない。また、T1では二次堆積と考えられる焼土と炭化物粒が検出されているが、遺構の所在は確認できなかった。仮設施設予定地部分では、T10、11とも縄文時代中期の土器片及び現地性の焼土とそれに付随する竪穴住居跡状の遺構が2基検出された。いずれも表土直下で、開田工事の際に若干の削平が行われていると考えられる。この仮設施設部分については、工事予定期間のみの暫定的構築物であることから、盛土によって仮保存し、工事終了後は原状に復して保存することとした。



第56図 玉山村芦名沢 | 遺跡調査区位置図及び出土遺物

9 一般国道456号大平地区道路改良事業関連調査

荒神社前遺跡 (NE29-1079)

所在地:江刺市田原大平地内

事業者: 岩手県水沢土木事務所

調查期日:平成8年11月6日

遺跡は北上山系を北側方向及び北東方向より開析する 小規模な沢に面した南東向き緩斜面の先端部分に立地し ている。遺跡付近の標高は約150m。遺跡名称として使用 した荒神社が、西側の尾根上の張り出しの先端部に所在 している。

調査は、今回道路改良工事が予定されている部分のうち、立ち入り試掘が可能な畑地について実施した。 T1 では表土下に崖錐性の粘板岩を多量に含む粘性の強い黒

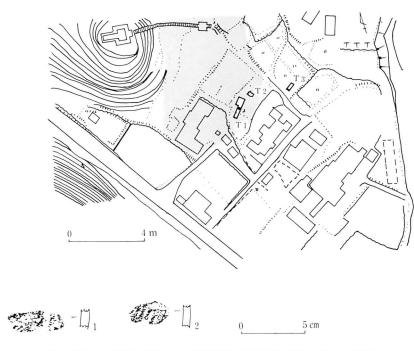


第57図 荒神社前遺跡の位置

褐色土が堆積し、縄文土器が包含されていた。また、その直下では炭化物を含んだ暗黄褐色の落ち込みが上面で確認されたため、土坑の可能性が強いと判断された。また、T2では表土下の黒褐色の土層は削平されていたものの遺物が出土する。さらに、T3の水田では盛土層が確認されたことから、神社の尾根より延びる東西の沢に挟まれた張り出しを遺跡の広がりと認定した。

出土遺物は、縄文土器片が少量である。いずれも小片であるが、焼があまく胎土に繊維を含んでいることから、縄文時代前期に属するものと判断した。(平成9年度本調査予定)

なお、この地点より南東約300mに同じ事業関連で調査を予定している大平古館跡が所在している。試掘調査は実施していないものの、最上部が整地され、斜面中腹に平場が認められるなど、遺構が明瞭に観察される。(平成9年度本調査予定)



第58図 江刺市荒神社前遺跡調査区位置図及び出土遺物

10 主要地方道一関北上線道路改良関連調査

館 I 遺跡 (ME66-1284)

所在地:北上市黑沢尻町字立花地内

事業者:岩手県北上土木事務所 調査期日:平成8年11月5日

遺跡は片君川左岸に立地している。この付近は東側では付近まで丘陵地形が延びてきているが、わずかに段丘地形の発達もみられる。遺跡そのものは現在水田となっているものの、試掘調査の結果から自然堤防上の微高地に立地していることがわかる。

道路事業予定地内にT1~11を設定した。T2及びT3では表土(現水田耕作土)下に黄褐色のシルト質の土壌が堆積し、この上面で古代の柱穴跡などが検出される

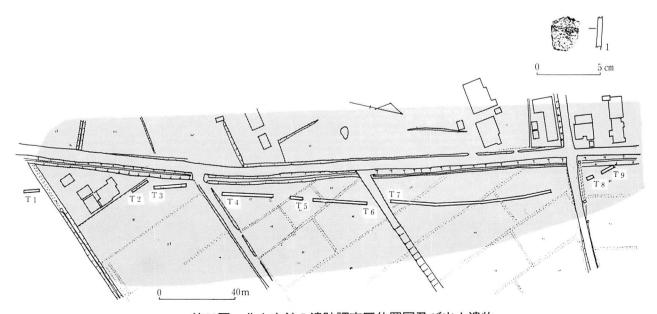


第59図 館 I 遺跡の位置

ことから、当時の生活面ののる土層であると考えられた。T 4 の中央付近から北側に向かって黄褐色シルト質層は次第に薄くなり、下位の青灰色粘土質層に漸移的に変化する。この層中での遺構確認は困難であった。

T 9 北側にさらに 2 本のトレンチを設定している。これらの箇所は宅地及び畑地として利用されており、若干の攪乱があるものの地山は T 1 ~ 9 までとは異なっている。遺物・遺構とも確認できなかった。また、T 1 では 5 以北と同様に黄褐色シルト質土層は検出されず、また、標高も低くなっていくことから、遺跡の範囲から外れるものとして判断した。

出土遺物は土師器等平安時代の土器片が少量で、T2~3で確認されている。(平成9年度本調査予定)



第60図 北上市館 I 遺跡調査区位置図及び出土遺物

11 主要地方道水沢米里線桜沢地区改良関連調査

佐野原遺跡 (ME16-0365)

所在地:水沢市佐倉河字佐野原地内

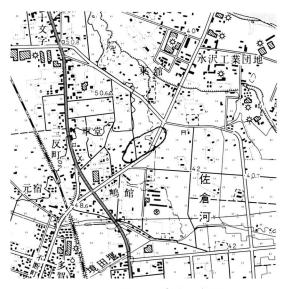
事業者:岩手県水沢土木事務所

調査期日:平成8年4月17日

遺跡は北上川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡ののる段丘面は水沢面で、西側に広く水沢市街が広がっている。これより低い段丘面との比高は2m程度である。

調査区は現道の両側で、北側の高い部分は宅地、南側の低い部分は畑地となるが、さらに現在の水田面とはわずかな高低差を有している。

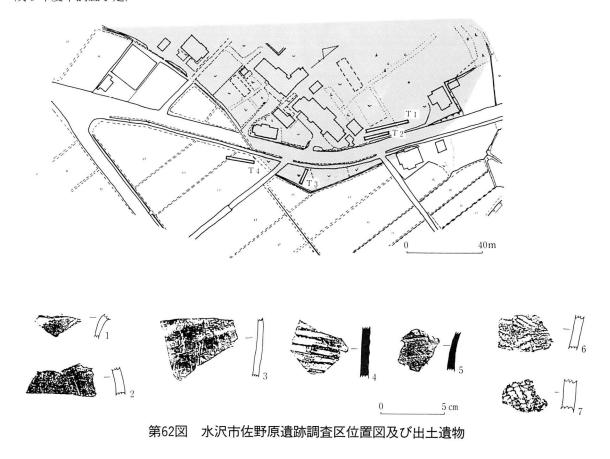
調査区内に4か所のトレンチを設定した。T1、2で は厚い耕作土中に土師器・須恵器が混在している。地山



第61図 佐野原遺跡の位置

面では黒色の落ち込みが認められる。また、炭化物が集中する箇所もある。T3では表土及びその直下の黒褐色土層、さらに地山層に小円礫を多く含むことから、T1、T2部分とは土壌の形成要因が異なっていると考えられる。T1と同様に土師器等が出土するほか、縄文土器片も出土している。T4は低い水田面にあたり、表土下が人頭大の礫を含むグライ化した層となることなどから、遺跡から外れる部分であると判断した。

出土遺物はいずれも小片であるが、古代の遺物については平安時代の前半期、9世紀代と考えられる。(平成9年度本調査予定)



12 二級村道川井線川井地区市町村道整備関連調査

成谷遺跡 (JF46-1066)

所在地:山形村川井第2地割地内

事業者: 岩手県久慈土木事務所

調査期日:平成8年11月11日~12日(2日間)

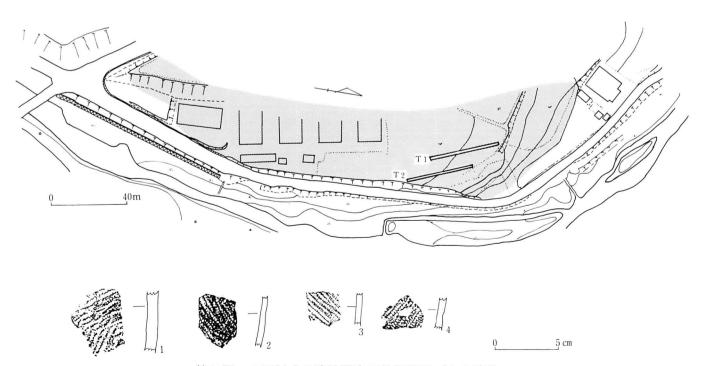
遺跡は、遠別川左岸の低位の河岸段丘上に立地している。遺跡西側には近年開削された林道が南北に走っている。その工事及び鶏舎建設の際に、丘陵端部に連なる部分で後期旧石器時代の黒色の頁岩を用いた石刃を主体とする石器群が出土し、現在村教育委員会等に保管されている。

今回の調査は事業予定地のうち、公有地化された一部 分について実施した。村道に平行する形で2本のトレン



第63図 成谷遺跡の位置

チを設定した。出土遺物は縄文土器及び土師器である。主に遺物を出土したのはT2南側の部分で、この付近では表土下に黒色の遺物を含む層が20cm前後堆積している。また、このトレンチでは土坑と考えられる落ち込みや、遺構に伴う焼土も検出されている。南側鶏舎部分は未調査であるが、上部が若干削平されている可能性もある。出土遺物は縄文時代後期~晩期に属すると考えられる。(平成10年度以降本調査予定)



第64図 山形村成谷遺跡調査区位置図及び出土遺物

13 二級村道川井線川井地区市町村道整備関連調査

大平遺跡 (JF46-0153)

所在地:山形村川井第4地割地内

事業者: 岩手県久慈土木事務所

調査期日:平成8年11月11日~12日(2日間)

遺跡は久慈川と遠別川の合流点付近に形成された高位の河岸段丘及び丘陵から延びる尾根上に立地している。 遺跡から南東方向は、かなりの急傾斜となり遠別川に面した低い段丘面につながっている。遺跡中央の平坦な部分をほぼ南北方向に林道が通っていて、過去の調査でその切り通しより後期旧石器時代の剝片が採集されている。

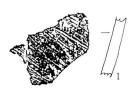
今回の調査はこの下部の段丘面から上部の丘陵尾根部 分にむけて、おもに立木伐採が終了している部分を中心



第65図 大平遺跡の位置

T5では表土下に黄褐色の軟質の土壌が堆積し、その中から縄文時代早期の土器片が出土した。この付近では尾根部分がやや平坦な平場状を呈しており、東側に向かって少しづつ高くなっていく。さらにその東部は急斜面の崖となっている。同様にやや広い平坦面に $T6\sim9$ を設定した。しかし、この箇所では遺物の出土はなく、遺跡の範囲外であると判断された。これらより、T5を中心とした尾根上の平坦な部分について遺跡が形成されているものと考え、本調査の対象とした。(平成9年度本調査予定)





0 5 cm

第66図 山形村大平遺跡調査区位置図及び出土遺物

14 一般国道283号道の駅整備事業関連調査

寒風遺跡 (MF44-2146)

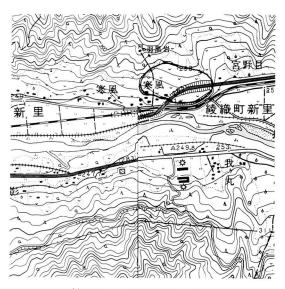
所在地:遠野市綾織町新里第8地割

事業者: 岩手県遠野土木事務所

調査期日:平成8年4月23日

遺跡は遠野盆地の北西部に位置する。遺跡南側を猿ケ石川が西流している。遺跡の立地している面は、この猿ケ石川によって形成された段丘と、盆地北側より延びる丘陵の端部にかかっている。南北にかなりの角度で傾斜しているため表土層は薄く、また本来の遺物包含層もある程度流出しているものと考えられる。

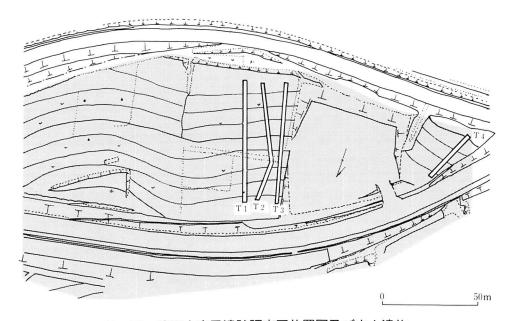
道の駅事業予定地内は、地元市が主体となる部分と県 主体部分とに分かれ、前者については遠野市教育委員会 が予備調査を実施している。



第67図 寒風遺跡の位置

調査の結果、 $T1\sim3$ は北側の高い部分ほど表土、遺物包含層とも薄く、南側の低い部分では一部テラス状の地形を呈する部分に、厚く黒色土が堆積していた。近年まで畑地として利用されていたことから、東西に走る上幅30cm程度の溝が複数確認されている。また、T3北側部分で、落とし穴状遺構など土坑が数基検出された。T4調査区部分では、表土下に人頭大以上の角礫が多く含まれ、かなり大規模な土砂の移動が行われていることが明らかである。T3とT4の間は切土と盛土によって整地されているが、当該箇所の遺物の分布がごくまばらであると考えることから、調査対象から除外した。

出土遺物は、縄文土器片が少量である。いずれも小片であるが、縄文時代早期後半の表裏縄文期の深鉢が 出土している。(平成8年度遠野市教育委員会本調査済)



第68図 遠野市寒風遺跡調査区位置図及び出土遺物

15 ふるさと農道整備事業唐戸崎地区関連調査

唐戸崎遺跡 (ME45-0352)

唐戸崎II遺跡 (ME45-0357)

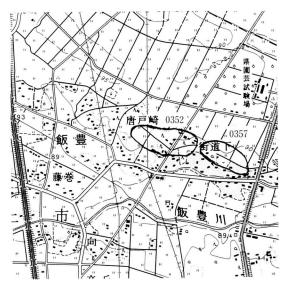
所在地:北上市飯豊唐戸崎地内

事業者:岩手県花巻地方振興局花巻土地改良事業所

調査期日:平成8年11月21日~22日(2日間)

遺跡は飯豊川左岸の河岸段丘状の微高地に立地している。この農道改良事業に関連して5遺跡の試掘調査を実施しているが、そのうち東側の2遺跡について記述する。

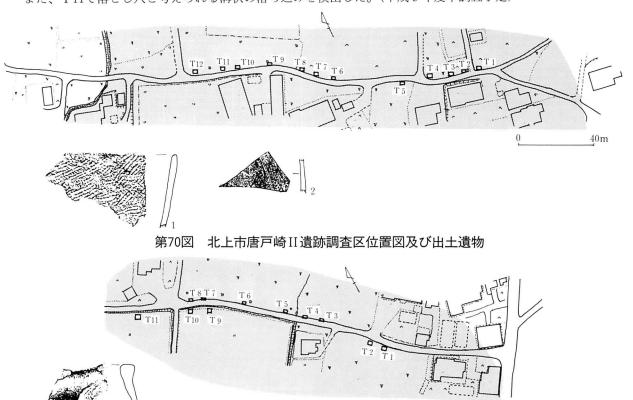
唐戸崎遺跡は、南側が広く開田されており、現道部分がわずかな段差を伴って北側の水田につながっている。 北側畑地では遺物はほとんど採集できず、良好に遺跡が保存されている可能性が高い。水田部分では、南端を中



第69図 唐戸崎、唐戸崎 I 遺跡の位置

40 m

唐戸崎 I 遺跡は、唐戸崎遺跡から小さな沢を挟んで東側の微高地にあたる。現道に沿って12か所のトレンチを設定した。その結果、T7 の地山面上で暗褐色の落ち込みが検出され、縄文土器と土師器が出土した。また、T11で落とし穴と考えられる溝状の落ち込みを検出した。(平成 9 年度本調査予定)



第71図 北上市唐戸崎遺跡調査区位置図及び出土遺物

16 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 徳田第一地区

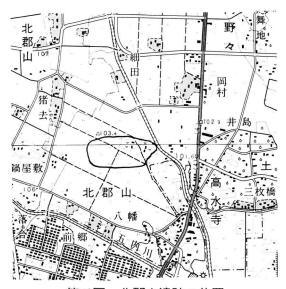
北郡山遺跡 (LE57-1037)

所在地: 矢巾町大字北郡山

事業者:盛岡南部土地改良事業所

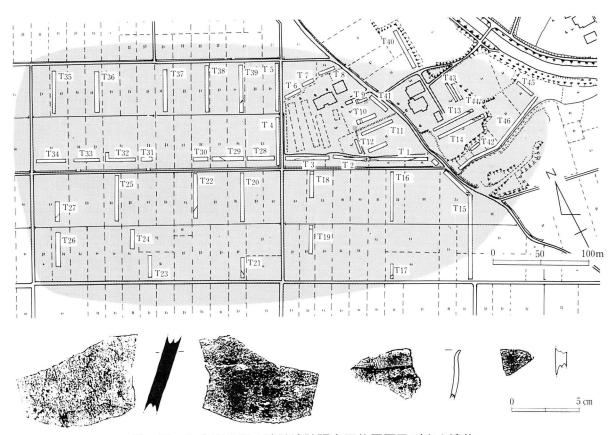
調査期日:平成8年10月21日~22日、11月20日(3日間) 北郡山遺跡は北上川支流の中小河川によって形成され た沖積地の微高地に立地し、遺跡東部は岩崎川による段 丘崖によって区切られている。宅地及び畑地部分を除く ほとんどが水田となっており、地形の改変が進んでいる。

試掘調査の結果、現水田部分ではT39で陥し穴状遺構が一基確認されたほか、溝状遺構が数状確認された。T9~12では土師器片が出土し、小土坑も数基確認された。これらの区域は盛土によって保存されることとなった。



第72図 北郡山遺跡の位置

 $T13\sim15$ および $T43\sim44$ では陥し穴状遺構数基と小土坑多数が検出された。遺物はT15に集中し、土師器20数点・須恵器 1 点が出土した。T15は水路予定分であり、 $T13\sim14$ 、 $T43\sim44$ は削平予定であったため、本調査をする予定だったが、後者の区域は河川改修の残土を低位水田部分に利用することによって、計画を変更し保存することとなった。T15部分のみ本調査となる。(平成 9 年本調査予定)



第73図 矢巾町北郡山遺跡遺跡調査区位置図及び出土遺物

17 担い手育成基盤整備事業大巻地区関連調査

大巻長沢尻遺跡 (LE77-1234)

赤川館跡(LE77-1225)

所在地:紫波郡紫波町大巻地内

事業者:盛岡南部土地改良事業所

調査期日:平成8年5月5~10日、8月20日(5日間) ここはふたつの遺跡が重複しており、調査の結果検出 された遺構等も館跡・古代の集落跡両方が混在している。

遺跡は北上川左岸沖積地中の微高地上に立地しており、標高は92m前後、周囲との比高は1~2mである。遺跡の東側には野村胡堂の生家があり、付近には胡堂のあらえびす記念館がある。今回の試掘調査はほ場整備に伴うもので、事業予定地内に、試掘トレンチを適宜設定し、埋蔵文化財の有無等について確認した。

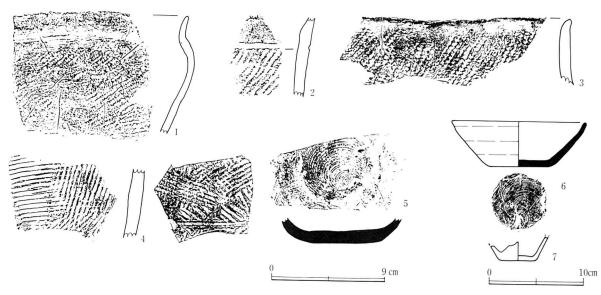


第74図 赤川館、大巻長沢尻遺跡位置図

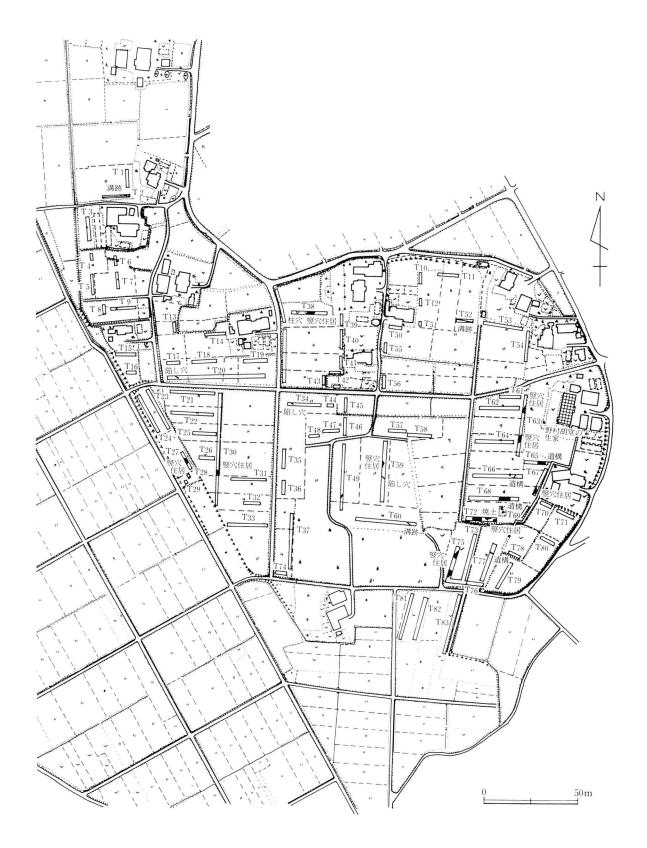
調査の結果、古代の竪穴住居跡、縄文時代と考えられる陥し穴状遺構、時期不明(中世?)のピット類・ 溝跡・焼土跡などが検出された。遺物は、平安時代、縄文時代の土器片などが出土している。検出された遺 構は微高地の東西の縁辺部の比較的集中している。

縄文時代と考えられる遺構は陥し穴状遺構だけだが、遺物はT49、T53などにやや集中して縄文土器片が認められる地点がある。竪穴住居跡など縄文時代の何らかの遺構も微高地上に存在するものと考えられる。主に平安時代と考えられる竪穴住居跡は合わせて10棟確認されているが、これらも東西の縁に位置している。確認できたものだけで10棟になるので微高地全体ではかなりの数の古代の住居跡があると推定される。館跡に確実に伴う遺構・遺物は確認できなかったが、溝跡や柱穴状ピット、性格不明の遺構の中には中世の館跡に伴う遺構が含まれる可能性が高い。

今回の事業については古代や縄文時代の遺構・遺物が確認されたが、工法等の変更により盛土によって埋蔵文化財が保護されることになった。



第75図 赤川館、大巻長沢尻遺跡出土遺物



第76図 赤川館、大巻長沢尻遺跡調査区位置図

18 低コスト化水田大区画ほ場整備長岡地区関連調査

東長岡天王II遺跡(LE57-0329)

沼田遺跡 (LE57-2272)

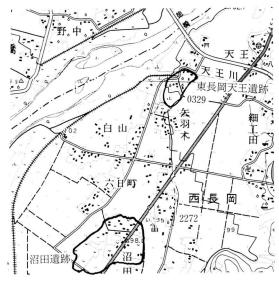
所在地:紫波町東長岡地内

事業者:盛岡地方振興局盛岡南部土地改良事業所

調査期日:平成8年10月28日~29日(2日間)

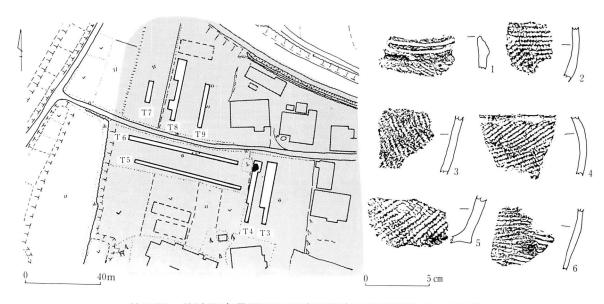
ほ場整備事業長岡地区関連では、全体で6遺跡が事業 予定地内に所在している。平成8年度においては、3遺跡について試掘調査を実施した。そのうち、草刈中屋敷 遺跡については一部の調査に止まったため、次年度に再 調査を予定している。

東長岡天王遺跡は北上川と天王川が合流する河岸段丘 上の微高地上に立地している。当初、分布調査によって



第77図 東長岡天王 II 及び沼田遺跡の位置

確認していた範囲についてT $1\sim 6$ を設定した。T 1、2 は水路予定部分であったが、遺物等は出土していない。T 3、4 は、現在の耕作土下に20cm前後の暗褐色土層が堆積し、さらに地山として黄褐色砂礫層が堆積する。遺構はこの上面で確認されている。T 3 では時期不詳の小柱穴が認められたが、T 4 では北側の端に1 辺が 3 m弱の張り出しをもつ方形の竪穴状の落ち込みが検出された。深さは少なくとも30cm以上で、壁の立上がりは明瞭である。周辺から土師器等の古代の遺物が出土していないことなどから、中世期の竪穴遺構であると推定された。さらに、T 5、6 では縄文土器片が出土し、遺構状の落ち込みも確認されたことから、遺跡の範囲が西側に広がるものと考えられたため、T $7\sim 9$ を設定した。いずれも攪乱土層中ではあったものの、縄文時代中期の土器片が出土している。遺構は確認されず、すでに以前の工事によって破壊されているものと判断した。これらの結果、T 3、4 部分の水田については当初削平工事が予定されていたが、設計変更して盛土により現状保存することとした。



第78図 紫波町東長岡天王 II 遺跡調査区位置図及び出土遺物

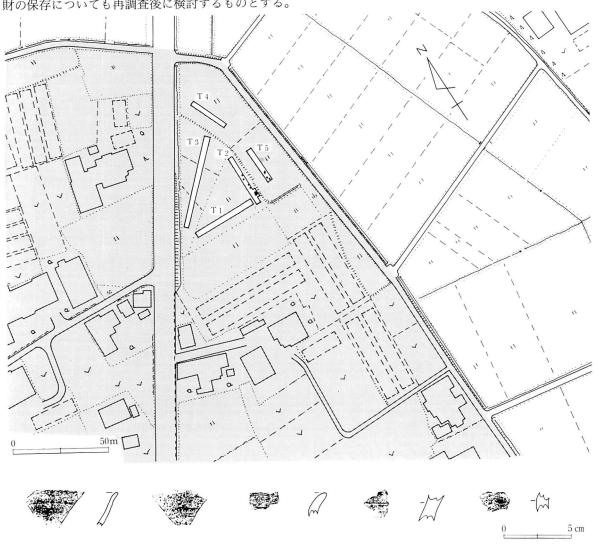
沼田遺跡 (LE57-2272)

所在地:紫波郡紫波町字犬吠森沼田•字後田

調査期日:平成8年10月29日

沼田遺跡は北上川中流域左岸の自然堤防上に立地する古代の遺跡である。付近は自然堤防が断続的に続いており、遺跡も列状に立地している。今回の調査区域は遺跡北東の辺縁部分の水田・畑地であり、周囲との比高は1mほどである。今回の調査では調査区域に試掘トレンチを5本、任意に設定し埋蔵文化財の有無の確認を行った。T1では土師器、鉄製品が出土しており、T5でも鉄製品の出土が確認された。また、T2、T5において焼土遺構と小土坑複数が検出された。これらの遺構の周辺からは遺物は確認されなかったが、T1の遺物などにより古代から中近世の遺構であると考えられる。T5の遺構については、事業実施時には46cmの盛土部分にあたるため、現行の計画で遺構の保存が可能となる。T2の水田部分は削平予定の部分であるが、遺構検出面が現在の田高から-90cmであるのに対して、掘削が及ぶ深さは計画では57cmであるため、計画通り工事でも保存が可能であるため、事業者に対しては慎重に工事を行うよう指示した。

なお、同日に隣接の草刈中屋敷遺跡(LE57-2295)についても一部調査を行ない、遺物や焼土遺構を確認したが、農作物などによりトレンチ設定に制限があったために、再調査が必要となった。前述の埋蔵文化財の保存についても再調査後に検討するものとする。



第79図 紫波町沼田遺跡調査区位置図及び出土遺物

19 低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業綾織地区

谷地館遺跡 (MF53-0139)

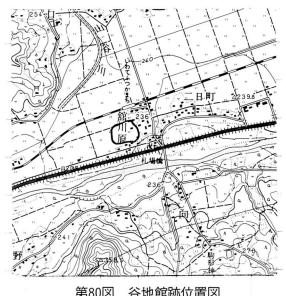
所在地:遠野市綾織町下綾織館川原

事業者:遠野土地改良事業所

調査期日:平成8年8月30日、9月10~11日(3日間)

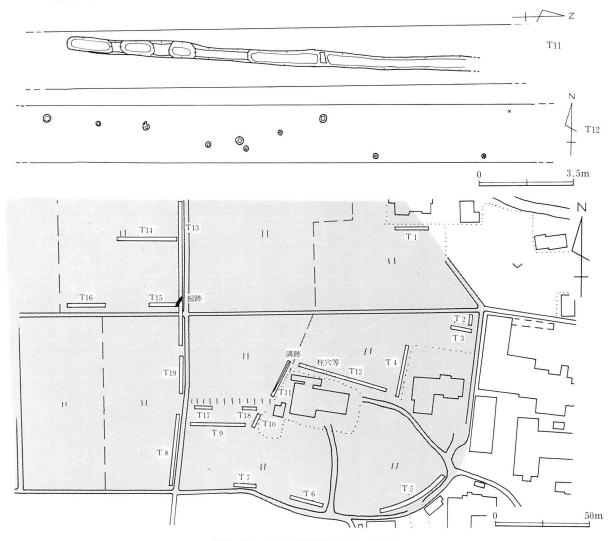
遺跡は猿ヶ石川北岸の沖積地中の微高地上を中心とし て広がっている。標高は236.5m前後、周囲との比高は約 1mである。遺跡の北東にはJR釜石線の二日町駅があ る。

今回の調査範囲は事業地全体の南西部にあたり、18箇 所の試掘トレンチを設定し埋蔵文化財の状況を確認した。 調査の結果、T11、T12、T13、T15などで遺構が検出 された。水路予定部分のT11、12については溝跡1条、



第80図 谷地館跡位置図

柱穴状ピットが検出され、文化課によって記録保存を目的とする発掘調査も終了している。T13、15で検出 された堀跡は館跡に伴うものと考えられる。この堀跡については盛土によって保存することになった。



第81図 谷地館跡調査区、遺構

20 担い手育成基盤整備事業赤沢川地区

甲子遺跡 (MF66-1394)

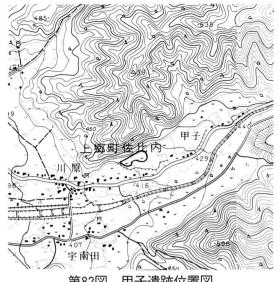
所在地: 遠野市上郷町甲子地内

事業者: 遠野土地改良事業所

調査期日:平成8年9月12日

遺跡は遠野市南東部を西に流れる猫川北岸の狭い段丘 上にあり、標高は421~429m、周囲との比高は3m前後 である。南に向かって緩く傾斜している。

調査では牧草地である中央の事業区域外部分を除いて、 試掘トレンチを13箇所設定し埋蔵文化財の有無等を確認 している。その結果、東側には遺構・遺物等は確認され なかったが、西側では縄文時代中期の土器が出土し、同 時代と考えられる土坑を2基検出している。水田の造成



甲子遺跡位置図

により、一部削平されているが大きな地形の変化はない。量は少ないが、確認された遺構・遺物は段丘の縁 辺に集中する。土坑は3層の黄褐色土上面でT11とT12で検出されているが、T11の土坑中には白い板状の 石が立った状態で2点出土した。この2点は同じ石が板状に割れたもので接合する。また、事業地から外れ るが段丘の直下の畑でも若干縄文土器が採集できる。



第83図 甲子遺跡調査区位置図

21 県営ほ場整備事業人首川東部地区

岩谷堂橋本 I 遺跡 (NE07-1393)

岩谷堂橋本II遺跡 (NE07-2314)

後田 I 遺跡 (NE07-2323)

後田II遺跡(NE07-2365)

後田III遺跡 (NE07-2382)

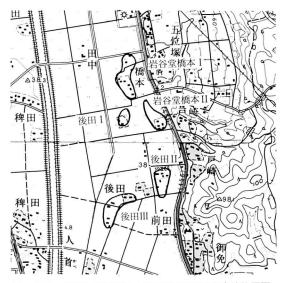
所在地:江刺市岩谷堂橋本地内

事業者:水沢地方振興局江刺農林事務所

調査期日:平成8年12月16日~18日

平成9年1月24日(4日間)

今回調査した5遺跡は人首川東岸に広がる沖積地中の 微高地上に立地している。標高はいずれも37~38mほど で、周囲との比高は1.2~1.8mである。

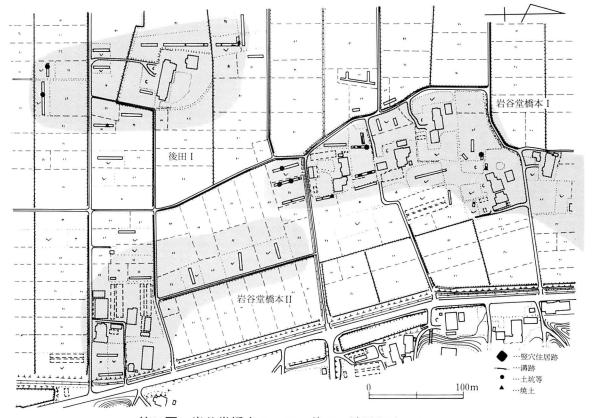


第84図 県営ほ場整備人首川東部地区関連遺跡位置図

岩谷堂橋本 I 遺跡では21箇所の試掘トレンチを設定している。その結果、古代の竪穴住居跡 5 棟、溝跡などが検出された。微高地の内、東側に比較的古代の竪穴住居跡が集中するようである。 T 5 付近から鉄滓等も出土しており鍛冶屋があったという伝承が残っているが時期は不明である。

岩谷堂橋本II遺跡は、7箇所の試掘トレンチを設定している。縄文土器の小破片数点が地表下90cmで出土している。残りはあまり良くない。南東部については畑作物の関係で1月に調査を行ったが遺構・遺物とも確認されていない。

後田 I 遺跡は13箇所の試掘トレンチを設定している。その結果、竪穴住居跡と考えられる遺構と溝跡など



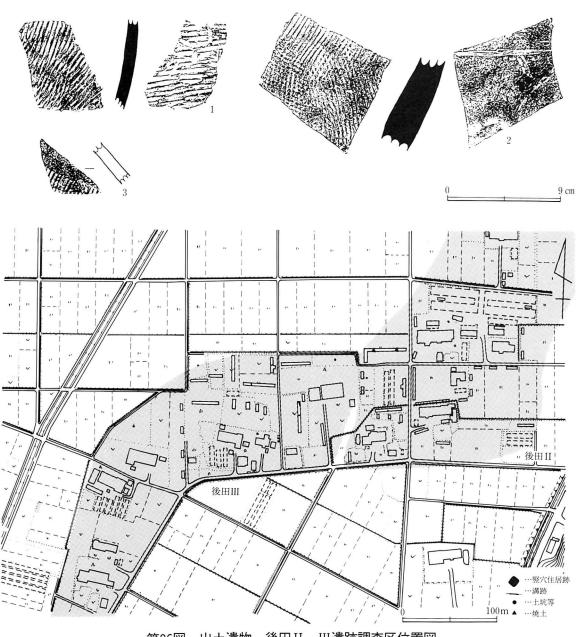
第85図 岩谷堂橋本 I 、II、後田 I 遺跡調査区位置図

が検出されている。土師器片・鉄滓なども出土しているが、遺構に伴うものではない。また、今回報告している岩谷堂橋本 I 遺跡で調査した平安時代の竪穴住居跡とは埋土の様子が異なることや遺物が出土しないことから古代ではない別の時期の遺構である可能性がある。

後田II遺跡では、18箇所の試掘トレンチを設定し、畑作物のため12月と1月の2回に分けて調査している。 その結果、柱穴状ピット、焼土遺構・土師器と須恵器片が確認された。微高地の周縁部分は湿地状の土層が 認められ、遺構・遺物も検出できなかった。

後田III遺跡では、後田II遺跡と同様に2回に分けて調査している。土師器片や溝跡・土坑などが確認されている。

以上、岩谷堂橋本 I 遺跡、後田 I 遺跡の一部では水路によりやむを得ず掘削される箇所があり、これは文化課により記録保存のための調査が行われる予定である。その他は、盛土により埋蔵文化財の保護が図られる。



第86回 出土遺物、後田II、III遺跡調査区位置図

22 一般農道整備事業赤屋敷地区関連調査

赤屋敷遺跡 (JE28-1284)

所在地:二戸郡一戸町月館字赤屋敷地内

事業者:二戸土地改良事業所 調査期日:平成8年10月31日

赤屋敷遺跡は沢沿いの幅の狭い南向きの緩傾斜面上に 立地している。標高は300~310mである。

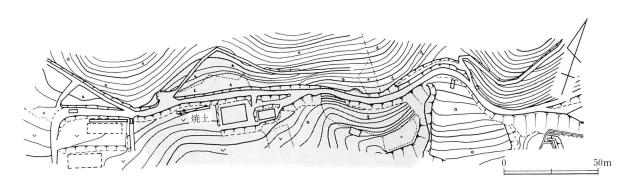
調査では農道の予定地内に試掘トレンチを4箇所設定 している。西側のビニールハウス周辺(T1、2)は道 路部分も畑の部分も削平され、本来の表土は残されてお らず、遺構・遺物は確認できなかった。

民家の西隣のT4では厚い黒色土が堆積しており、縄 文土器の小破片と焼土遺構2基が確認されている。焼土



第87図 赤屋敷遺跡位置図

遺構は一方が地表下60cm、もう一方が90cmで検出され、2つの遺構検出面が認められる。上位の焼土遺構に縄文土器が伴っていたが時期は後期から晩期と考えられる。下位の焼土遺構には遺物は伴っていない。焼土の焼成は下位のものの方が良好で堅く焼き締まっている。この焼土遺構を検出した民家を中心とした付近はビニールハウスの東隣から東側にある小さな沢までが小規模な扇状地状の地形になっている。民家の敷地の造成によって若干の破壊があると思われるが、この範囲に遺構・遺物が分布すると考えられる。(平成9年度本調査予定)



第88図 赤屋敷遺跡調査区位置図

23 ふるさと農道緊急整備事業大芦地区関連調査

大芦 I 遺跡 (J F18-0137)

所在地: 久慈市夏井町大芦地内

事業者: 久慈地方振興局久慈土地改良事業所

調査期日:平成8年10月21日~23日(3日間)

遺跡は久慈市と大野村との境界に近い、夏井川に面した丘陵の南斜面に立地している。この事業に関連して、表記の遺跡ほか、南側に位置する大芦II遺跡についても試掘調査を実施している。また、夏井地区は同じく中山間総合整備事業によって、大芦I遺跡~IV遺跡の調査も実施している。

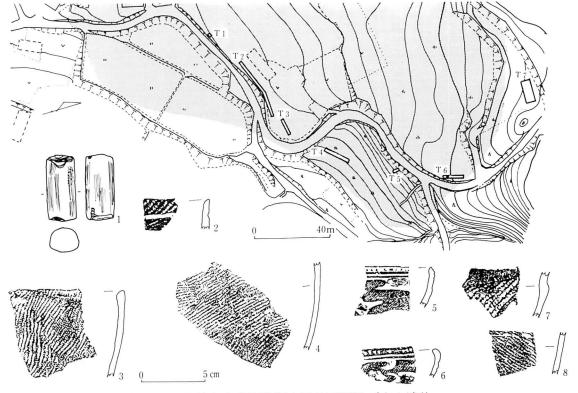
大芦 I 遺跡は、昭和59年に調査区内の一部、現道の南 東側斜面が崩落し、大量の縄文時代晩期の土器が出土し



第89図 大芦遺跡の位置

ている。この部分については、現在擁壁で保護されている。周辺の畑地では縄文時代晩期を中心とする土器 片などのほか、鉄滓が散布している。

現道拡幅部分を中心とした試掘調査の結果、T1では現在の畑地から低い水田に向かう斜面で、縄文時代の遺物包含層と陶磁器片、さらに近世期と考えられる鉄滓が出土した。包含層の厚さについては確認できなかった。T2では、T1で確認された厚い包含層は認められず、表土下まもなく黄褐色地山となる。この地山面の上面付近の黒色土層下部で、南部浮石層状の土層が確認されている。T3は遺物包含層が削平されている。T4、6でも黒褐色の遺物包含層が確認され、さらに地山面で土坑などの遺構が検出されている。T5、7では遺物・遺構等は確認されていない。また、本図からさらに南側部分も同様に遺物・遺構とも確認されなかった。(平成9年度本調査予定)



第90図 久慈市大芦遺跡調査区位置図及び出土遺物

24 広域農道整備事業盛岡西部地区関連調査

芋田II遺跡 (KE57-0210)

所在地: 玉山村大字芋田字芋田地内

事業者:盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所

調査期日:平成8年10月18日~11月18日(2日間)

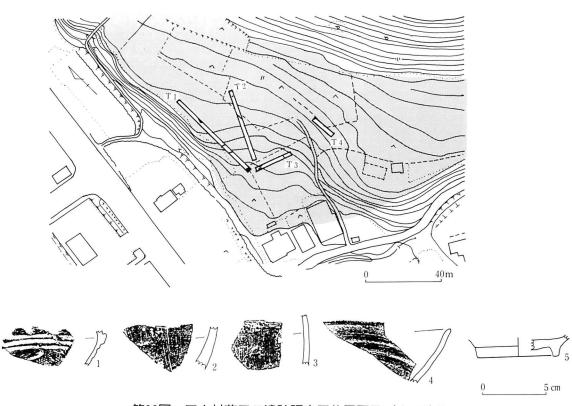
遺跡は北上川左岸の河岸段丘上に立地している。この付近では北上川によって広く低位の段丘面が形成されているが、当遺跡は低位面から高位面にかけてのゆるやかな段丘崖状の地形に位置している。遺跡の現況は牧草地及び畑地となっていて、畑地部分には縄文土器及び土師器等の散布が認められる。

事業予定地内に $T1\sim4$ の試掘トレンチを設定し、調査を実施した。その結果、T1、2の斜面部分及びT3



第91図 芋田Ⅱ遺跡の位置

では表土下まもなく黄褐色の礫混じり土層が観察され、本来の遺物包含層または生活面を形成した黒褐色土が削平されている状況を伺うことができた。その他の部分では黒褐色土が厚く堆積し、遺跡が良好に残存しているものと考えられた。T1、2では古代の竪穴住居跡と考えられる遺構の一部が検出されたほか、土坑も2、3確認されている。また調査区東側の道路下部分にも遺構等は残存しているものと考えられる。なお、東側約300mの道路脇畑地部分では、明瞭な遺構の確認はできなかった。(平成9年度本調査予定)



第92図 玉山村芋田 II 遺跡調査区位置図及び出土遺物

25 中山間地域総合整備事業新町地区関連調査

有矢野遺跡 (JE54-2266)

谷地田遺跡 (JE54-1286)

所在地:安代町字有矢野•谷地田地内

事業者:盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所

調査期日:平成8年9月17日~18日(2日間)

平成8年12月20日~21日(2日間)

中山間地域総合整備事業新町地区では、ほ場整備や農 道の整備が行われる予定である。このうち、打田内川ぞ いの低い水田面については一部地域で遺跡が所在したも のの、遺構等については確認できなかった。

一方、国道282号五日市地区より有矢野、上の山を経由 して曲田へ通じる農道関連では、数箇所の遺跡が事業予

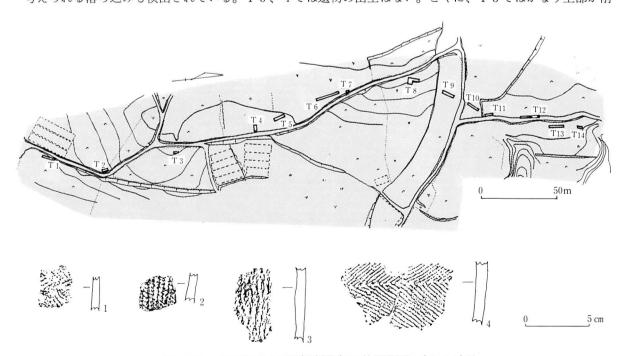


第93図 谷地田・有矢野遺跡の位置

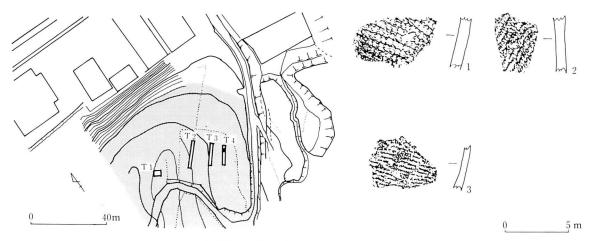
定地内に所在している。これらは安比川や打田内川等の河岸段丘上に立地するものがほとんどで、中には有 矢野館に代表されるように、自然地形を利用して中世期に城館跡を築いている場合もある。

有矢野遺跡は、荒屋新町と五日市のほぼ中間の、西側丘陵に取り付く河岸段丘上に位置している。拡幅予定の農道は現在農業用小機械がかろうじて通れるほどのものであり、わずかに造成等がなされた部分もあるが、遺跡内容についてはほとんど破壊されずに残されていると考えられる。このため、南側から事業地内にトレンチを設定し、遺構・遺物の包含状況を確認した。

T1付近では現在見られる道路両側の段差が、古い段階で形成された段丘崖であると考えられた。低い方の畑地では表土下で縄文時代前期の土器がやや多量に出土している。T2を高い畑地部分に設定した。ここでは表土及びその直下の黒褐色土層が厚く、T1と同様に縄文土器片が出土したほか、土坑や竪穴住居跡と考えられる落ち込みも検出されている。T3、4では遺物の出土はない。とくに、T3ではかなり上部が削



第94図 安代町有矢野遺跡調査区位置図及び出土遺物



第95図 安代町谷地田遺跡調査区位置図及び出土遺物

平されていると考えられ、地山直下で白色の粘土層が確認された。T5 は西側からの沢筋に当たるが、黒色土は厚いものの、遺物の出土はない。T6、7 は表土及び黒色土が薄く、礫混じりの地山が認められた。T8 から11では果樹園造成のために若干土壌の移動があったと考えられるものの、縄文土器等が出土している。 $T12\sim14$ は西側からの大きな沢によって埋没したような状況を呈している。(平成9年度本調査予定)

谷地田遺跡は一連の遺跡の北側に位置し、有矢野遺跡からは1キロほどである。試掘トレンチは、西側事業予定地が立木等によって立ち入りが困難であったため、現在の畑地部分を中心に設定した。T2~4では遺物包含層が、耕作による削平もしくは斜面のための土砂の流出によって十分に残存していない状況であったものの、南部浮石層を交える地山面で縄文土器及び同時代の土坑と考えられる遺構が検出された。そのため、西側山林にT1を設定した結果、黒色土層が確認され、中から遺物が出土したことから縄文時代の遺物包含層であると考えられる層が確認された。また、東側小道の切り通しにおいても土器片が採集された。この結果、この張り出し部分全体について本調査が必要であると判断した(平成9年度本調査予定)

26 中山間地域総合整備事業新町地区関連調査

上の山V遺跡 (JE54-2195)

横間II遺跡(JE55-0033)

所在地:安代町字上ノ山・横間地内

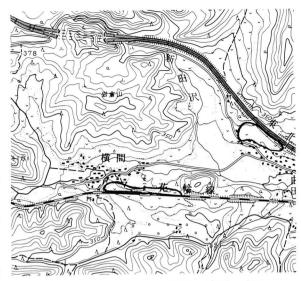
事業者:盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所

調査期日:平成8年9月17日~18日(2日間)

平成8年12月20日~21日(2日間)

両遺跡は、安比川や打田内川によって形成された河岸 段丘状の張り出し及び丘陵裾状の斜面に立地する。

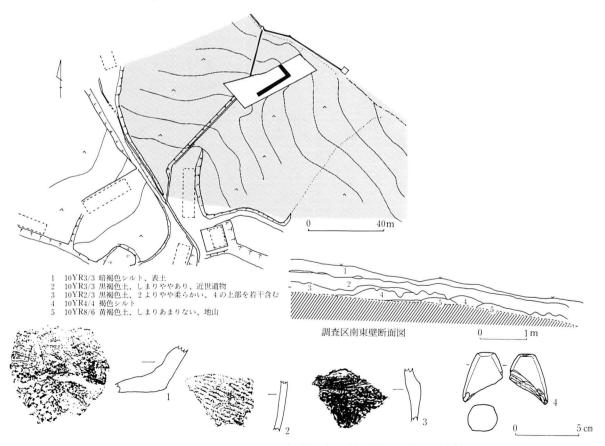
上の山V遺跡は、東北自動車道安代インターよりわずかに青森方面に向かった南向き畑地の緩斜面全体に広がっている。東北道をはさんで北側については上の山VI遺跡と呼んでいる。さらに有矢野方面に向かって延びる、丘陵裾と段丘崖との変曲点にあたる部分に広がる箇所は、



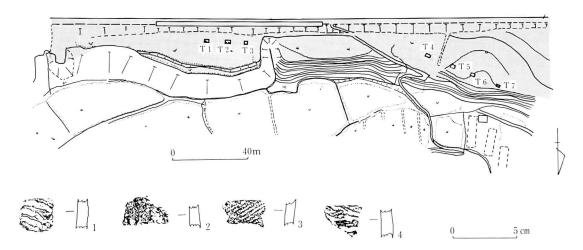
第96図 上の山 V、横間 II 遺跡の位置

上の山V遺跡と呼んでいる。

調査はこれらの遺跡全体について実施しているが、V遺跡以外では遺物がほとんど出土せず、また、遺構も確認できなかったことから、試掘調査のみで終了している。V遺跡では、当初、東北道に最も近い部分で縄文時代前期の土器片が出土し、しかも一定の厚さをもった遺物包含層であると考えられたことから、再度調査を実施することとした。



第97図 安代町上の山 V 遺跡調査区位置図及び出土遺物



第98図 安代町横間 II 遺跡調査区位置図及び出土遺物

再調査の結果、遺物包含層と考えていた表土と地山との間の暗褐色の土層は、図に示す通り層相が一定せず、また遺物の出土状況も、近世期の陶磁器片や土師器片が混在するなど、攪乱を受けているものと判断された。さらに、遺物が出土する部分について掘り下げたところ、黒褐色土層と地山との境界が不明瞭であることが確認された。

横間II遺跡は、JR横間駅とその東西に走る花輪線ぞいの北側畑地に位置している。大きな2つの南側丘陵からの沢によって3つの張り出しに区切られている。駅前から東側の張り出しは比較的小さいものの、ほぼその中央が事業予定地であったため。試掘調査を実施した。その結果、畑地耕作により本来の遺物を包含する黒色土は失われていたが、黄褐色の地山面で黒色の落ち込みが複数検出された。また、西側の張り出しは比較的規模の大きいものであるが、予定地がわずかに段丘辺をかすめるため、手掘りによる試掘調査を実施した。 $T1\sim4$ にかけては畑地造成の際に盛土されたと考えられる攪乱を受けた土壌が表土下に堆積していたものの、その下部から縄文土器が出土するなど、全体としては遺跡が良く残されていると考えられた。なお、最も東側の大きめの張り出しでは、遺物・遺構等は確認できなかった。(平成9年度本調査予定)

27 担い手育成基盤整備事業徳岡地区関連調査

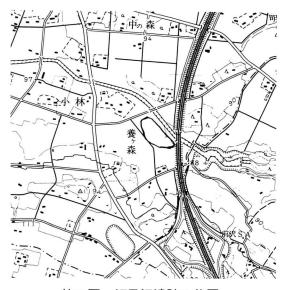
板子沢遺跡 (NE45-1303)

所在地:胆沢郡胆沢町小山地内

事業者:水沢地方振興局胆江土地改良事業所

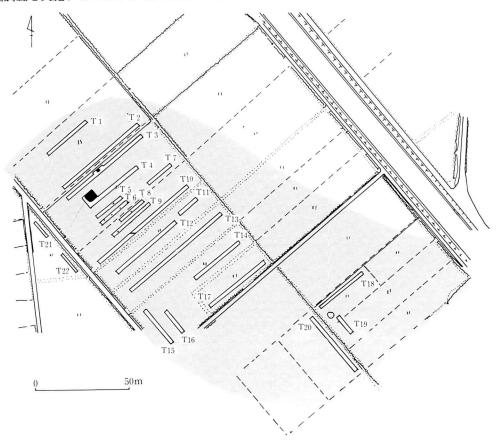
調査期日:平成8年12月5日~12月25日(3日間)

遺跡は東北自動車道と寿安上堰が交差する南西部分に位置している。標高89m前後。南東方向に向かって緩やかに傾斜している。付近は戦後の開拓によって開田され、旧地形を止めていない。そのため、第一に遺跡標柱付近について、試掘トレンチを設定した。この部分では、水田面から高さ約2m、径約3mの塚状の盛り上がりが確認されていた。塚付近のトレンチ(18~20)では、表土下より酸化鉄の塊が多量に出土した。この酸化鉄塊につ



第99図 板子沢遺跡の位置

いて、過去の調査についての聞きとり及び遺跡台帳登載の遺跡の種別から、製鉄に関連するものであると推定された。このため、塚の断面を調査するとともに、標柱より北西側の水田部分について調査対象を広げ、 $T1\sim17$ を設定した。この結果、北西よりの $T1\sim10$ にかけて近世と考えられる掘立柱建物跡とそれに伴う柱材、さらに陶磁器片が出土した。また、 $T11\sim17$ でも陶磁器片が出土しているが、遺構はすでに破壊されているものと判断した。これより、近世の製鉄関連遺跡として遺跡北西部及び南東部の塚付近約2000㎡について発掘調査を実施することとした。(平成9年度本調査予定)



第100図 胆沢町板子沢遺跡調査区位置図

28 担い手育成基盤整備事業徳岡地区関連調査

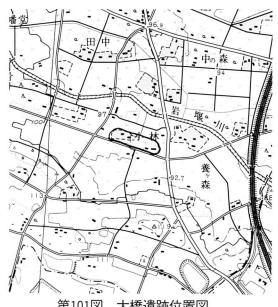
大橋遺跡 (NE45-0276)

所在地:胆沢郡胆沢町小山地内

事業者:胆江土地改良事業所 調査期日:平成8年12月5日

大橋遺跡は胆沢扇状地の南側に位置し、東西に長く延 びる微高地上に立地する。標高は94~96mで周囲との比 高は0.5~2 m程度である。

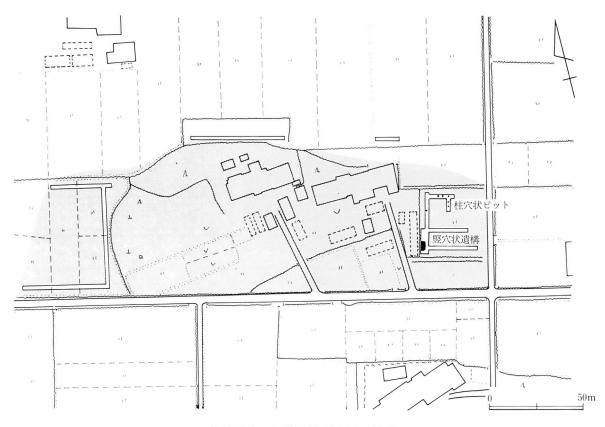
調査では微高地の南北の縁と東西の一部を含む事業予 定地内に敵宜、試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の有 無と残存状況を確認している。その結果、南北の縁につ いては低湿地で遺構・遺物とも確認できなかった。西側 については微高地が延びているが、同じく遺構・遺物と



第101図 大橋遺跡位置図

も確認されなかった。東側の試掘トレンチでは竪穴状の遺構と柱穴状ピット群が検出されている。柱穴状ピッ ト群は全体の把握はできなかったが直線的でほぼ同間隔の配置が観察され、掘立柱の建物跡の一部と考えら れる。いずれも時期ははっきりしないが、古代や縄文時代の遺物が出土していないためおそらく中世以降の ものと考えられる。

今回の調査で遺構が検出されているが、遺構検出面を掘削しないよう盛土によって保存されることになっ た。



第102図 大橋遺跡調査区位置図

29 ふるさと農道緊急整備事業小森林地区

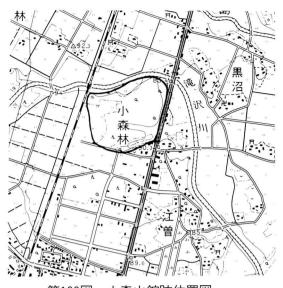
小森林館跡 (ME06-0273)

所在地: 稗貫郡石鳥谷町八幡字江曽地内

事業者: 花巻地方振興局土地改良課

調査期日:平成8年2月6日

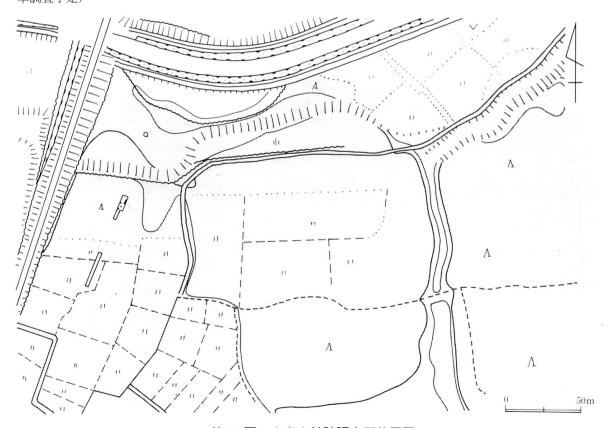
遺跡は石鳥谷町の南側を東西に流れる滝沢川右岸の段丘縁に立地する。南は自然の沢を利用した堀、北は滝沢川によって館の範囲が区切られる。東側については一応国道4号が境界になっているが、本来は国道の東側も含むと考えられる。西側は境界が不明瞭だが、南北に延びているJR東北本線付近までは人工的な地形の改変の痕跡が認められるため、おおむねこのあたりまでが館の範囲と考えられる。



第103図 小森山館跡位置図

今回の調査の原因となった農道はほぼ $\int R$ 東北線に沿って南北に延びており、調査区も東北線の東30m付近を南北に設定している。

調査の結果、現在水田となっている南側については遺構・遺物とも確認することはできなかった。調査区 北側の滝沢川付近では表面からも3段程の平場が確認され道路予定地のすぐ東側でも南北に延びる土塁と堀 が確認できた。道路はこの3段の平場を横切ることになる。1番上の平場では館跡の何らかの建物の痕跡と 考えられる柱穴状ピットが検出されたほか、縄文時代と考えられる陥し穴状遺構も検出された。(平成9年度 本調査予定)



第104図 小森山館跡調査区位置図

30 その他の試掘調査

No.	事 業 名	事 業 者	遺跡名	所在地	調査期日	備考
1	担い手育成基盤整備事業徳岡地区	胆江土地改良事業所	N E 45 - 0115	胆沢町	4 /12	
2	一般県道北上水沢線道路改良工事	水沢土木事務所	春慶	金ヶ崎町	4 /19	
3	広域農道整備事業盛岡西部地区	岩手北部土地改良事業所	K E 68 – 2290	玉山村	4 /30	
4	屋敷の沢筋屋敷地区都市対策砂防事業	釜石土木事務所	梅沢II	大槌町	5 / 7	
5	一般国道107号藤根地区道路改良事業	北上土木事務所	志賀II	和賀町	5 /22	
6	石鳥谷駅西地区宅地造成事業	岩手県住宅供給公社	備中館	石鳥谷町	~ 6 /27	測量調査
7	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手北部土地改良事業所	J E 53 – 2384	安代町	6 /17	
8	農免農道整備事業松石地区	宮古地方振興局農政部	馬立I	岩泉町	6 /19~20	
9	農免農道整備事業松石地区	宮古地方振興局農政部	馬立Ⅱ	岩泉町	6 /19~20	
10	農免農道整備事業松石地区	宮古地方振興局農政部	馬立III	岩泉町	6 /19~20	
11	一般国道107号藤根地区道路改良事業	北上土木事務所		北上市	7 /31	
12	緊急地方道整備事業一般県道世田米矢作 線	大船渡土木事務所	愛宕下	陸前高田市	7 /31	
13	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 徳田第 1 地区	盛岡南部土地改良事業所	十文字	矢巾町	8 /26	
14	一般県道北斗米金田一線緊急地方道路整 備	二戸土木事務所	潰谷地	二戸市	9 /26	
15	県営長谷堂アパート建築事業	岩手県土木部	長谷堂貝塚	大船渡市	8 /26~27	
16	三陸縦貫自動車道大船渡三陸道路	三陸国道工事事務所	萱中III	大船渡市	9/2~3	
17	三陸縦貫自動車道大船渡三陸道路	三陸国道工事事務所	野尻 I	大船渡市	9 / 3	
18	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 綾織地区	遠野土地改良事業所	MF43-2149	遠野市	9 /11	
19	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	遠野土地改良事業所	MF67-1002	遠野市	9 /11~12	
20	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	遠野土地改良事業所	MF67-1040	遠野市	9 /11~12	
21	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	遠野土地改良事業所	M F 66 – 1302	遠野市	9 /11~12	
22	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	遠野土地改良事業所	M F 66 – 1394	遠野市	9 /12	
23	中山間地域農村活性化総合整備事業鮎貝 地区	遠野土地改良事業所	M F 61 – 1331	遠野市	9 /11~12	
24	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手北部土地改良事業所	横間 I	安代町	9 /17~18	
25	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手北部土地改良事業所	上の山Ⅷ	安代町	9 /17~18	
26	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手北部土地改良事業所	上の山X	安代町	9 /17~18	
27	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手北部土地改良事業所	上の山V	安代町	9 /17~18	
28	主要地方道上米内湯沢線川目工区道路改 良工事	盛岡土木事務所	田の沢B	盛岡市	9 /25 10/17	
29	中山間地域総合整備事業奥玉地区	両磐土地改良事業所	中の峠	千厩町	10/4	
30	産振施設整備事業胆沢町小山地区	岩手県教育委員会財務課	中島	胆沢町	10/4 11/6~7	
31	東北新幹線建設工事用進入路等	日本鉄道建設公団	野沢I	滝沢村	10/17~18 • 25	

32	ふるさと農道緊急整備事業大芦地区	久慈土地改良事業所	大芦II	久慈市	10/21~23
33	ふるさと農道緊急整備事業大芦地区	久慈土地改良事業所	大芦	久慈市	10/21~23
34	ふるさと農道緊急整備事業大芦地区	久慈土地改良事業所	大芦III	久慈市	10/21~23
35	ふるさと農道緊急整備事業大芦地区	久慈土地改良事業所	大芦IV	久慈市	10/21~23
36	一般国道107号藤根地区道路改良事業	北上土木事務所		北上市	10/23
37	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 長岡地区	盛岡南部土地改良事業所	L E 57 - 0329	紫波町	10/28~29
38	一般県道盛岡鶯宿線北の浦工区道路改良 工事	盛岡土木事務所	北の浦	盛岡市	10/29
39	一般県道上斗米金田一線緊急地方道路整 備北向工区	二戸土木事務所	潰谷地II	二戸市	10/30
40	主要地方道二戸田子線緊急步道整備事業 下斗米地区	二戸土木事務所	I E 99 - 0263	二戸市	10/30
41	主要地方道上米内湯沢線手代森工区道路 改良工事	盛岡土木事務所	金掘沢 I	盛岡市	11/1
42	国営かんがい排水事業胆沢平野地区	東北農政局	北館	前沢町	11/5
43	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	N E 44 – 1312	胆沢町	11/6~7
44	広域農道整備事業胆沢南部地区	胆江土地改良事業所	N E 44 – 1353	胆沢町	11/6 \sim 7
45	二級村道川井線川井地区市町村道整備代 行事業	久慈土木事務所	松淵II	山形村	11/11~12
46	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	花卷土地改良事業所	M E 16 – 1387	花巻市	11/13~14
47	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 徳田第 1 地区	盛岡南部土地改良事業所	田中	矢巾町	11/20
48	ふるさと農道緊急整備事業唐戸崎地区	花卷土地改良事業所	M E 45 – 0206	北上市	11/21~22
49	ふるさと農道緊急整備事業唐戸崎地区	花巻土地改良事業所	M E 45 – 0229	北上市	11/21~22
50	ふるさと農道緊急整備事業唐戸崎地区	花巻土地改良事業所	森下	北上市	11/21~22
51	ふるさと農道緊急整備事業唐戸崎地区	花巻土地改良事業所	ME 45 - 0357	北上市	11/21~22
52	担い手育成基盤整備事業徳岡地区	胆江土地改良事業所	N E 45 – 0065	胆沢町	11/25~27
53	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	N E 36 – 1359	水沢市	$12/3 \sim 5$
54	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	N E 37 – 1053	水沢市	$12/3\sim5$
55	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	土手北	水沢市	$12/3 \sim 5$
56	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	真城落合	水沢市	$12/3 \sim 5$
57	担い手育成基盤整備事業東田地区	胆江土地改良事業所	N E 15 – 1104	胆沢町	$12/3 \sim 5$
58	担い手育成基盤整備事業東田地区	胆江土地改良事業所	N E 15 – 1068	胆沢町	$12/3 \sim 5$
59	担い手育成基盤整備事業東田地区	胆江土地改良事業所	N E 15 – 1110	胆沢町	$12/3 \sim 5$
60	担い手育成基盤整備事業徳岡地区	胆江土地改良事業所	N E 45 – 0276	胆沢町	12/5
61	一般県道北上水沢線取揚石地区道路改良 工事	水沢土木事務所	N E 95 – 2024	金ケ崎町	12/6
62	一般県道北上水沢線取揚石地区道路改良 工事	水沢土木事務所	N E 05 - 0121	金ケ崎町	12/6
63	一般国道455号山岸工区道路改良工事	盛岡土木事務所	道の下B	盛岡市	12/6
64	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	古館	石鳥谷町	12/9

65	東北新幹線建設工事	日本鉄道建設公団	芦名沢II	玉山村	12/9~10	
66	東北新幹線建設工事	日本鉄道建設公団	芦名沢III	玉山村	12/9~10	
67	県立一戸病院・北陽病院移転	岩手県医療局		一戸町	12/9~12	
68	主要地方道花卷衣川線横川目地区	北上土木事務所	ME53-0098	和賀町	12/12	
69	主要地方道花卷衣川線横川目地区	北上土木事務所	蛭川館	和賀町	12/12	
70	県立胆沢病院職員合同公舎建設事業	岩手県医療局	龍ケ馬場	水沢市	12/16	
71	水沢警察署警察官待機宿舎建設事業	岩手県警察本部	龍ケ馬場	水沢市	12/16	
72	県営畜産経営環境整備事業二戸西部地区	二戸地方振興局農政部	名子根IX	一戸町	12/18	
73	県営畜産経営環境整備事業二戸西部地区	二戸地方振興局農政部	名子根X	一戸町	12/18	
74	国営八戸平原開拓建設事業	東北農政局	水吉II	軽米町	12/19	
75	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	二ノ淵	水沢市	12/24~25	
76	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	二ノ淵北	水沢市	12/24~25	
77	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	土手南	水沢市	12/24~25	
78	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	二ノ淵南	水沢市	12/24~25	
79	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	谷地	水沢市	12/24~25	
80	一般国道455号山岸工区道路改良工事	盛岡土木事務所	米内沢 B	盛岡市	1 / 8	
81	大船渡三陸道路・山田道路	三陸国道工事事務所	大畑I	山田町	1/8, 9	
82	大船渡三陸道路・山田道路	三陸国道工事事務所	野尻II	大船渡市	1/8, 9	
83	管理用通路工事	岩手工事事務所	細田	一関市	1 /24	
84	広域農道胆沢衣川線	胆江土地改良事業所	上寺田	衣川村	1 /24	
85	一般県道碁石海岸線県単舗装道新設	大船渡土木事務所	碁石	大船渡市	1 /31	
86	似鳥の沢火山砂防事業	二戸土木事務所	J E 18 – 0376	二戸市	2 / 4	
87	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業 新堀地区	花卷土地改良事業所	宝木II	石鳥谷町	2 / 6	
88	サンピア金ケ崎駐車場整備	岩手県生活福祉部	柏山館	金ケ崎町	2 / 6	
89	一級河川岩崎川中小河川改修事業	盛岡土木事務所	稲村I	紫波町	2 /24	
90	担い手育成基盤整備事業真城地区	胆江土地改良事業所	真城落合	水沢市	3/3~21	
91	一般県道衣川水沢線地方特定道路整備事 業	水沢土木事務所	福原	水沢市	3 / 4	
92	広域農道整備事業二戸地区	二戸土地改良事業所	大向上平	二戸市	3 /24	
93	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区	遠野土地改良事業所	M F 32 – 2050	宮守村	3 /27~28	
94	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区	遠野土地改良事業所	M F 32 – 2042	宮守村	3 /27~28	
95	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区	遠野土地改良事業所	M F 32 – 2021	宮守村	3 /27~28	
96	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区	遠野土地改良事業所	M F 32 – 2025	宮守村	3 /27~28	

III 分布調査

售 1	表 一般県道山	山田線薄衣地区道	道路改良事	業関連遺紀	跡一覧 事業者:宮古土	木事務所		調査期日 平成8年5月8日
Nα	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備考
1	L G 42-2249	折壁館跡	城館跡			中世	宮古市長沢第12地割	
2	表 国営農地科	9編整備事業胆》	尺西南部地	区関連遺跡	跡一覧 事業者:東北農	政局北上土地改具	良調査管理事務所 調査期	日 平成8年6月13日~6月21日
a	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備考
l	N E 45-1144	休場	散布地		縄文土器・石器	縄文	胆沢町小山字外浦	
2	N E 45-0065		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字外浦	平成7年発見
3	N E 34-2397	小田切	散布地		縄文土器・弥生土器	縄文・弥生	胆沢町小山字小田切	
1	N E 45-0095	駒篭	散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字外浦	
5	N E 45-1256	西風	散布地		縄文土器・石鉄・石匙	縄文	胆沢町小山字西風	
i	N E 45-1033	二の沢	散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字二の沢	
7	N E 35-2074		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字上狼志田	新規発見
3	N E 45-1049		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字二の沢	新規発見
)	N E 45-0031		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字主計谷地	新規発見
0	N E 45-0347		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字駒込	新規発見
1	N E 44-0333		散布地		縄文土器・土師器	縄文・奈良	胆沢町小山字駒込	新規発見
2	N E 44-1312		散布地		石器	縄文	胆沢町小山字新田	新規発見
3	N E 44-1374		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字浪人	新規発見
4	N E 44-1228		散布地		石器・フレーク	縄文	胆沢町小山字田風	新規発見
5	N E 44-0370		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字二の台	新規発見
6	N E 45-0230	二の台	散布地		縄文土器・石器・ 土師器・フレーク	縄文・奈良	胆沢町小山字二の台	範囲拡大
7	N E 34-2288		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字細入	新規発見
8	N E 44-0117		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字二の台	新規発見
9	N E 34-2022		散布地		縄文土器・土師器・ フレーク	縄文・平安	胆沢町小山字中沢	新規発見
0.	N E 34-2200						胆沢町小山字台	可能性あり
1	N E 34-2300		散布地		細文土器	縄文	胆沢町小山字台	新規発見
2	N E 34-2247		散布地		縄文土器・フレーク	縄文	胆沢町小山字台	新規発見
3	N E 34-1058		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字中沢原	新規発見
4	N E 34-1021	一の台	散布地		縄文土器(中)·石器·土師器	縄文・古代	胆沢町小山字一の台	範囲拡大
5	N E 34-2127		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字下中沢	新規発見
6	N E 34-2134		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字下中沢	新規発見
7	N E 34-2172		HX1112C		46×1.111	744	胆沢町小山字下中沢	可能性あり
8	N E 33-2309		散布地		縄文土器・フレーク	縄文	胆沢町小山字中沢	新規発見
9	N E 33-1378		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字萩森	新規発見
0	N E 33-1334		nx iii-c		PD 321 - 6	7.02.1	胆沢町小山字萩森	可能性あり
1	N E 33-1218		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字萩森	新規発見
32	N E 33-1339		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字丑松	新規発見
3	N E 34-1063		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字丑松	新規発見
4	N E 34-1003		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字大畑平	新規発見
5	N E 34-0082		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字大畑平	新規発見
	N E 34-0088		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町小山字大畑平	新規発見
_			HX117E		#BX_LTIT	縄文	胆沢町小山字大袋	可能性あり
8	N E 45-2018 N E 45-2016		散布地		フレーク	縄文	胆沢町小山字大袋	新規発見
		*		区間連清:	跡一覧 事業者:花巻地		ALVO THE TYPE	調査期日 平成8年5月201
io.	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構・遺物	時代	所 在 地	200
1	ME 06-0273		城館跡	77.1	44文土器	縄文·中世	石鳥谷町八幡字江曽	1117
			100000000000000000000000000000000000000	请 跡一覧	事業者:胆江土地改良	8.89		查期日 平成8年5月20日~30
Va.	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構・遺物	時代	所 在 地	
l	N E 44-0381	AG 2// 11	散布地	72.3	縄文土器	縄文	胆沢町若柳	新規発見
-	N E 44-0361		散布地		縄文土器	縄文	胆沢町若柳	新規発見
2			お人コレノビ		~u~ 1.00	ruzs	胆沢町若柳	可能性あり
	N E 44-1353 N E 54-0227		散布地		縄文土器	縄文	衣川村小正板	新規発見
1			散布地		細文土器	縄文	衣川村上寺田	新規発見
;	N E 54-0254		HX117世		7世人上前	76^	衣川村田尻	可能性あり
-	N E 54-2132		#br fr: Hits		縄文土器	縄文	衣川村菖蒲平	新規発見
7	N E 54-2059	·木·米·	散布地		縄文土器	縄文	衣川村本巻	範囲拡大
8	N E 64-1016		散布地			縄文	衣川村川内	範囲拡大
9	N E 64-1181	要害	散布地		組文土器	縄文	衣川村川内	新規発見
0	N E 64-2121	A 111 # ## (27 88 '# '	散布地	車業本・	組文土器 4.菜+大事発所	和日人	N 20 0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	査期日 平成8年5月20日~30
_		T		10.0	久慈土木事務所 遺 構 ・ 遺 物	時 代	所 在 地	20
ia.	遺跡コード	遺跡名	種	別	1100		山形村川井第4地割	沼袋を統合
l	J F 46-0039	早坂平	集落跡		縄文土器・石器	1口1口研•神以	四//217/17 牙牙 4 地剖	们然已机口

2								
4	J F 46-0153	大平	散布地	縄文土器・	石器 旧石器・縄文	山形村川井第4地割		
3	J F 46-0184	松淵II	散布地	縄文土器	縄文	山形村川井第4地割		
4	J F 46-1016	松淵I	散布地	縄文土器	縄文	山形村川井第3地割		
5	J F 46-1038	成谷館	城館跡		中世	山形村川井第4地割	要範囲確	認
6	J F 46-1066	成谷	集落跡	縄文土器		山形村川井第2地割		
7	J F 46-1014	柳久保II	散布地	縄文土器ほ:	か縄文	山形村川井第3地割		
8	J F 46-1025	柳久保Ⅰ	散布地	縄文土器ほ:	か縄文・平安	山形村川井第3地割		
9	J F 46-0120					山形村川井第3地割	可能性あ	ŋ
第 6	表 大川目地區	区宅地造成事業均	· 地区道路改良	関連遺跡一覧 事業:	者:岩手県住宅供給公社	•	調査期日	平成8年5月28日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	別 遺構・	遺物 時代	所 在 5	地 備	考
1	J F 39-0064		集落跡		平安	久慈市大川目第4地割	新規発見	
第 7	表 短大地区	宅地造成事業地[連遺跡一覧 事業者	:岩手県住宅供給公社		調査期日	平成8年5月28日
No.	遺跡コード	遺跡名	桶	別 遺構・	遺物 時代	所 在 力	地備	考
1	L G 34-2001	島田	集落跡	竪穴住居跡	平安	宮古市八木沢地内		
2	L G 43-0357	八木沢古館	城館跡	堀跡等	中世	宮古市八木沢地内		
3	L G 43-0338					宮古市八木沢地内	可能性あ	ŋ
第8	表 農業水利	事業若柳取水口	・穴山幹線水	路工事関連遺跡一覧	事業者:東北農政局胆沢	猿ケ石農業水利事業所	調査期日	平成8年5月30日
Nα	遺跡コード	遺跡名	種	別 遺構・	遺物 時代	所 在 5	地備	考
1	N E 22-1354	萩袋	散布地	細文土器·	土師器 縄文	胆沢町若柳字上愛宕		
2	N E 22-1378	上愛宕原	散布地	縄文土器・ 土師器	石器・縄文・弥生	胆沢町若柳字上愛宕		
3	N E 22-2116	市野々	散布地	須恵器	細文	胆沢町若柳字市野々		
				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	地方建設局岩手工事事務所	120 (-1-10 b) 1 (1) 21 (1)	調査期日	平成8年5月31日
Na	遺跡コード	遺跡名	植	別遺構・		所 在	地 備	考
1	I F 79-1396	小野	散布地	縄文土器	組文	二戸市金田一字小野	ИН ИН	פיי
2	I F 70-2021	下山井	散布地	細文土器	細文	二戸市金田一字下山井		
1.00		碁石海岸線関連 道		業者:大船渡土木事	1	→/ пиш 1-1 щ/г	調査期日	平成8年6月18日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	別遺構・		所 在 5	也 備	考
1	N F 79-0298	碁石	散布地	台石他	旧石器?	大船渡市末崎町字大浜	VHI	***
2.053					者:大船渡土木事務所	八加级用水响刷于八战	調査期日	平成8年6月18日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	別遺構・		所 在 5	也 備	考
1	N F 55-2025	10000 1000 000	集落跡	縄文土器・		陸前高田市二又字愛宕		
				遺跡一覧 事業者::		胜时间山巾二人于发石		平成8年7月9日
No	20 30000000	色	N-10 T WKINE		10ユニーバーチャカカバ			
	遺跡コード	谱 跡 名	Afri		遺物 睦 代	iiii A: H	調査期日	1000
1	遺跡コード N F 66-1284	遺跡名館「	種生物	別遺構・		7000	地 備	考
l 第13	N F 66-1284	館Ⅰ	集落跡	別 遺構・縄文土器(中) 縄文	所 在 t 北上市立花	世 備	考
第13	N F 66-1284 表 ふるさと	館 I 農道緊急整備唐月	集落跡 戸崎地区関連	別 遺構・ 縄文土器() 遺跡一覧 事業者:	中) 縄文 花巻土地改良事業所	北上市立花	間査期日	考 平成8年7月23日
第13 Na	N F 66-1284 表 ふるさとM 遺跡コード	館Ⅰ	集落跡 戸崎地区関連 種	別 遺 構・ 縄文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構・	中) 縄文 花卷土地改良事業所 遺物 遺物 時代	北上市立花	調査期日	考 平成8年7月23日 考
第13 Na 1	N F 66-1284 表 ふるさと	館 I 農道緊急整備唐月	集落跡 戸崎地区関連	別 遺 構・ 縄文土器() 遺跡一覧 事業者: 別 遺 構・ 縄文土器・	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時代 土師器 縄文	北上市立花	間査期日	考 平成8年7月23日 考
第13 Na	N F 66-1284 表 ふるさとM 遺跡コード	館 I 農道緊急整備唐月	集落跡 戸崎地区関連 種	別 遺 構。	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時代 土師器 縄文	北上市立花	調査期日	考 平成8年7月23日 考
第13 Na 1	N F 66-1284 表 ふるさと 遺跡コード M E 45-0357	館 I 農道緊急整備唐別 遺跡名	集落跡 戸崎地区関連 種 散布地 集落跡	別 遺 構 ·	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時代 遺物 時代 土師器 縄文 石器・ 縄文・平安	北上市立花 所 在 出北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎	世 備 調査期日 世 備 新規発見	考 平成8年7月23日 考
第13 No 1	NF66-1284 表 ふるさと 遺跡コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0229	館I 農道緊急整備唐房 遺跡名 店戸崎	集落跡 戸 崎地区関連 種 散布地 集落跡 散布地	別 遺 構 ·	中)	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町	調査期日	考 平成8年7月23日 考
第13 No. 1 2 3 4	N F 66-1284 表 ふるさと 遺跡コード M E 45-0357 M E 45-0352	館I 農道緊急整備唐房 遺跡名 店戸崎	集落跡 戸崎地区関連 種 散布地 集落跡	別 遺 構 ·	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時代 遺物 時代 土師器 縄文 石器・ 縄文・平安	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町 北上市飯豊町 北上市飯豊町森下	世 備 調査期日 也 備 新規発見 新規発見	考 平成8年7月23日 考
第13 No. 1 2 3 4 5	N F 66-1284 表 ふるさと 遺跡コード ME 45-0357 ME 45-0229 ME 45-0229 ME 45-0204 ME 45-0206	館 I 農道緊急整備店 選 跡 名 店戸崎	集落跡 戸崎地区関連 租 散布地 集落跡 散布地 散布地	別 遺 構 ·	中)	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町	世 備 調査期日 世 備 新規発見 新規発見 可能性あ	考 平成8年7月23日 考
第13 No. 1 2 3 4 5	N F 66-1284 表 ふるさと別 遺跡コード M E 45-0357 M E 45-0229 M E 45-0204 M E 45-0206 表 広域営農	館 I 農道緊急整備店 選 跡 名 店戸崎	集落跡 戸崎地区関連 租 散布地 集落跡 散布地 散布地	別 遺 構 ·	中)	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町李店戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町森下	世 備 調査期日 世 備 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日	考 平成8年7月23日 考
第13 No. 1 2 3 4 5	N F 66-1284 表 ふるさと別 遺跡コード M E 45-0357 M E 45-0229 M E 45-0204 M E 45-0206 表 広域営農	館 I 養道緊急整備店 遺跡名 店戸崎 森下 団地農道整備事勢	集落跡 戸崎地区関連 租 散布地 集落跡 散布地 散布地	別 遺 構。 組文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器	中)	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町	世 備 調査期日 世 備 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日	考 平成8年7月23日 考 り 平成8年8月21日
第13 Na 1 2 3 4 5 第14	NF66-1284 表 ふるさと別 遺跡コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0229 ME45-0204 ME45-0206 表 広域営農団	館 I 養道緊急整備店 遺跡名 店戸崎 森下 団地農道整備事勢	集落跡 戸崎地区関連 種 散布地 集落跡 散布地 散布地 軟布地 散布地	別 遺 構。 組文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時 代 土師器 縄文 石器・ 縄文・平安 平安 平安 者: 両磐土地改良事業所 遺物 時 代 後・晩) 縄文	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 北上市飯豊町 北上市飯豊町 北上市飯豊町	世 備 調査期日 地 備 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日	考 平成8年7月23日 考 り 平成8年8月21日 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2	NF66-1284 表 ふるさと別 選跡コード ME45-0357 ME45-0357 ME45-0204 ME45-0204 ME45-0204 大 広域営農 選跡コード NE93-1295 NE93-2205	館 I 養道緊急整備店 遺跡 名 店戸崎 森下 団地農道整備事等 遺跡 名 焼切	集落跡 戸崎地区関連 種 散布地 集落跡 散布地 集落跡 散布地 東本語 東本語 東本語 東本語 東本語 東本語 東本語 東本	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 別 遺 構。	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺 物 時 代 土師器 縄文 石器・ 縄文・平安 平安 平安 者: 両磐土地改良事業所 遺 物 時 代 後・晩) 縄文	北上市立花 所 在 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 ・北上市飯豊町 ・北上市飯豊町 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世 備 調査期日 地 備 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 備	考 平成8年7月23日 考) 平成8年8月21日 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2	NF66-1284 表 ふるさと別 選跡コード ME45-0357 ME45-0357 ME45-0204 ME45-0204 ME45-0204 大 広域営農 選跡コード NE93-1295 NE93-2205	館 I 養道緊急整備店 遺跡 名 店戸崎 森下 団地農道整備事等 遺跡 名 焼切	集落跡 戸崎地区関連 種 散布地 集落跡 散布地 集落跡 散布地 東本語 東本語 東本語 東本語 東本語 東本語 東本語 東本	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	中)	北上市立花 所 在 3 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 - 東市萩荘字焼切 - 関市萩荘字焼切	世 備 調査期日 世 備 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見	考 平成 8 年 7 月23 6 考 7 月23 6 考 8 月21 6 考 3 年 8 月22日~29 6
第13 Na 1 2 3 4 5 第14 Na 1 2	NF66-1284 表 ふるさと 選渉コード ME45-0357 ME45-0357 ME45-0204 ME45-0204 ME45-0204 ME45-0208 表 広域営農 選渉コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育病	館 I 養道緊急整備店 遺 跡 名 唐戸崎 森下 西地農道整備事 遺 跡 名 焼切	集落跡 戸崎地区関連 租 散布地 集落跡 散布地 集落跡 散布地 東本本地 東本本地 東本本地 東本本地 東本地 東本地 東本	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 別 遺 構。 (現文土器。 土師器 土師器 土師器	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時 代 土師器 縄文 石器・ 縄文・平安 平安 平安 者:両磐土地改良事業所 遺物 時 代 後・晩) 縄文 縄文	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町字唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世 備 調査期日 世 備 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見	考 平成8年7月231 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2 第15 No	NF66-1284 表 ふるさと 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0204 ME45-0204 要 広域営農 選渉コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育成	館 I 養道緊急整備店 遺 跡 名 唐戸崎 森下 西地農道整備事 遺 跡 名 焼切	集落跡 戸崎地区関連	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土節器 土節器 土節器 別 遺 構。 須 改 本器 (近 有 長	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町子唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世 備 調査期日 世 備 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見	考 平成8年7月23日 考 9 平成8年8月21日 考 9 年8月22日~29日 考
第13 Na 1 2 3 4 5 第14 Na 1 2 第15 Na	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広域営農 選渉コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育別 選渉コード NF81-2153	館 I 養道緊急整備店 遺 跡 名 - 店戸崎 - 森下 - 西地農道整備事第 遺 跡 名 - 焼切 - 成基盤整備事業 - 遺 跡 名	集落跡 戸崎地区関連	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 (別 遺 構。 和 文土器 (中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時代 土師器 縄文 石器・縄文・平安 平安 平安 イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 中関市荻荘宇焼切 一関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 所 在 は 千庭町奥玉字刈屋野	世 備 調査期日 世 備 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見	考 平成 8 年 7 月23 6 考 7 月23 6 考 8 月21 6 考 8 月22日~29 6 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2 第15 No 1 2	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広坡営農団 選跡コード NE93-1295 表 担い手育 選跡コード NF81-2153 NF81-2172	館 I 養道緊急整備店 遺 跡 名 - 店戸崎 - 森下 - 西地農道整備事第 遺 跡 名 - 焼切 - 成基盤整備事業 - 遺 跡 名	集落跡 P崎地区関連	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 力 遺 構。 和文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 別 遺 構。 和文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 別 遺 構。 和文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	中) 縄文 花巻土地改良事業所 遺物 時代 土師器 縄文 石器・縄文・平安 平安 平安 イン イン イン イン イン イン イン イン イン イン	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町子唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世 備 調査期日 世 編 変期日 世 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見	考 平成 8 年 7 月23 E 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2 第15 No 1 2	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広坡営農団 選跡コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育 選渉コード NF81-2153 NF81-2172 NF81-2173	館 I 養道緊急整備店 遺 跡 名 - 店戸崎 - 森下 - 西地農道整備事第 遺 跡 名 - 焼切 - 成基盤整備事業9 - 遺 跡 名 - 花貫	集落跡 下崎地区 関連 撤布地 集落跡 散布地 集落跡 散布地 散布地	別 遺 構。 網文土器(遺跡一覧 事業者: 別 遺 構。 組文土器。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 (別連遺跡一覧 事業。 別 遺 構。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 力 選 構。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 (別 支 構。 組文土器。 土師器 土師器 土師器 土師器 (別 支 構。 組文土器。 (別 支 構。 組文土器。 (別 五 近 本 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 中関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 所 在 は 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字花貫 千庭町奥玉字金取沢	世 備 調査期日 世 備 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見	考 平成 8 年 7 月231 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2 第15 No 1 2 3 4	N F 66 - 1284 表 ふるさと別 選渉コード M E 45 - 0357 M E 45 - 0259 M E 45 - 0204 M E 45 - 0206 表 広坡営農団 選跡コード N E 93 - 1295 表 担い手育成 選渉コード N F 81 - 2153 N F 81 - 2172 N F 81 - 2173 N F 81 - 2185	館 I 養道緊急整備店 遺 跡 名 - 店戸崎 - 森下 - 西地農道整備事第 遺 跡 名 - 焼切 - 成基盤整備事業9 - 遺 跡 名 - 花貫	集落跡 下崎地区 関連 散布地 集落跡 散布地 集務 散布地 散布布地 散布布地 散布布地 散布布地 散布布地 散布布地 散布地地 散布地地 散布地地 散布地地 散布地地	別 遺 構 ·	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 中関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 所 在 は 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字花貫 千庭町奥玉字金取沢 千庭町奥玉字花貫	世 備 調査期日 世 編 次 調査期日 世 新規発見	考 平成 8 年 7 月23 6 考 7 月23 6 考 8 月21 6 考 8 月22日~29 6 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2 第15 No 1 2 3 4 5	N F 66 - 1284 表 ふるさと別 選渉コード M E 45 - 0357 M E 45 - 0259 M E 45 - 0204 M E 45 - 0206 表 広坡営農団 選跡コード N E 93 - 1295 N E 93 - 2205 表 担い手育成 選渉コード N F 81 - 2153 N F 81 - 2172 N F 81 - 2173 N F 81 - 2173 N F 81 - 2185 N F 81 - 2193	館 I 機道緊急整備店 遺 跡 名 店戸崎 森下 団地農道整備事 遺 跡 名 焼切	集落跡 厚崎地区 關連 散布地 集	別 遺 構 ·	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 中関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 一関市荻荘字焼切 所 在 は 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字花貫 千庭町奥玉字金取沢	世 備 調査期日 世 編 変期日 世 新規発見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見 新規発見	考 平成8年7月23日 考 第 8 年 8 月21日 考 8 年 8 月22日~29日 考
第13 No 1 2 3 4 5 第14 No 1 2 第15 No 1 2 3 4 5 6	NF66-1284 表 ふるさと別 選跡コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広域営農 選跡コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育 選跡コード NF81-2173 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2185 NF81-2193	館 I B	集落跡 厚崎地区 植	別 遺 構・	中)	北上市立花 所 在 1 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 小上市飯豊町 一関市萩荘字焼切 一関市萩荘字焼切 一関市萩荘字焼切 一関市荻荘字焼切 所 在 1 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字刈屋野 千庭町奥玉字之屋野 千庭町奥玉字花貫 千庭町奥玉字花貫 千庭町奥玉字七五田	世 備 調査期日 世 編 次 調査期日 世 新規発見	考 平成8年7月23日 考 第 8 年 8 月21日 考 8 年 8 月22日~29日 考
第13 No. 1 2 3 4 5 第14 No. 1 2 第15 No. 1 2 3 4 5	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0357 ME45-0209 ME45-0206 表 広坡営農 選渉コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育 選渉コード NF81-2153 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2185 NF81-2193 NF91-0105 NF81-2107	章 I 政道緊急整備店 遺 跡 名 - 店戸崎 森下 - 団地農道整備事 遺 跡 名 - 焼切 - 改基盤整備事業 遺 跡 名 - 花貫 I 七五田 沢前	集落跡 阿迪	別 遺構・	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 ホ上市飯豊町 所 在 は 一関市萩荘字焼切 一関市萩荘字焼切 一関市萩荘字焼切 一関市荻荘字が切 ・ は ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	世 備 調査期日 世 編 次 調査期日 世 新規発見	考 平成 8 年 7 月23 6 考 7 月23 6 考 8 月21 6 考 8 月22日~29 6 考
第13 No. 1 2 3 4 5 第14 No. 1 2 3 4 5 7 8 9	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広域営農団 選跡コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育成 選跡コード NF81-2153 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2193 NF81-2107 NF81-2107	館I 機道緊急整備店 遺 跡 名 店戸崎 森下 団地農道整備事勢 遺 跡 名 焼切	集落跡 関連	別 遺 構 ・	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 本	世 備 調査期日 世 編 次 見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見 可能性あ 調査期日 平成 8 新規発見 新規発見 新規発見	考 平成8年7月23日 考 り 平成8年8月21日 考 3年8月22日~29日 考
第13 Na 1 2 3 4 5 第14 Na 1 2 第15 Na 1 2 3 4 5 6 7	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広域営農団 選跡コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育成 選跡コード NF81-2173 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2193 NF81-2193 NF81-2200 NF81-2240 NF81-2220 NF81-2220	館 I 機道緊急整備店 遺 跡 名 店戸崎 森下 団地農道整備事勢 遺 跡 名 焼切	集落跡 関連	別 遺構・	中)	北上市立花	世 備 調査期日 世 編 次 調査期日 世 新規発見	考 平成8年7月23日 考 り 平成8年8月21日 考 3年8月22日~29日 考
第13 Na 1 2 3 4 5 第14 Na 1 2 第15 Na 1 2 3 4 5 8 6 7	NF66-1284 表 ふるさと別 選渉コード ME45-0357 ME45-0352 ME45-0204 ME45-0206 表 広域営農団 選跡コード NE93-1295 NE93-2205 表 担い手育成 選跡コード NF81-2153 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2173 NF81-2193 NF81-2107 NF81-2107	館I 機道緊急整備店 遺 跡 名 店戸崎 森下 団地農道整備事勢 遺 跡 名 焼切	集落跡 関連	別 遺 構 ・	中)	北上市立花 所 在 は 北上市飯豊町街道下 北上市飯豊町宇唐戸崎 北上市飯豊町森下 北上市飯豊町 北上市飯豊町 本	世 備 調査期日 世 編 次 見 新規発見 可能性あ 調査期日 世 新規発見 可能性あ 調査期日 平成 8 新規発見 新規発見 新規発見	考 平成8年7月23日 考 り 平成8年8月21日 考 3年8月22日~29日 考

_				1	1			
14	N F 81-1245	竹ノ下II	散布地	縄文土器・鉄滓・ 土師器	縄文・古代?	千厩町奥玉字竹ノ下		
15	N F 81-1256	土川原	散布地	縄文土器・石鏃	縄文	千厩町奥玉字土川原		
16	N F 81-2208	坂下	散布地		縄文器	千厩町奥玉字坂下		
17	N F 81-2226	長橋	散布地	縄文土器・炉跡・ 須恵器	縄文・平安	千厩町奥玉字天ケ森		
18	N F 81-0240	越田沢VII	散布地	縄文土器・カメ	縄文	千厩町奥玉字越田沢		
19	N F 81-1214	竹の下Ⅰ	散布地	土師器?・鉄滓	古代	千厩町奥玉字竹ノ下		
20	N F 81-0371		散布地	土師器	古代	千厩町奥玉字土樋	新規発見	
21	N F81-1377		散布地	縄文土器	細文	千厩町奥玉字日向	新規発見	
22	N F 81-2334	宿下	集落跡	縄文土器・石匙	縄文・平安	千厩町奥玉字宿下	1011909090	
23	N F81-2344		散布地	石鉄	細文	千厩町奥玉字宿下	新規発見	
24	N F81-2000	午生連館	城館跡	平場・空堀・帯郭・堀	中世	千厩町奥玉字熊ケ沢長者		
25	N F 82-1074	,	散布地	フレーク・須恵器	縄文・平安	千厩町奥玉字物見石	新規発見	
26	N F 82-2014	長者	散布地	3,50,0-111	縄文	千厩町奥玉字物長者	471707070	
27	N F 82-2054	7.1	散布地	石鏃	縄文	千厩町奥玉字三沢	新規発見	
28	N F 82-2029		散布地	フレーク	縄文	千厩町奥玉字松森	新規発見	
29	N F 82-2154	此ノ手館	城館跡		中世?	千厩町奥玉字八幡前	4717967676	
	1911 to 2011-00-00		A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR	│ 事業者:両磐土地改良事剪			月 平成 2	3年9月4日~5日
Na	遺跡コード	遺跡名	種別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	N F 82-1187	中の峠	散布地	組文土器	縄文	千厩町奥玉字松森	要範囲再	
_		1 0.522343		事業者:岩手北部土地改		1		3 年 9 月 19日~20日
Na	遺跡コード	遺跡名	種別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
-	K E 56-12898	生転	散布地	縄文土器	組文	玉山村下田字牛転	VH	*9
207.10	Annual Control	W (ASSE)	1400040000	│ ^{純民人上命} 尺東山線道路改良事業関連			個木粉口	平成8年9月27日
				There was some total				考
No.	遺跡コード	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所 在 地	備	
1	N E 57-0127	一字一石経塚	一字一石経塚	600 -te 1 000 tra 1 000 tra	近世	前沢町生母字西館	1基は調	
2	N E 57-0139	西館	城館跡	縄文土器・堀・土塁・郭	縄文・中世	前沢町生母字西館		
3	N E 57-0154	南在	散布地	縄文土器・石器	縄文	前沢町生母字南在	T - 4 0 6 7	
				一覧 事業者:東北農政局		PORT AND RESERVED AND ADDRESS OF THE PROPERTY	T .	9月27日~10月4日
No.	遺跡コード	遺跡名	種 別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	N E 22-2237	宮坂	散布地	縄文土器	縄文	胆沢町若柳字宮坂		
2	N E 22-2267	横沢原	散布地	縄文土器	縄文	胆沢町若柳字横沢原		
3	N E 26-0256	駒形神社公園	散布地	縄文土器(中期)	縄文	水沢市東上野町		
4	N E 26-0269	東上野	散布地	縄文土器(中期)	縄文	水沢市東上野町		
5	N E 36-1297	北館	環濠屋敷・散布地	土師器	古代・中世	前沢町古城北館		
6	N E 46-1297	安倍館	城館跡		中世	前沢町宮内安倍館		
第20	表 盛岡広域都	8市計画及び雫?	5都市計画公園事業 9	9・7・1号御所湖広域公		- トキャンプ場整備関連遺跡-		T
					200 1000	事業者:盛岡土木事務所		平成8年9月30日
No.	遺跡コード	遺跡名	種 別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	L E 23-1129	町場館	城館跡・集落跡	郭・土塁	縄文・中世	零石町西安庭字下戸沢		
2	L E 23-1220	町場IV	集落跡	土師器	縄文・古代	雫石町西安庭字小矢川		
3	L E 23-1147		散布地	剝片	縄文	零石町西安庭字小矢川	-	
4	L E 23-1250	町場III	集落跡	土師器	古代	雫石町西安庭字広瀬		
第21			亦一覧 事業者:千層				調査期日	平成8年10月4日
Nα	遺跡コード	遺跡名	種 別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	L E 80-2109	関上	散布地	縄文土器・石鉄	縄文	千厩町字磐清水関上		
第22	表 緊急地方道	直整備事業(市 町	可村道整備代行)関連	車遺跡一覧 事業者:二戸	土木事務所		調査期日	平成8年10月15日
No.	遺跡コード	遺跡名	種 別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	I F 62-2395	館	城館跡	堀	中世	軽米町大字軽米字尾田		
第23	表 北上川上流	流域下水道事刻	業関連遺跡一覧 事刻	業者:北上川上流流域下ス	k道事業所		調査期日	平成 8 年10月17日
No.	遺跡コード	遺跡名	種 別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	N E 06-0297	古館	城館跡	堀・土塁	中世	石鳥谷町小森林地内		
第24	表 担い手育成	龙基盤整備事業 法	工刺市原体地区関連	貴跡一覧 事業者:江刺風	集林事務 所		調査期日	平成 8 年10月24日
Nα	遺跡コード	遺跡名	種 別	遺構・遺物	時 代	所 在 地	備	考
1	N E 08-2047	下醍醐	散布地	縄文土器・フレーク・ 須恵器	縄文・古代	江刺市田原字荒川		
2	N E 08-2027	高野前	散布地	土師器	古代	江刺市田原字高野前		
3	N E 08-1172	東館	城館跡		中世	江刺市田原字原体	伝承地	
4	N E 08-1146		散布地	土師器	古代	江刺市田原字山館		N E 08-1135と 可能性あり
			散布地	土師器	古代	江刺市田原字原体	新規発見	

第25	表 開拓地整備	請事業小松山地[区関連遺跡	亦一覧 事	業者:宮古	也方振興局農	政部					調査期日	平成8年11月1日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	别	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
1	K F 36-2212	小松IV	散布地		縄文土器	(中期)	縄文		岩泉町門雪	字下見内川			
2	K F 36-2259	小松 I	散布地		縄文土器		縄文		岩泉町門等	字下見内川			
3	K F 36-2265	小松III	散布地		縄文土器	(中期)	縄文		岩泉町門等	字下見内川			
4	K F 36-2269	小松II	散布地		縄文土器	- Banazaway - 1	縄文		岩泉町門等	North American Company			
第26	表 一般国道2	83号仙人峠道路	改築事業	関連遺跡一	覧 事業者	: 東北地方	建設局三	陸国道エ	事事務所	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		調査期日	平成 8 年10月30 E
No.	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構	• 遺物	時	升	所	在	地	備	考
1	MG70-1169		散布地		上師器		平安		釜石市甲-	子町関沢		新規発見	
2	MG70-1175								釜石市甲-	子町関沢		可能性あ	ŋ
3	MG70-1088	洞泉	城館跡	• 散布地	縄文土器(也	縄文・	中世	釜石市甲-	子町洞泉		範囲拡大	
4	M F 79-1365		散布地		縄文土器		縄文		釜石市甲-	子町砂子渡		1373を分	割
5	M F 79-1361	大松I	散布地		縄文土器		縄文		釜石市甲-	子町第3地	割	1381を統	合
6	M F 79-1361	砂子渡	集落跡	• 生産遺跡	縄文土器	• 製鉄跡	縄文・	近世	釜石市甲-	子町砂子渡		鋳銭場跡	あり
7	M F 79-2335	大松V	散布地		縄文土器		縄文		釜石市甲	子町第3地	[割]	範囲移動	
第27	表担い手育の	· 戈基盤整備事業?	江刺市高和	含地区関連	貴跡一覧 3	事業者:江東	-	新所		2 49-452 22	調査	期日 平成 8	8年11月6日~7日
No.	遺跡コード	遺跡名	榧	别	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
1	M E 96-0399		散布地	5005-15	土師器・	頁恵器	古代		江刺市稲澤	顏字広岡前		新規発見	
2	M E 96-0377	十三	散布地		フレーク・土	師器·須恵器	縄文・	古代	江刺市稲澤	育字大文字	:		
3	M E 96-1331		散布地		土師器		古代		江刺市稲澤			新規発見	
4	M E 96-1352		散布地		縄文土器	• 土師器	縄文・	古代	江刺市稲刻			新規発見	
5	ME96-1381	沼館	城館跡		井戸丸太		中世		江刺市稲刻	新字沼館			
6	M E 96-2304	別当	散布地		土師器		古代		江刺市愛知			1	
7	M E 96-2322		散布地		土師器		古代		江刺市愛知			新規発見	
8	M E 96-2355	駒込	城館跡		土師器		古代		江刺市愛知	2 N. S. S. S.	2	11707070	2
第28	表 一般国道2	83号仙人道路峙	道路改築	事業関連遺	跡一覧 車	業者:東北		局三陸国				調査期日	平成8年12月9日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構	• 遺物	時	代	所	在:	地	備	考
1	MG70-1175	10 000 400	城館跡		堀?		中世		_	子町字関沢		新規発見	
第29	表 低コストイ	L水田農業大区i	画ほ場整備	備事業新堀地		亦一覧 事業	100	*土地改				202000000000000000000000000000000000000	平成8年12月12日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	别		• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
l	L E 87-1168	宝木I	散布地	10.00	縄文土器		細文		石鳥谷町=	10000			
0	I Doz 1105	P-1-11	**********		縄文土器	土師器・	ton 1	1.75		N TANKSHALAMA			
2	L E 87-1197	宝木II	散布地		須恵器		和[义	古代	石鳥谷町雪	子新堀第15	地割		
第30	表 低コストイ	k水田農業大区i	画ほ場整備	備事業新堀5	也区関連遺紀	亦一覧 事業	者:花卷	*土地改	良事業所			調査期日	平成9年1月8日
No.	遺跡コード	遺 跡 名	種	別	遺構	• 遺物	時	H	所	在	地	備	考
1	L E 97-0283		集落跡		縄文土器	• 石器	縄文		石鳥谷町5	字新堀第50	地割	新規発見	
第31	表 低コストイ	比水田農業大区i	画ほ場整備	備事業新堀	地区関連遺	亦一覧 事業	者:花卷	*土地改	良事業所			調査期日	平成 9 年 2 月25 E
Nα	遺跡コード	遺 跡 名	種	別	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
1	L E 87-2299	上沢田II	散布地		縄文土器	• 土師器	縄文・	古代	石鳥谷町生	字新堀第64	地割		
第32	表 一般県道る	5川水沢線福原5	地区道路。	收良工事関連	車遺跡一覧	事業者:水	沢土木町	務所				調査期日	平成 9 年 2 月27日
Nα	遺跡コード	遺 跡 名	榧	別	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
1	N E 26-0175	福原	集落跡		縄文土器 須恵器	土師器・	縄文·	平安	水沢市福原	泵		範囲拡大	
第33	表 短大地区	2.地造成事業関	車遺跡一覧	電 事業者	: 岩手県住	2供給公社						調査期日	平成 9 年 2 月28日
No.	遺跡コード	遺跡名	種	別	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
1	L G 43-0357	八木沢古館	城館跡		堀跡等		中世		宮古市八ス	卜沢地内			
2	L G 43-0338								宮古市八ス	大沢地内		可能性あ	ŋ
第34	表 荒廃砂防	事業関連遺跡一 5	6 事業者	皆:二戸土2	木事務所		_					調査期日	平成9年3月6日
Nα	遺跡コード	遺跡名	種	别	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考
1	J E 15-0344	梅の木沢	製鉄		鉄滓		近世		軽米町小軸	圣米		新規発見	0
萬35	表 国道 4 号护	太幅工事関連遺2	弥一覧 專	事業者:東	比地方建設/	司岩手工 事事	務所					調査期日	平成 9 年 3 月25日
Nα	遺跡コード	遺 跡 名	榧	別	遺構	• 遺物	時	代	所	在	地	備	考

IV 貝塚調査

岩手県内貝塚調査事業

標記事業は平成7年度より3ケ年計画で実施しており、今年度は2ケ年目にあたる。7年度は、県内90か所の貝塚のうち約半数にあたる48貝塚について表面踏査を中心として分布調査を実施し、遺跡範囲や内容の把握につとめた。またもっとも多くの貝塚が分布している気仙地方に所在する貝塚のうち、縄文時代前期~中期の大陽台貝塚と後期~晩期の獺沢貝塚については、とくに詳細な内容確認が必要であると考えられたことから、地形測量調査や試掘調査を実施している。

8年度は、7年度の調査成果を基に未了部分の表面踏査を継続したほか、下記の3貝塚について詳細調査を実施した。

高倉貝塚 (OE58-2396) 西磐井郡花泉町高倉地内

白浜貝塚 (OE47-2391) 西磐井郡花泉町涌津字台地内

石崎貝塚 (OE58-1002) 西磐井郡花泉町永井字鴻ノ巣地内

これらの貝塚はいずれも岩手県の最南端の平野部に位置し、この付近から宮城県北部地域にかけて、更新世の温暖期には低地部の至る所で湖沼が形成されていたようである。そのため、縄文期の淡水・汽水性の貝塚が数多く所在している。この種の貝塚として、岩手県内では、古く大正末期から昭和初期にかけて小田島禄郎による花泉町内貝塚の調査が実施された後、昭和30年代から40年代に調査が行われた貝鳥貝塚が知られていたが、その後調査例がなく、分布等について不明な部分が多かった。このことから、8年度の貝塚調査事業による詳細調査をこの花泉地域で実施した。

3 貝塚のうち、石崎貝塚については当初縄文期の貝層と見込まれた箇所が、試掘を実施した結果近年のご

第106図 花泉町高倉貝塚調査区位置図

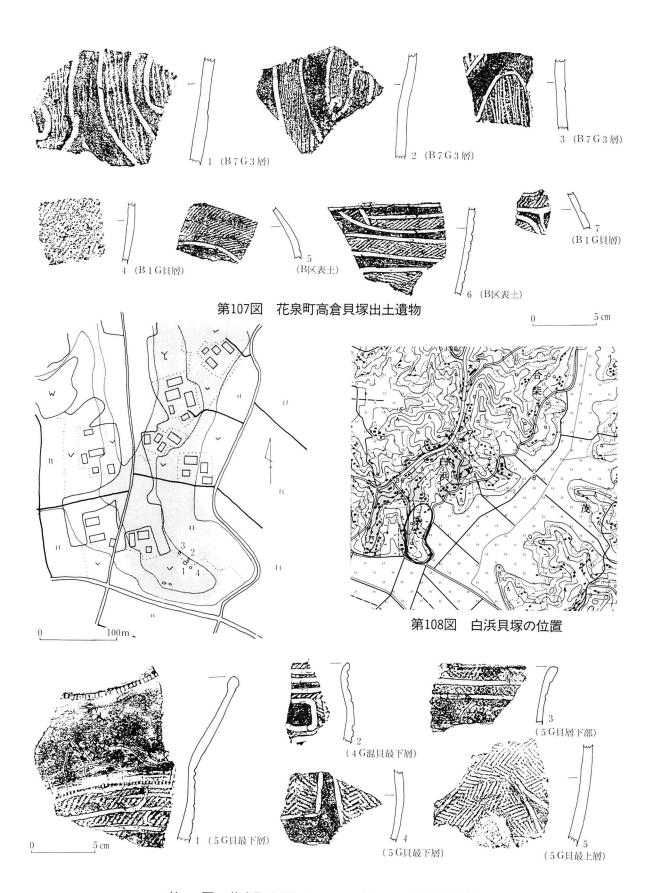
見込まれた箇所が、試掘を実施した結果近年のご み捨て場である可能性が高まったため、詳細な分

布調査は別途実施することとした。

高倉貝塚は花泉町の南西部の宮城県境にごく近い丘陵尾根の最先端部に位置している。現況は畑地のほか、山林や宅地となっており、南西から北西側の畑地を中心に遺物が採集できる。標高約15~25m。今回の調査は、従来不明確であった貝層の所在確認と、遺跡自体の広がりの把握を主な目的としている。

調査区を暫定的にAからCの3地区に区分している。A区は南西側の畑地で、西側に小さく尾根状に張り出している。その頂部から南北方向にゆるやかに傾斜しており、縄文時代後期の土器片が散布している。この地区では2m四方のグリッド1か所のみ試掘した。試掘箇所が山際の傾斜変曲

第105図 高倉貝塚の位置



第109図 花泉町白浜貝塚調査区位置図及び出土遺物

点に近い部分であったためか、黒褐色土層が薄く、遺物もほとんど出土していない。

A区北側の1段低い畑地をB区と仮称した。A区畑地とは1m以上の比高差がある。この地区では北側が果樹園となっているが、南側では縄文土器片がやや多量に採集できる。まず、西端段丘崖近く(1)、東側の山際(2)、さらに地形形成を観察するため、東側の崖面(3)の3か所にグリッドを設定した。このうち、(1)において、表土直下に良好な遺物包含層が確認されたことからさらに東側に拡張したところ(4)、破砕貝・魚骨を含む混貝土層が確認された。(3)では、崖面を垂直方向にクリーニングし、土層の堆積状況を確認した結果、2m以上に及ぶ貝層を含む遺物包含層が確認された。このことから、C区との境界部分の斜面は、本来、より緩やかな斜面であって、厚い遺物包含層が形成されたものと考えられる。C区は全体で7か所のグリッドを試掘しているが、いずれも遺物の出土量は多くなく、地山までも地表から40cm前後であった。

106図にはB区からの出土遺物を図示している。縄文時代後期初頭に属する資料が最も多く、後半から終末 にかけての資料がそれに次いでいる。

白浜貝塚は花泉町南端部に位置している。標高約15m。貝鳥貝塚の東方約1kmの地点である。高倉貝塚と同様の立地で、南東向き尾根の先端とその裾部分に遺跡が形成されている。今回は過去の調査などで貝層が確認されている部分、及び貝層が所在する可能性の高い部分について、2m四方のグリッドを6か所設定して調査を実施した。

北側斜面に設定した $1\sim3$ のグリッドでは、3 Gよりオオタニシ、イシガイを主体とする貝層が約 1 mの厚さで検出された。この層の下部にはさらに貝を含まない遺物包含層が形成されている。1 G及び 2 Gでは、貝層は確認されず、黒褐色の遺物包含層となっている。南側斜面には $4\cdot5$ Gを設定した。このうち、5 Gでは厚さ $20\sim30$ cmの貝層が確認されている。層を構成している貝の種類は、3 Gと同様である。出土遺物より、いずれの貝層も縄文時代後期中葉から後半期に形成されたものと考えられる。

以上のほか、次頁の63貝塚について各調査員による分布調査を実施している。これらのうち、新たに貝層 の存在が確認されたのは37貝塚である。

平成8年度貝塚調査員

九戸地区 千葉啓蔵・佐々木和久、下閉伊地区 田鎖康之・高橋憲太郎、上閉伊地区 花石公夫、 気仙地区 金野良一・佐藤正彦、両磐地区 佐々木繁喜、全県 熊谷常正・浜田宏・日下和寿 この調査結果の詳細については、平成9年度分の調査内容も含めて別途報告を予定している。

平成8年度貝塚分布調査一覧

Nα	遺跡名	時 代	地区	所 在 地
1	広内遺跡	縄文	九戸	九戸郡野田村広内
2	根井貝塚	縄文	11	" 玉川
3	堀内机遺跡	縄文	n	普代村堀内机
4	堀合館跡	古代	下閉伊	宮古市千徳
5	近内中村遺跡	縄文	11	" 大字近内字中村
6	近内館跡	奈良・平安	"	川 踊場
7	島田遺跡	奈良・平安	"	〃 磯鶏字島田
8	黒森町Ⅰ遺跡	近世	"	〃 黒森町
9	下在家Ⅱ遺跡	縄文・近世	"	〃 崎鍬ヶ崎下在家
10	白石遺跡	縄文	n	ッ 白石
11	細越【遺跡	平安	n	″ 田代字半沢
12	赤前V柳沢遺跡	古代	n	ル 赤前字柳沢
13	赤前IV八枚田遺	縄文・弥生	n	" 八枚田
14	金浜館跡	縄文・中世	"	// 金浜西角地
15	赤なしが沢遺跡	縄文	"	" 大字重茂堺の神
16	千鶏遺跡	縄文	"	ッ 千鶏上野
17	小沢貝塚	縄文・平安	"	〃 小沢
18	(寺山) 遺跡	縄文	"	下閉伊郡田老町寺山
19	大浦崎遺跡	不明	"	" 山田町
20	新道貝塚	縄文	"	" 新道
21	川半貝塚	縄文 (中)	"	カー 川半
22	大洞貝塚	不明	"	〃 田の浜
23	羅賀弁天貝塚	縄文 (後)	"	〃 田野畑村羅賀
24	茂師貝塚	縄文・弥生	11	# 岩泉町小本茂師
25	ヤカタ浜貝塚	縄文 (中・晩)	上閉伊	釜石市泉
26	鳥島貝塚	縄文 (後)	気 仙	陸前高田市小友町字鳥島
27	矢の浦Ⅰ遺跡	縄文·近世	"	ッ 字矢の浦
28	獺沢貝塚	縄文 (晩)	"	〃 字獺沢
29	船荒 I 遺跡	縄文(前)	11	陸前高田市広田町船荒
30	大陽貝塚	縄文 (前・中)	"	ッ 字大陽
31	大陽台貝塚	縄文 (前・中)	n	ッ 字大陽
32	越田遺跡	縄文	n	ッ 字越田

Nα	遺跡名	時 代	地区	所 在 地
33	中沢浜貝塚	縄文・弥生	"	ッ 字中沢
34	久保貝塚	縄文 (後・晩)	"	ッ 字久保
35	金室貝塚	縄文 (晩)	11	ッ 字集
36	岩倉遺跡	縄文 (後期)	IJ	ッ 字岩倉
37	袖野I遺跡	縄文・平安	"	ッ 字袖野
38	(中沢) 貝塚	縄文 (中期)	"	<i>"</i> 字中沢
39	門前貝塚	縄文 (中・後)	77.	" 小友町字門前
40	堂の前貝塚	縄文 (中・後)	"	" 米崎町字堂の前
41	館貝塚	縄文 (中・後)	"	ッ 字館
42	松峯遺跡	平安・近世	"	ッ 字松峯
43	貝畑貝塚	縄文・平安	"	" 高田町字中和野
44	洞の沢遺跡	不明	"	ッ 字洞の沢
45	栃ヶ沢貝塚	不明	"	リ 字栃ヶ沢
46	牧田貝塚	縄文・平安	"	ッ 気仙町字牧田
47	二日市貝塚	縄文 (前〜晩)	n	ッ 字二日市
48	赤土倉貝塚	縄文	"	大船渡市末崎町赤土倉
49	鬼沢貝塚	縄文 (後期)	"	ッ 字山岸
50	細浦上の山貝塚	縄文 (中~晩)	n	ッ 字細浦
51	内田貝塚	縄文 (前・中)	"	ッ 字内田
52	下船渡貝塚	縄文 (晩)	"	〃 大船渡町字宮の前
53	長谷堂貝塚群	縄文・弥生	"	〃 猪川町字長谷堂ほか
54	中井貝塚	縄文・平安	"	〃 赤崎町字中井
55	沢田貝塚	縄文 (前・中)	"	リ 字沢田
56	白浜貝塚	縄文・弥生	両 磐	西磐井郡花泉町涌津字台
57	貝鳥貝塚	縄文・弥生	n	ル 油島字貝鳥
58	中神遺跡	縄文・弥生	"	り 日形字中神
59	貝がら谷地貝塚	不明	その他	岩手郡滝沢村滝沢11木賊川
60	秋浦II遺跡	縄文	"	〃 岩手町川口21-60
61	五庵Ⅰ遺跡	縄文 (晩期)	"	二戸郡浄法寺町駒ヶ峯字五庵
62	鶴田Ⅰ遺跡	古代	"	胆沢郡胆沢町南都田字鶴田
63	東裏遺跡	縄文 (晩期)	"	〃 衣川村下衣川字東裏
_	-		-	

V 写真図版



下似内遺跡発掘区全景



写真 2 下似内遺跡 1 号住居



写真3 下似内遺跡2号住居



写真4 下似内遺跡3号住居



写真 5 下似内遺跡 1 号土坑埋土断面



写真6 下似内遺跡1号陥し穴



下似内遺跡2号住居遺物出土状況



写真 8 島遺跡 2 号溝



島遺跡1号溝 写真9



写真10 島遺跡陥し穴状遺構



写真11 島遺跡柱穴状ピット

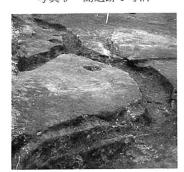


写真12 島遺跡3、5号溝



写真13 島遺跡 5 号溝

写真図版 1 平成 8 年度岩手県内遺跡発掘調査



写真14 九年橋遺跡調査風景



写真15 九年橋遺跡調査区西壁断面

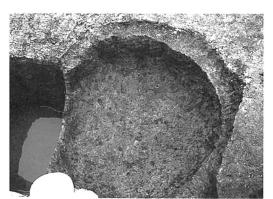


写真16 九年橋遺跡1号土坑完掘状況

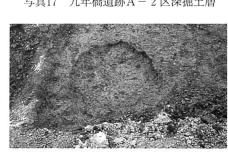


写真19 九年橋遺跡 4 号土坑完掘状況

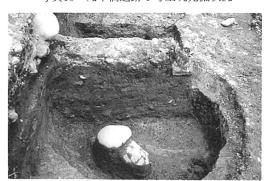


写真18 九年橋遺跡1号土坑埋土断面



写真20 九年橋遺跡 8 号土坑完掘状况



写真21 九年橋遺跡 6 号土坑完掘状況



写真22 九年橋遺跡 6 号土坑埋土断面



写真23 九年橋遺跡 4 号柱穴埋土断面

写真図版 2 平成 8 年度岩手県内遺跡発掘調査



写真24 九年橋遺跡2号柱穴埋土断面



写真25 九年橋遺跡3、4号柱穴

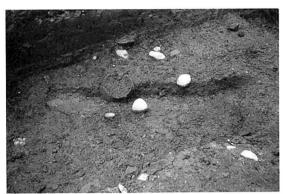


写真26 九年橋遺跡A-2~3区焼土等の状況



写真27 砂川遺跡1号溝完掘状況



写真28 砂川遺跡1号溝内長頸壺出土状況



写真29 砂川遺跡1号溝埋土断面



写真30 砂川遺跡 8 号柱穴埋土断面



写真31 砂川遺跡2号土坑完掘状況

写真図版 3 平成 8 年度岩手県内遺跡発掘調査



写真32 庫理遺跡 竪穴住居跡



写真33 庫理遺跡 遺物出土状況



写真34 庫理遺跡 陥し穴状遺構

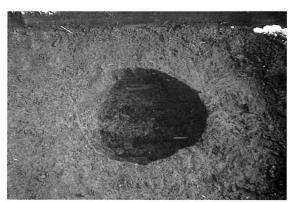


写真35 庫理遺跡土坑

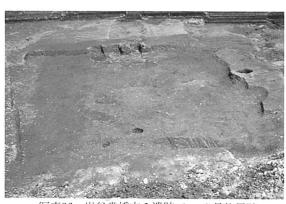


写真36 岩谷堂橋本 I 遺跡 1 · 3 号住居跡



写真37 岩谷堂橋本 I 遺跡 遺物出土状況



写真38

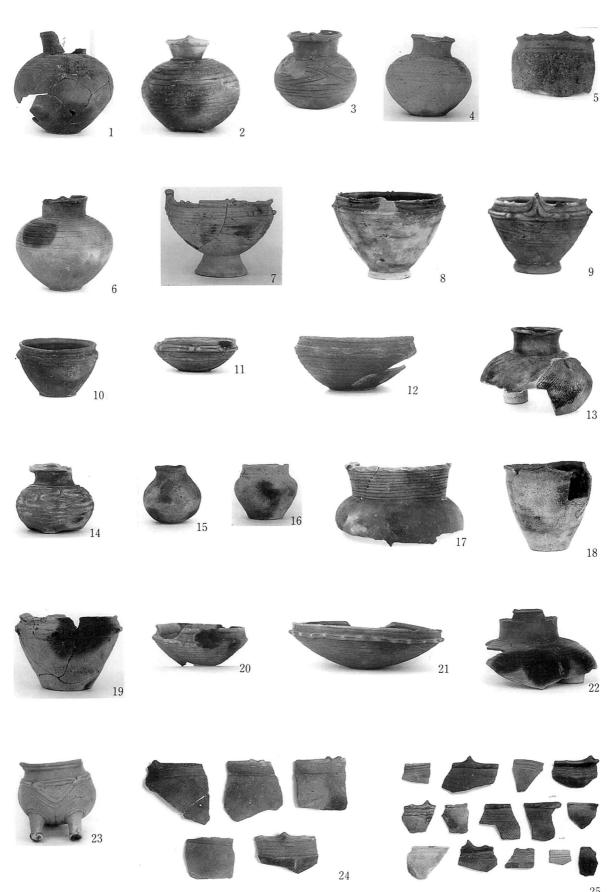


写真39 谷地館遺跡 溝跡



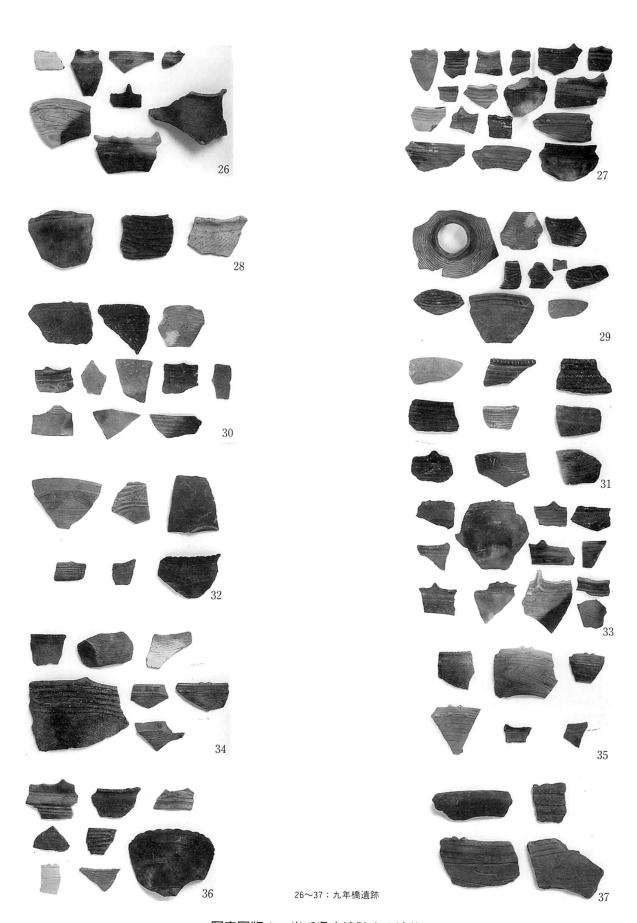
写真40 谷地館遺跡 柱穴状ピット

写真図版 4 平成 8 年度岩手県内遺跡発掘調査

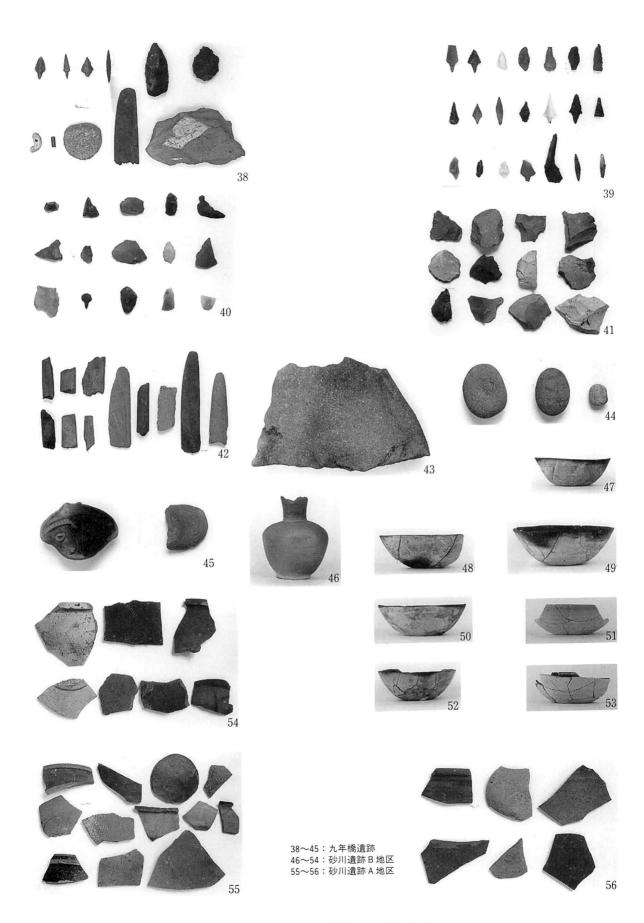


Ⅰ~25:九年橋遺跡

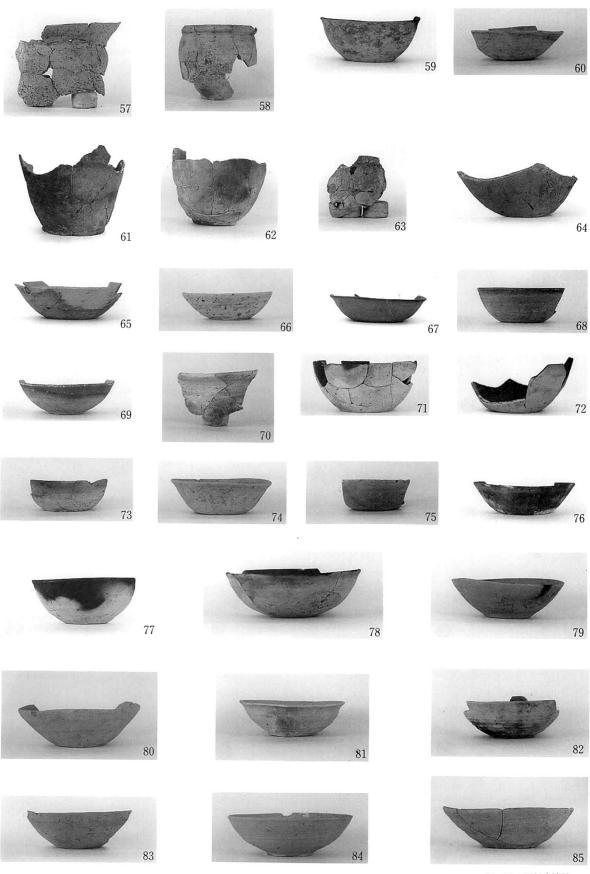
写真図版 5 岩手県内遺跡出土遺物



写真図版 6 岩手県内遺跡出土遺物

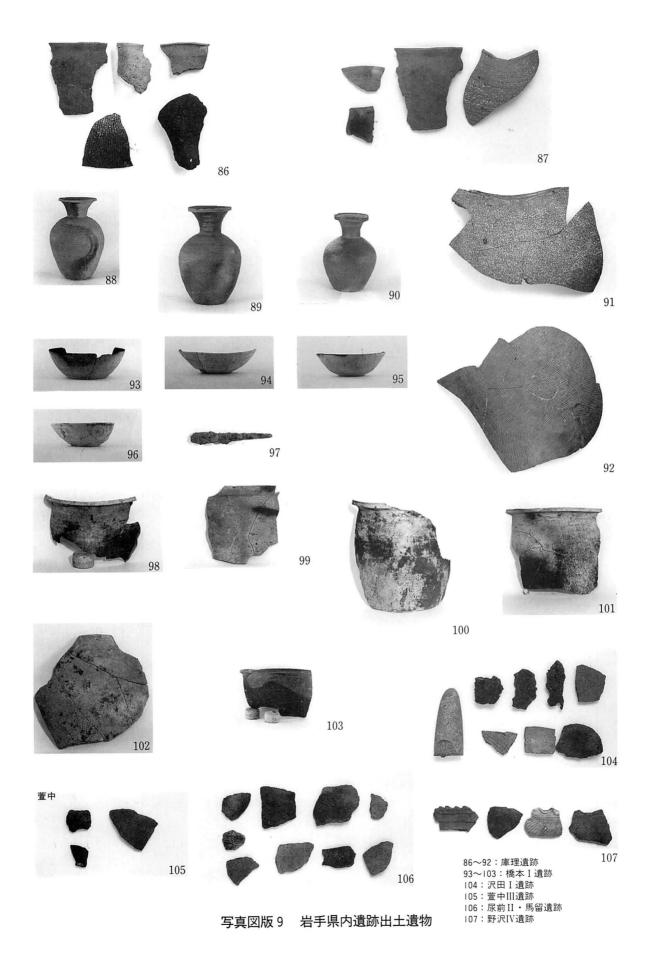


写真図版7 岩手県内遺跡出土遺物

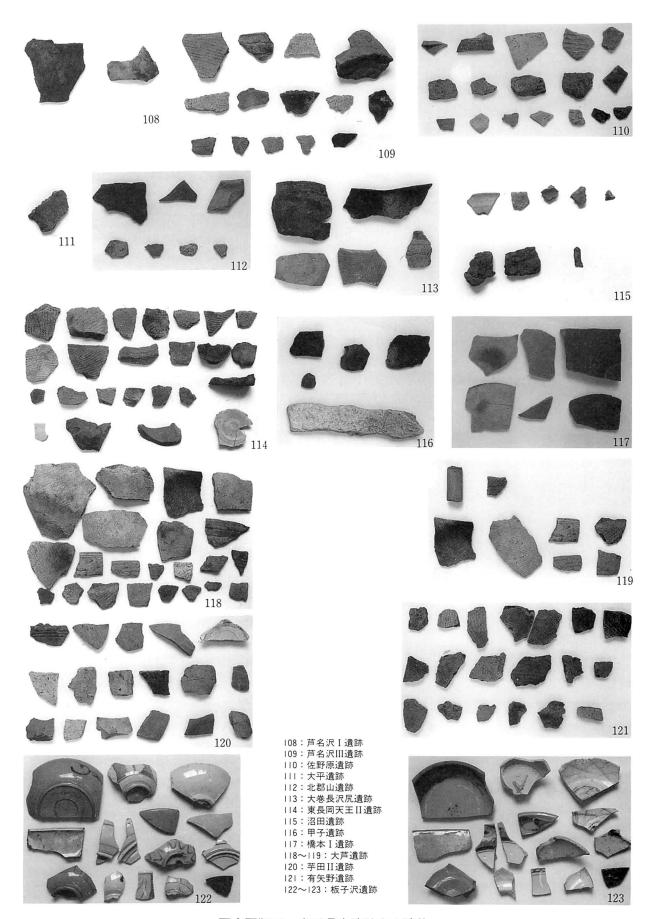


写真図版 8 岩手県内遺跡出土遺物

57~76:下似内遺跡 77~85:庫理遺跡



− 109 **−**



写真図版10 岩手県内遺跡出土遺物

岩手県文化財調査報告第99集 岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成8年度)

発行日 平成9年3月

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局文化課

印刷 (株)杜陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号